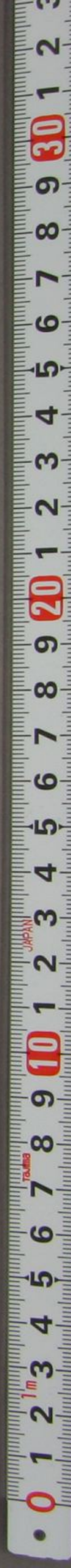


秘

事務簡捷ニ關スル意見

會計検査院	農商務省ノ部	遞信省ノ部	文部省ノ部	司法省ノ部	海軍省ノ部	陸軍省ノ部	大藏省ノ部	外務省ノ部	内閣ノ部
-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------

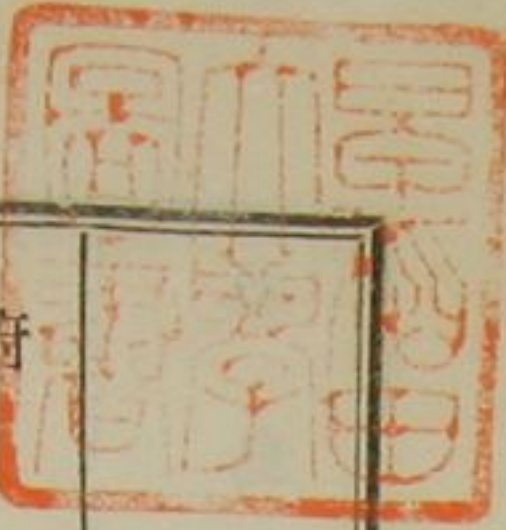


414  
A 513

事務簡捷ニ關スル意見

會計検査院	農商務省ノ部	遞信省ノ部	文部省ノ部	司法省ノ部	海軍省ノ部	陸軍省ノ部	大藏省ノ部	外務省ノ部	内閣ノ部
-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------

百二十五丁	七十三丁	六十九丁	四十三丁	三十七丁	三十五丁	二十九丁	十一丁	九丁	一丁
-------	------	------	------	------	------	------	-----	----	----



事務簡捷ニ關スル意見(内閣ノ部)

大正十一年四月  
大限侯爵贈

府縣	群馬縣	長野縣	長野縣	群馬縣
現行規定大要	○明治廿七年閣令第九號(勳章年金支給細則)第八條 賞勳局ニ通知ノコト	○明治十六年太政官第十七號達(金銀木盃金圓賜與手續)第二條 公益ノ爲メ金銀財産ヲ寄付シタル者ハ金銀木杯ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フハ其等差左ノ如シ 十圓未満褒狀 但一圓未満ハ褒詞ヲ以テ褒狀ニ換ユルコトアルヘシ	○明治十七年二月第二十二號達 金銀木杯金圓賜與手續第二條中 十圓未満ノ項ニ左ノ但書ヲ追加ス 但一圓未満ハ褒詞ヲ以テ褒狀ニ換ルコトアルヘシ	○明治十七年太政官達第一號官吏恩給令
改廢及新設要領	廢止 十圓未満褒狀トアルヲ十圓未満一圓以上褒狀ト改ム	廢止	廢止	四期交付ニ改ム
改廢及新設事由	明治廿七年閣令第九號賞勳年金支給細則第八條ニ依リ年金受領者居所ヲ轉セシキハ其都度大藏省并賞勳局ニ報告スルノ規定ナレトモ抑モ年金主管ニ付テハ當初大藏省ヨリ通知アルヲ以テ轉報ノキニ於テモ大藏省ノミニ通牒スルコトニ改正シ賞勳局ヘ報告ハ廢止スルヲ要ス 一圓未満ノ分ハ五錢十錢ノ寄附ト雖モ一々褒詞ヲ與ヘサルヲ得サルノ規定ニテ授受者共ニ手數煩雜ノミナラス實際勸賞ノ効力モ薄キニ由ル	前項改正スルニ由ル		明治十七年太政官達第一號官吏恩給法ニ依リ恩給權ヲ得タルモノハ同法第廿三條ノ規定ニ基キ年二期交付ナルモ明治廿三年法律第四十三號官吏恩給法同年法律第四十四號官吏遺族扶助法同年法律第四十五號軍人恩給法ニ依リ恩給權ヲ得シ者ハ二十三年閣令第三號官吏恩

事務簡捷ニ關スル意見

大正十一年四月

大限侯爵贈

長野縣	○明治二十九年法律第三十六號 官吏恩給法及官吏遺族扶助法 補則 郡書記ニ任用セラレタルトキハ 其間恩給ヲ停止ス	第五條中任用セラレノ下「俸給ヲ受ケ」ノ五字 ヲ挿入セラル、コト	給法施行規則第七條ニ依リ總テ年四期交付ニ付本令ニ 據ルモノ、交付期モ右閣令第三號ニ依ルコト、セハ受 恩給者ニ於テ至大ナル便益ヲ得ヘシト認ム仍テ如此改 正セラル、ヲ要ス
廣島縣	○明治廿三年閣令第三號官吏恩 給法施行規則 第七條 恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七日 十月一日ニ於テ其前三ヶ月分ヲ 大藏省ヨリ本人居住地ノ地方廳 ヲ經テ支給ス云々	恩給ハ本人居住地ノ地方廳ヲ經テ支給ストア ルヲ現役ニアルモノハ各所屬廳ヲ經テ支給ス ト改ム	補則第五條ニハ郡區書記ニ任用セラレタルトキハ其間 恩給ヲ停止ストアリ國庫支辨ノ官吏ハ官吏恩給法第十 二條ニ政府ヨリ俸給ヲ受クル間停止ストアリテ彼是權 衡ヲ得ス即チ一般官吏ニアリテハ其非職ヲ命セラレタ ルトキハ在官中ト雖モ俸給ヲ受ケサルノ故ヲ以テ恩給 ノ停止ヲ蒙ラサルモ郡書記ニ在リテハ然ラス其停止條 中單ニ任用云々トアリテ之カ除外例ナキヲ以テ非職中 ト雖モ在官者タル以上ハ恩給ヲ停止セラル、コト、ナ レリ是レ本文ノ挿入ヲ要スル所以ナリ
群馬縣	同 第九條 恩給ヲ受クル者他府縣ニ轉籍若 シハ寄留スルモハ從來ノ居住地 ノ地方廳及轉籍若クハ寄留地ノ 地方廳ニ其旨ヲ届出ヘシ(二項 三項略ス)	第九條ヲ舊居住地ノ地方廳ノミニ届出ノコトニ 改正シ三十日前ノ制限ヲ廢止	居所ヲ轉セシキ新舊地方廳ニ届出ヲ爲サシムルハ受領 者其者ノ手數ト不便トヲ感セシムルノミニテ敢テ經理 上支障ナキト認ムルニ由ル
福島縣	(同上)	舊居住地ノ地方廳ノミニ届出ルコトナスヘシ	恩給扶助料ノ受給者他ニ轉シタルトキハ新舊官廳ニ届 出ツヘシトアリ而シテ其届出ヲ得テ舊官廳ハ新官廳ニ 引繼ヲナシ之ヲ新官廳ニ於テ大藏省ヘ通知スヘキモノ ニ改正ヲ望ム

長野縣	○明治十六年太政官達第二十二 號 第七條 第二 上長官以上ノ武官、奏任 以上ノ文官ハ購讀ノ義務アリ	同達第七條ノ第二ヲ削除シ官吏ノ購讀義務ヲ 廢セントス	官報發行ノ當時ニアリテハ官吏ニ購讀ノ義務ヲ負ハシ ムルハ收支ノ計算上已ムヲ得サルノコトニ屬スヘシト 雖モ既ニ十餘年ヲ經過セシ今日ニ於テハ復發行當時ノ 如キコトアラサルヘシ假リニ尙ホ收支相償ハストスル モ官報ハ公布式トシテ國家カ發行スル以上ハ其費用ヲ 國家自ラ負擔スヘキハ當然ノコトナリ然ルニ今日ニ至 ルモ依然トシテ官吏ニ購讀ノ義務ヲ負ハシムルハ其當 ヲ得タルモノト謂フヲ得ス故ニ十六年太政官達第二十 二號第七條ノ第二ヲ削除セラレシト望ム
福井縣	○官報ニ關スル件 明治十六年第二十二號公達及同 年九月太政官文書局照會 第二條 官報ニ掲載スヘキ事項 ノ項目ニ對スル文書局照會ノ 地方報告事項並細目	地方報告事項並細目ヲ大ニ更正セラル、ヲ要 ス	官報登載材料ハ規定ノ事項及細目ヲ標準トシ勉メテ其 事實ヲ調査報告シ來レルモノ同一種ノ事件ニシテ各府縣 等シク登載セラレサルモノ少ナカラス是レ登載ノ時機 ト紙面ノ都合等ニヨリ取捨セラル、ナラント雖モ地方 廳ノ報告主任ハ僅ニ二三名ニ過キサルヲ以テ多クハ各 主務ノ課掛ヲシテ下調ヲ爲サシメサルヘカラサルニ由 リ報告上手數ヲ要スルハ二三主任ノミニ止マラサルニ 斯ク取捨一定ナラサルニ於テハ折角ノ手數モ無用ニ屬 スルニ付此際大ニ報告事項ノ項目ヲ明細ニ更正シ其更 正ノ項目及報告期ニ依リ廻送セル事實ハ各府縣等シク 登載シ其他臨時必要ノ事項トシテ報告シタルモノ、ミ ニ就キ取捨スルコトニ改メ勉テ報告上無益ノ手數ヲ省 カレンコトヲ望ム

<p>岐阜縣</p> <p>(新設)</p> <p>○權限裁判所設置ノ件</p>	<p>神奈川縣</p> <p>(同上)</p>	<p>島根縣</p> <p>○明治廿四年内閣書記官長照會第六百十六號</p>
<p>權限裁判所ノ設置ヲ望ム意見</p>	<p>法制ノ方法順序ニ關スル意見</p>	<p>内務報告例ト其調査ヲ一ニシ本様式ノ廢止ヲ要ス</p>
<p>行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルコトハ明治廿三年法律第四十八號行政裁判法第二十條ノ明文アリ而シテ同法附則第四十五條ニ權限裁判所ヲ設ケル迄ノ間ハ樞密院ニ於テ之ヲ裁定スル旨ヲ規定セラルルニ行政裁判所ニ屬スル訴訟カ行政官廳ノ權限ニ屬シ行政裁判所ノ權限ニ屬セストシ又司法裁判所ニ屬スル訴訟カ行政官廳若クハ行政裁判所ノ權限ニ屬シ司法裁判所ノ權限ニ屬セストスル爭議ニ關シテハ何等ノ成規ナキヲ以テ不都合ヲ感スルコト少ナカラス依テ明治廿五年十一月廿九日政府ヨリ貴族院ヘ提出相成タルカ如キ條文ヲ以テ權限爭議裁判所ニ關スル法律ノ制定ヲランコト切望ス蓋シ權限爭議ノ裁判所ヲ設置スルハ人文發達世運繁榮ナル現時ニ於テ行政上ノ整理ヲ圖ルニ最モ必要ナリト思料スルニ依ル</p>	<p>法律規則ハ其詳細ヲ細則ニ細則ハ之ヲ取扱手續ニ取扱手續ハ訓令ニ訓令ハ局課長ノ通牒ニ次第相讓ル是レ本簡ニ過キ未繁ニ及フモノニシテ從來ノ通弊ト謂フヘク編休其宜キヲ得サルニ似タリ思フニ細則ノ條章ニハ見テ以テ法律ト爲スヘキモノアリ訓令通牒ハ却テ細則ニ相反スル如キモノアリ而シテ一ノ法令出テ、十ノ細則訓令通牒之ニ伴フ爲ニ數者ノ間意義ノ支梧阻格アルハ蓋シ此ニ因ス疑義百端遂ニ伺ト爲リ照會ト爲ル其頻繁錯綜亦皆此ニ因セリ之ヲ要スルニ法律規則ノ條章ハ須ラハ詳細ナルヘシ簡短ナルヘカラス其レ斯クノ如クハ補則ナク訓令ナク亦通牒ナクシテ可ナリ夫レ法文明昭疑義ノ根ヲ絶ツニ於テハ執行官ノ便益甚タ寡少トセス爰ニ聊カ法律規則編成ノ牒ヲ一變セラレンコト企望ニ堪ヘス</p>	<p>内務報告例其他ニヨリ内務省ニ報告スルモノト調査ノ目的少シク異ルカ爲メ重複ニ調査ヲ要シ地方廳ノ如キ</p>

<p>大分縣</p> <p>○明治廿四年内閣書記官通牒第六百二十五號</p> <p>府縣統計材料様式</p>	<p>群馬縣</p> <p>○明治廿四年内閣書記官照會第五九四號</p> <p>統計材料調</p>	<p>群馬縣</p> <p>(同上)</p>	<p>秋田縣</p> <p>(新設)</p>
<p>府縣統計材料様式ヲ廢シ府縣統計様式ヲ設ケラレ度</p>	<p>第七表ヲ削ル</p>	<p>府縣官員及傭人員俸給調并市町村吏員月給階級別調ノ二項廢止</p>	<p>閣省ニ於テ府縣ヨリ徵スヘキ報告例目ヲ蒐集シテ之ヲ内閣訓令ト爲シ閣省報告例ヲ一定セントス</p>
<p>職員多カラシメ事務多端實ニ煩雜ニ堪ヘサルニ由ル</p> <p>府縣統計材料様式ヲ廢シ府縣統計様式ヲ設定セントスルハ今日ノ如ク府縣各々其表式ヲ異ニスルトキハ府縣ヲ通シテ同一ノ調査ヲナスコトヲ得且ツ様式ヲ設定スル上ハ内閣ニ於テ之ニ依リテ調査ヲナシ得ヘク大ニ手數ヲ省略スルニ由ル</p> <p>文部省ニ報告スル學事年報ト重複スルニ由ル</p>	<p>該表ヲ調製スルカ爲メ特ニ材料ヲ收集スルハ頗ル手數ヲ要スルヲ以テ内務報告例ニヨリ調製スル第三十表第三十一表トヲ以テ之ニ換ヘ該二表ヲ廢止シ内閣ヘハ内務省ヨリ回送アラシメコトヲ望ム</p>	<p>各省ニ於テ府縣ニ調査報告ヲ爲サシムル事ニ關シテハ明治六年十二月第四百九號公達及明治九年四月第四十號達アリシ處爾來閣省局ノ訓令通牒照會等ニ依リ府縣ニ於テ定期又ハ隨時ニ調査報告ヲ爲スモノ近年頻繁トナリ特リ其煩雜ニ堪ヘサルノミナラス或ハ訓令ニ依リ或ハ通牒照會ニ依リ調査報告ヲ爲サシムルノ命令方式モ區々ニ涉ルヲ以テ時ニ期限ヲ失シ事項主管ヲ誤ルコトナシトセス畢竟報告事項ノ夥多ナルト其確依スル命令ノ多岐ニ涉ル所以ニ外ナラサルヘシ又是等調査報告ナルモノハ中央政府ノ必要ニ出ルハ論ヲ俟タスト雖モ今ヤ處務簡捷ヲ主トセラレハノ時ニ當リ閣省ニ於テ格別必要ナキ者ハ斷然之ヲ廢シ必要欠ク可ラサルモノニ限リ閣省局ノ主管ヲ明カニシ内務報告例ノ如ク閣省報告例ナルモノヲ一定シ内閣訓令ヲ以テ之ヲ示達セラレ該例目外ノ事項ハ閣省ヨリ各別ニ府縣ヘ調査報告ヲ徵スルノ煩ナカラシメンコトヲ望ム</p>	<p>閣省ニ於テ府縣ヨリ徵スヘキ報告例目ヲ蒐集シテ之ヲ内閣訓令ト爲シ閣省報告例ヲ一定セントス</p>

埼玉縣	長崎縣	京都府	德島縣
○明治二十年二月十九日內閣書記官長通牒 內閣統計材料中市町村吏人員月給階級別	○明治十六年九月廿四日發第三〇五號 文書局長照會地方報告事項并細目	慣例 關省へ進達スル願書ハ可否共總テ意見ヲ添申スルコトヲ要ス	(新設)
様式ヲ改正シ内閣へ報告ヲ廢ス	凡ソ官報掲載上必要ノ事項ノミニ改定ヲ要ス	關省へ進達スル願書中意見ナキモノハ經由ノ印ヲ捺スル外意見ノ添申ヲ要セス	統計院設置ノ件
府縣ハ內務省ニ報告シ內務省ハ内閣ニ報告スルコトニ省略セラレンコトヲ望ム	明治十六年官報々告事項並ニ細則制定以後年月ノ經過ニ伴ヒ改廢加除少ラス且右事項ニ依リ一々報告スルモ實際官報掲載ノモノ甚少シ然レトモ其事項ニ規定アルモノハ假令掲載ト否トニ係ラス要不要ヲ問ハス又一々報告セサル可ラサル等ニテ爲メニ手數ヲ煩ハシ且郵稅費ニモ關係少ナカラサルニ由ル	可否共ニ意見ヲ付スルハ繁雜ナレハナリ	凡ソ行政上統計ノ必要ナルハ今更論スル迄モ無之其統計ニシテ動モスレハ其實ヲ得サルモノアルヤノ感ナキ能ハサルノミナラス其調査順序宜キヲ得ス徒ニ煩冗ヲ招クハ目下ノ一大缺點ト云ハサルヲ得ス然シテ其調査ハ事物ニ就テ方法ヲ異ニスヘキモ其大半ハ皆府縣廳ノ下關ヲ要セサルナシ府縣廳ニテハ各官廳ノ命令照會ニ應ジテ隨時之ヲ郡市町村ニ達シテ其材料ヲ徵セサルヲ得ス今日ノ實況ニテハ各官廳ノ調査疎密繁簡ノ程度ヲ異ニシ同一ノ事項ニシテモ甲省ノ分ト乙省ノ分トハ其目的同シカラス丙局ノ分ト丁局ノ分トハ年次ニ差異アリ其命令照會ノ都度郡市役所ヨリ町村役場ニ至ル迄一々其手數ヲ要セサルヲ得ス

栃木縣	(同上)	統計事務ノ統一ヲ要ス	需メテ之ヲ辨スルコト、セハ本院ニ蒐集セル材料ノ内ヨリ彼此參酌取捨シテ之ヲ湊合統計セハ一事物ニシテ再三材料ヲ徵スルカ如キ煩勞重複ヲ免カルヘシ内務ノ戶籍陸軍ノ徵發物件表文部ノ學事年報ノ如キモ本院ニテ之ヲ作リ其主務省ニ回付スルコト、セハ本院ノ統計專務者ノ慣熟敏捷ナル普通官吏ノ臨時之ニ任スルモノ、比ニアラスシテ其調査ノ精確ナルハ從前ノ統計ニ優ル萬々ナランカ然シテ統計院ニハ若干ノ統計技術官ヲ置キ師旅團裁判所監督署管理局府縣ニ數名ノ統計吏ヲ置キ統計ニ關スル事ハ總テ之ヲ掌理セシメ郡役所モ之ニ準シ市町村ニハ一名乃至二名ノ統計委員ヲ選任セシメ系統整然脈絡貫通シ常ニ相往復シテ互ニ講究スル所アレハ數年ヲ出テスシテ各官廳トモ手數ヲ省キテ統計ノ事見ルヘキモノアラン且統計院ニ於テハ各種ノ統計表中軍事其他秘密ニ屬スルモノヲ除キ院內一定ノ場所ニ於テ毎日時限ヲ刻シテ各種ノ統計表ヲ公衆ノ縦覽ニ供セハ國民モ其便ヲ得テ公益益ヲ收ムルコト少ナラサルヘシ
統計ノ政務百般ニ必要ナルハ今更敢テ喋々スヘキノ要ナシ而シテ時世ノ進歩ト共ニ百般ノ事物愈々複雑ニ赴キ隨テ亦統計ノ事項益々微細ヲ極メサルヘカラス然ルニ現今統計事項ノ蒐集方法區々ニシテ同一事項ノ統計ト雖モ各省各局各々希望ヲ異ニセリ或ハ其時期ヲ異ニスルアリ或ハ其方式ヲ異ニスルアリ而シテ郡市町村ヨリ縣廳ニ至ルマテ皆其區々ノ希望ニ從テ其材料ヲ需メサルヘカラス一事一件其手數ト日時ヲ要スル實ニ鮮少ナラサルナリ左レハ繁文省略ノ今日斯ル複雑ノ手段ニ出テテヨリハ寧ロ内閣ニ於テ各省ヲ通シタル統計材料ヲ蒐集編製シ以テ各省ノ需要ニ供スルコト、セハ一々統計ノ正確ヲ致シ一々統計事務ノ統一ヲ得所謂繁文省略ニ至ラントス之レ特ニ茲ニ希望スル所以也			

事務簡捷ニ關スル意見(外務省ノ部)

府縣	現行規程大要	改廢及新設要領	改廢及新設事由
大阪府 大阪府 福岡縣 鹿兒島縣	○明治十一年外務省達第一號 (海外旅券規則) 海外旅券ハ外務省及開港場府縣ニ於テ交付スルコト	海外旅券ハ外務省及其管轄地方廳ニ於テ交付スルコトニ改ムルコト	本件旅券ノ交付方ヲ外務省又ハ開港場府縣ニ限ラレタルハ當時ノ便宜ニ因ラレタルモノナルヘキモ實際ノ狀況ヲ觀ルニ本籍府縣ニ於テ證明ノ手續ヲ盡シ重テ又開港地ニ於テ交付ノ爲メ相當ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス畢竟重複ヲ免レス手續ノ煩雜ナル渡航者ヲシテ往々困難ヲ感セシメ一時開港地ニ寄留シ交付ヲ求ムルモノアルニ至レリ故ニ寧ロ其居住地ニ於テ交付スルコトトス
大阪府	○明治十年布告第二十七號 私備外國人居留地外住居ノ件ハ外務省ノ許可ヲ受クルコト	地方廳ノ許可ニ止ムヘシ	現今特ニ中央官廳ニ提起スルノ必要ナカルヘシ
熊本縣	○明治二十五年五月閣令第四號 在外公使領事ト通信スルニハ外務大臣ニ稟會又ハ稟請ヲ要スル件	公務上在外公使領事ト通信應答ヲ要スル場合ニ在ツテハ外務大臣ニ稟會又ハ稟請スルコトヲ廢シ各官廳ヨリ直接通信應答シ得ルノ捷路ヲ開レタキコト	方今海外貿易又ハ交通漸ク頻繁ニシテ且ツ敏捷ヲ要スル折柄ニ付或ル營業者ヨリ海外ノ狀況調査ノ件ヲ出願スルカ又ハ官廳ニ於テ取調ヲ必要ト認メ公益上最モ緊急ト認ムル件ハ道廳府縣等ヨリ直ニ在外公使領事ト通信應答シ方今ノ世說ニ後レス商機等ヲ知り得ヘキ捷路ヲ開カレンコトヲ望ムニ在リ
石川縣 (新設)		外國人取扱規程ヲ設ケラレタシ	外國人取扱方從來種々ノ通牒等アルノミニシテ取扱上甚不判明ナリ故ニ一定ノ規程ヲ設ケラレンコトヲ望ム

事務簡捷ニ關スル意見(大藏省ノ部)

府縣	現行規程大要	改廢及新設要領	改廢及新設事由
熊本縣	銀行ニ關スル意見 廿九年一月大藏省達第一四九號	銀行條例施行細則ニ依リ報告スル營業報告ニ 財產目錄貸借對照表ヲ公告シタル新聞紙名及 號數並年月日ヲ附記スルコトヲ該細則中ニ加ヘ 前大藏省達ヲ廢止セラル、	本達ノ要旨トスル所ハ公告シタルヤ否ヲ確ムルモノニ 在リトスレハ必シモ紙幅ノ大ナル新聞紙ヲ提出セシム ルニ及ハサルヘシ營業報告中ノ付記ニシテ尙疑ヲ存ス ルモノアラハ新聞紙ヲ特ニ提出セシメ又購入シテ調査 可然一般ニ之ヲ進達セシメルノ必要ナキモノト認ム 此等ノ手數ハ實ニ繁雜ナルヲ以テ地方官廳ニ於テ各適 宜ノ方法ニ依リ嚴重ニ監視スルコト、シ此手數ヲ省カ レンコトヲ望ム
兵庫縣	同上	廢止スヘシ	進達スルノ必要ナシ
宮城縣	同上	地方廳マテ差出サシムルコトニ改メタシ	政府ハ小資ノ銀行ノ設立ヲ望マレサル方針ナリト認ム ルヲ以テ之ヲ法文ニ顯ハシ置クニアラサレハ出願者ア ル毎ニ說示ヲ要シ繁ニ堪ヘス
兵庫縣	○廿三年法律第七十二號銀行條 例 銀行資本金額ニ制限ナシ	銀行資本金額最寡額ノ制限ヲ附スル事	農工銀行ノ業務ハ大藏大臣ノ監督サル、所ニシテ其指 揮ヲ承ケ之ヲ監視スルハ府縣高等官中ニ於テ命セラル ヘキ銀行監理官ノ任タルハ法文ノ明示スル所該法中別 ニ府縣知事トシテノ監督權ヲ認メス今官制上知事當然 ノ管理事務ト看做スヲ得ルト否ヤハ暫ク措キ監理官ノ 外他ニ相當ノ機關ナカルヘカラス何トナレハ銀行普通 業務ノ監視ハ法條ノ示ス所ニ從ヒ監理官能ク之ニ任ス ヘキモ銀行設立ノ目的ハ只其レ農工業ノ改良發達ヲ計 ルニ在リ故ニ一方ニ於テ其貸付ハ果シテ目的事業ノ資 本タリシヤ否又其資本ノ果シテ目的事業ニ向テ完全ニ 投下セラル、ヤ否若クハ資本供給ノ途アルニ拘ハラズ 事業ノ忽諾ニ付セラル、コトナキヤ否ハ最モ丁寧ノ注
岡山縣	同上	農工銀行監理ニ關シ技術官等ニ當ツル俸給額 増賦セラレタキ事	



岡山縣	○雜件 廿六年大藏省訓令第七十七號 諸貸付金取扱規程中据置貸ニ係ル債權ヲ保留セラル、ノ件	据置貸ニ屬スル債務者ニシテ到底返納ノ目的ナキ亦資如洗者又ハ失踪不明者ニ係ル債權ヲ棄捐ス	意ヲ要スルコト言フ俟タズ而シテ是等實況ノ查察及計畫其他特別ノ技術ヲ要スル事項ニ就テハ固ヨリ專門技師ノ學識ニ待タサルヲ得ス若シ創立ノ初ニ當リ監理ノ足ラサルモノアルカ爲メ業務一旦委辦センカ將來ニ影響スル所測ルヘカラサルモノアラン依テ今監理ノ機關トシテ別ニ土木農事ノ技師任用ヲ要スルヲ認ムルカ爲メ右俸給額及廳費旅費等相當ノ増加アランコトヲ望ム
大阪府	○廿二年訓令第八一二號	廢止	目下据置ニ編入シアルモノハ先般來數度精密ニ調査整理ノ結果失踪不明者ニアラサレハ無産ノ赤貧者ニ係ルモノニ過キスシテ到底身代回復ノ目的ナキモノ多シ此等ノモノニ對シ債權保存ノ行爲トシテ住居ノ移轉代替ノ如何等整理ノ手數ヲ要スルモ徒ニ煩勞スルニ過キスシテ其効果見ルヘキモノナキノ感アリ寧ロ此際十分ノ調査ヲナシ往年施行セラレタル八十餘年賦利引法ノ如キ手續ヲ以テ就中幾分ノ返納資力アリト認ムルモノハ努メテ義務ヲ履行セシメ返納ノ目的ナキモノハ棄捐ノ處分ヲ爲スノ便宜ナリト思考スルニ由ル
廣島縣	(新設) ○二十五年訓令第三十六號 諸拂戻及欠損補填金仕拂命令發行濟報告書	年金受領者支給主管廳ノ轉換ヲ要スルルハ新舊兩主管廳ニ届出ラナス事ニ改正セラレレンコトヲ要ス	本令ハ舊思給令實施中ノ發令ニ係リ新法施行以後ハ從前ノ如ク通知ノ必要ヲ認メス
山口縣	○廿六年十一月大藏省訓令第四	廢止	本報告モ亦前同様會計検査院へ呈出スル所ノ支出計算書ニ詳細ナル明細ヲ添付セルニヨリ經由ノ際照合セラレ、コト、爲シ報告ハ省略セラレタシ
高知縣	○廿六年十一月大藏省訓令第四	改正	支出證明上從來送金ノ分ニ對シテハ正當受取人ノ領收

三重縣	十號同年十二月內務省訓令第二十二號 仕拂命令發行手續	廢止	證ト金庫ノ領收證書トヲ提出セシモ重積證明ノ嫌アルヲ以テ何レカ一方ヲ以テ證明スルコトニ改正ヲ希望ス (廿六年會計検査院達第二號ト貫聯改正)
廣島縣	○廿七年大藏大臣達第九一九號 過誤拂々不足科目及年度違報告ノ件	廢止	府縣ニ於テ取扱フ大藏省所管經費ハ重ニ恩賞諸祿ナリ此恩賞諸祿仕拂ニ對シ誤拂過渡ヲ生シタルトキハ其金額及事由ヲ報告スルハ別ニ規程アリ又拂不足金ノ追給ヲナシタルキハ仕拂明細書ヘ掲記スルヲ以テ廢止セラレ、モ別ニ差支ナカラント思考ス
京都府	會計法第十八條第十九條	廢止	時効ノ長短ヲ定ムル固ヨリ確乎タル定則ナシト雖モ實際ニ於テハ現行ノ五ヶ年已ニ少シク長キニ過クルカ如シ又現今民度大ニ進ミ僅々ノ支拂金ハ手數ヲ厭フテ督促スルモ容易ニ受取ラサルノ狀況ナルヲ以テ其金額一圓以上ノモノハ國稅徵收法(第十七條)ノ例ニ倣ヒテ滿三ヶ年以内トシ其一圓未滿ノモノハ一ヶ年以内ニ短縮スレハ官民共ニ無用ノ手數ヲ省クヲ甚ナカラスト思考ス
長野縣	(新設)	廢止	現今ノ前金渡法ハ其前渡ヲ受ケタル官吏ハ勿論一ノ出納官吏トシテ其責任ニ屬スル決算證明ヲナシ検査院ノ検査判決ヲ受ケサルヘカラス然レモ僅少ナル金錢ヲ取扱場合迄モ一々此鄭重嚴確ナル方法ニヨルトキハ徒ニ手數ト費用トノミヲ要シ實務ノ上ニ於テ聊敏活ヲ欠クノ感アリ殊ニ電信柱敷地手當ノ如キ檢丁旅費ノ如キ又救助費ノ如キ一ノ債主ニ對スル金額各僅カニ十錢又ハ一圓内外ヲ出テスシテ之レヲ數十名乃至數百名ノ者ニ拂渡ス場合ニ於テ其總金額ハ少ナキモ其取扱時間ノ短カキ一週間内外ヲ出テス故ニ現今是等ノ支出ハ各府縣ニ於テモ往々便宜ノ取扱ヲナシ郡長等ニ總代人ノ名義ヲ付シ其支拂ヲ了セルモ嚴正ニ會計法ヲ解釋スルトキハ安シテ此方法ニ依ルヘカラサルモノアリ然ハトテ全

滋賀縣	東京府	宮城縣	三重縣	德島縣	
○預金ニ關スル件 (新設)	(新設)	廿二年勅令第六十號會計規則第三十五條但書ニ依リ仕拂命令ヲ金庫ニ送付スルヲ要ス	○廿六年十二月大藏省訓令第二千二百八十一號 金庫雜部金月計對照表證明ノ件	○廿六年大藏省令第三十二號 第六號書式仕拂命令	
在監人領置金預入ノ事	賞勳年金者及恩給者ニシテ金庫所在地内ニ居住スル者ニ對シ集合仕拂命令發付後其所在地外ニ轉居ノ者ニハ其集合仕拂命令ヲ以テ送金シ得ルノ手續ヲ設クル事	金庫所在地ニ於テ仕拂フヘキ集合仕拂命令ヲ發シタル後債主他ニ轉居シタルトキハ仕拂命令官ノ請求ニヨリ金庫ヨリ送金ヲ要スルコトニ追加セラレンコトヲ望ム	廢止	仕拂命令ノ原符ヲ廢ス	
在監人領置金ハ預金規則ニ依リ金庫ニ預入スルノ成規ナルモ金庫ト一里餘モ遠隔シ日々出納上實ニ容易ナラ	賞勳年金者ニシテ金庫所在地内ニ居住スル者ニ對シ集合仕拂命令發付後其所在地外ニ轉居ノ場合ニ於テハ誤拂過渡ノ例ニ準シ歳入ニ組込更ニ支出ヲナサ、ルヲ得ス然ルハ徒ラニ歳入ヲ増加シ歳出豫算ニ於テハ不足ヲ生スルノミナラス之レカ爲メ手續ヲ要スルコト少カラス故ニ一旦金庫所在地内ニ對シ集合仕拂命令ヲ發付シタル場合ニ於テハ仕拂命令官ヨリ金庫ニ請求スルモハ賞勳年金者ハ勿論恩給者トモ其所在地外ニ送金シ得ルノ手續ヲ設ケラル、ニ至ラハ其便益少カラサルヘシ	恩給及賞勳年金交付ニ際シ集合仕拂命令發付後債主他ニ轉居ノ場合往々アリ然レニ之レ等ノ場合ニ於テ送金スルノ規定ナシ爲メニ遠隔ノ地ニアリテハ債主ノ迷惑ハ勿論容易ニ交付ノ運ニ至ラス整理上差支ヲ生スル少ナカラス依テ此追加ヲ望ム	該表ハ當廳ニ於テ常ニ取扱ハサル書類ニシテ全ク金庫ヨリ差出シタルモノヲ閱覽スルニ止リ眞ニ儀式的ノ點檢ナルノミナラス正確ノ調査ヲナシ能ハサルヲ以テ府縣ニ於テ證明スルコトハ廢止セラレンコトヲ希望ス	然前渡法ヲ適用シ得サル場合亦少ナカラス故ニ是等少數ノ金額ニシテ多數ノ債權者ニ對スル仕拂ニ付テハ特ニ現金ノ前渡制ニ比シ一層簡易ナル前渡方法ヲ設ケ此前渡官吏ハ單ニ仕拂命令官ニ向ヒ其仕拂ヲ證明セシメ會計檢査院ニ向テハ全然仕拂命令官ニ於テ其證明ヲナサシムル如キノ便宜ヲ得ンコトヲ望ム	

石川縣	長崎縣	山梨縣	香川縣		
○廿二年勅令第六十號會計規則 第百二條 出納官吏身元保證金	(新設)	○廿三年大藏省訓令第四百十號 在監人所持金ハ預金規則ニ依リ取扱フ可キヲ	○十八年五月布告第十三號預金規則 在監人所持金及給與錢ハ預金規則第一條第二項ニ依リ預金局ヘ預ケ入ル		
各省各別ノ規定ハ之ヲ一ニ纏メタシ	一在監人領置金利子ノ事 二十三年一月四日法律第一號保管金規則ニ依リ保管スル在監人領置金ヨリ生シタル利子ハ慈善費及免因保護ノ費用ニ充ルヲ得ルコトニ規定セラレンコトヲ望ム	廢止	在監人所持金及給與錢ノ取扱ハ預金規則ニ據ラス地方稅爲換方銀行ヲシテ取扱ハシム		
規則中第百二條ノ如キ各省大臣之ヲ定ムトアルモノハ各省各別ニ取扱方ヲ規定セラル、ヲ以テ取扱上ニ於テモ其所属ニ就キ規程ノ取調ヲナサ、ルヲ得ス繁雜ヲ來スノミナラス又規程モ大差ナキモノニ付是等ハ各省ヲ通シタル規程ヲ定メントスルニ由ル	保管金規則第一條政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ滿三十年ヲ經テ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス云々ト之レアリ然レニ在監人領置金ハ出入頻繁ニシテ些額ノ金員ハ往々拂戻ノ請求ヲナサ、ルモノ多ク之レアリ之レヲ三十年據置トセハ整理上甚不便ノ感アリ依テ監獄則第二十四條ノ規程ニ從ヒ其拂戻ノ請求ナキモノハ逃走囚死亡囚ノ例ニ依リ一年間ヲ經テ受クヘキ人ナキモノハ監獄慈善ノ用ニ充ツルトセハ大ニ取扱ノ簡便ヲ得ン但別房留置人ノ領置金モ亦同シ		典獄ニ於テ特別規則ニヨリ保管スヘキモノニシテ預金規則ニヨルノ必要ヲ認メサルニヨル 在監人所持金ノ如キハ其金額少數ニシテ出入頻繁ナルヲ以テ目下ノ規定ニテハ事務複雜ノ弊少ナカラス然ルニ今典獄ヲシテ直接ニ保管セシメ各地方ノ縣金庫ニ預ケ入レ相當ニ利殖セシメ利子ハ各權利者ニ配當スル等ノ規程ヲ設ケル等ハ處務簡捷ヲ輔クルノミナラス幾分ノ利益アルヲ以テナリ		事務ノ敏捷ヲ圖ルタメナリ サル手數ヲ要スル場所ハ接近ニ確實ノ銀行アルトキハ之ニ幾分預入シ抵當ヲ徵シ置キ出納ヲナシ得ルノ方法ヲ設定アラシムコトヲ望ム

大阪府	○廿三年勅令第四號 廿六年訓第一八三號	廢止	出納官吏カ其職責ヲ盡スノ擔保トシテ相當ノ保證金ヲ納付スルハ固ヨリ當然ナリト雖モ右ノ如キ僅少ノ金額擔保ノ効ナキハ論ナキナリ若夫レ相當ノ金額ニ改メンカ其負擔ニ耐ヘス竟ニ其任ヲ受クルモノナシ要之右保證金ノ制タル殆ント形式ヲ具フルニ止マリ何等ノ効用ナキヲ以テ事ノ之ヲ全廢スルニ如カスト認ム
石川縣	○廿二年勅令第十二號 歲入歳出豫算概算書及經費要求書	概算書及經費要求書ハ其一方ヲ廢シタシ 通知ヲ廢ス	歳入歳出豫算概算順序ニ依リ差出ス概算書ト經費要求書トハ其記載ノ事項同一ナルモノナルニ付一方ヲ略スルモ差支ナシト認ムルニ由ル
長野縣	○廿二年大藏省令第十六號 前金渡概算渡ノ返納金戻入取扱規程 第一條	通知ヲ廢ス	戻入ハ別ニ金庫ヘ通知スルノ必要ナキモノニシテ金庫ハ返納人ノ申出ヲ俟テ戻入セハ可ナリト認ム故ニ書式中四枚續ノ第一位ニアル戻入通知書ナル部分ヲ取除キ三枚續ノモノタラシメラレシコトヲ望ム所以ナリ
富山縣	○廿二年勅令第六十號 會計規則第八十二條隨意契約書ハ第八十條及ヒ第八十一條ニ準據シ作ルヘシ但シ一口五百圓未満ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ本文ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得	會計規則第八十二條ニ左ノ一項追加ヲ要ス 願書ニ第八十條其他ノ要件ヲ記載セシメ許可指令ヲ爲シテ成立タル隨意契約ノ場合ハ前項ノ契約書ヲ省略ス	明治二十七年內務省訓第二百三十八號及農商務省告示第八號ノ内ニ於テ隨意契約ヲ以テ官有水面並ニ森林原野等ノ賣買交換ヲナシタルハ願人ヨリ契約書或ハ請書ヲ徵スルノ規定ヲ廢シ本規則第八十二條ニ如上一項ヲ追加セント欲ス
兵庫縣	○廿三年法律第四號會計法第六十條第七及同年勅令第六十號 會計規則第七十三條 五百圓ヲ超ユルノ工事物品ノ借入買入ハ競争入札ニ付セサルヘカラス又競争入札ハ十五日以前ニ廣告セサル可ラス	工事は限リ五百圓ヲ千圓ニ改メ十五日ヲ五日以前ニ短縮スル事	近來工事ノ入札者ハ私ニ相結ヒテ私利ヲ計リ且身元ナキ奸商等ハ一旦落札ノ上直ニ他人ニ受負ハシメ其間ニ利ヲ射ルモノアリ理事者ハ再三入札ヲ行ハシメサルヘカラサル場合少カラズ然ルニ其公告日限長キニ過クルヲ以テ處務上ニ差支ヲ生スルコト少カラサレハナリ
鳥取縣	○廿二年勅令第六十號 會計規則第五十二條第三項	年ヲ四期ニ分チ每三ヶ月分ツ、調製進達ノ一ニ改正	支出計算書ハ毎月調製翌月十五日マテニ進達スルノ成規ナルモ手數省略經費節減ノ爲メ每三ヶ月分ツ、調製

兵庫縣	○廿二年法律第四號會計法第二十三條 誤拂過渡金返納ハ歳入ニ組入ルハヲ要ス	定額ニ戻入レ得ル様改ムル	現行法ノ如クニテハ豫算ニ不足ヲ來タスノミナラス非常ノ手數ヲ要スルヲ以テ定額戻入ノ手數少クシテ豫算ヲ紊ササルニ如カス
埼玉縣	(新設) 遠隔ノ地ニアル者ニ拂渡スヘキ經費金ハ其種類ト金高トニ依リ特ニ監督法ヲ設ケ郡吏等ニ假渡ヲナシ相當受取人ニ交付セシムヘキ便宜ノ取扱方法ヲ設定セラレタシ	遠隔ノ地ニアル者ニ拂渡スヘキ經費金ハ其種類ト金高トニ依リ特ニ監督法ヲ設ケ郡吏等ニ假渡ヲナシ相當受取人ニ交付セシムヘキ便宜ノ取扱方法ヲ設定セラレタシ	遠隔ノ地ニアル者ニ拂渡スヘキ經費金ヲ受領者毎ニ送金ヲナシ又ハ現行法規ニ從ヒ現金前渡ノ手續ニ依リ之ヲ取扱フトキハ容易ナラサルノ手數ヲ要シ又受領者ニ於テモ不便ヲ感スルコトアル等ニ由ル
長野縣	(同上)	國庫納金ノ過誤納整理方ヲ製艦費納金ト同一ニナスコト	製艦費納金ノ過誤納整理方ハ廿六年三月大藏省訓令第三號第四條ニヨリ次期ノ俸給ニ於テ差引計算スル規程ナルモ國庫納金ハ廿三年七月勅令第百二十五號收入規則中ニ明文ナキヲ以テ整理上不便ナルニ依ル
宮崎縣	(新設)	製艦費納金ノ方法ヲ變更スル	此納金ハ夥多ナル各官廳ニ於テ幾萬ノ官吏ニ對シ毎月俸給支給ノ際差引收納スルモノニシテ其差引計算ノ煩累ハ容易ニ量ルヘカラサルモノアリ然ルニ此差引ノ畢竟一旦與フルノ後又之ヲ取ルモノニシテ俸給ヲ減スルトモ異ナル所ナク唯徒ラニ事ヲ重複ニスルモノナルカ故ニ事口俸給ノ制ヲ改メ初メヨリ俸給ヲ減シ既定歳出中俸給豫算ヲ減スルニ如カスト認メタルニ由ル但方今物價暴騰ニ因リ一般官吏俸給ノ程度ヲ進ムルノ所思ハ別段ナリトス

埼玉縣	德島縣	佐賀縣	兵庫縣	大分縣	長門縣	佐賀縣	東京府
(新設)	○廿三年勅令第二百二十五號 官吏遺族扶助法納金收入規則	○廿二年法律第三十二號 第四條 滯納者ハ滯納處分濟ヲ以テ納稅義務ヲ終ルトアリ	同 第十一條 官吏ノ滯納處分ヲ爲ス場合滯納者他管内ニ係ルトキハ所屬長官ヲ經テ囑託ヲ爲スノ手續ナリ	同 第十一條 官吏ノ滯納處分ヲ爲ス場合滯納者他管内ニ係ルトキハ所屬長官ヲ經テ囑託ヲ爲スノ手續ナリ	同 第十一條 官吏ノ滯納處分ヲ爲ス場合滯納者他管内ニ係ルトキハ所屬長官ヲ經テ囑託ヲ爲スノ手續ナリ	同 第十一條 官吏ノ滯納處分ヲ爲ス場合滯納者他管内ニ係ルトキハ所屬長官ヲ經テ囑託ヲ爲スノ手續ナリ	同 第十一條 官吏ノ滯納處分ヲ爲ス場合滯納者他管内ニ係ルトキハ所屬長官ヲ經テ囑託ヲ爲スノ手續ナリ
警察署同分署等ノ如キ僅少ノ收入金ヲ取扱フ場所ハ出納官吏ヲ置カス特ニ監督法ヲ設ケ主務官吏ヲシテ便宜ノ取扱ヲナサシメラレタシ	轉任ノ場合ニ於テ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキ百分ノ一ヲ納入ニ於テ差引ストアルヲ明治廿六年大藏省令第三號製鐵費納金收入規程第四條中二項三項ノ如ク改正ス	府縣稅ニ限リ同年度内ニ再ヒ同一營業ヲ爲スモノハ第四條ニ依ル限ニアラサル規定ヲ同法律ニ加ヘタシ	府縣稅ハ所屬長官ヲ經由セス郡市ニ於テ直ニ他管郡市長ニ囑託スルコトニ改メタシ	府縣稅ハ所屬長官ヲ經由セス郡市ニ於テ直ニ他管郡市長ニ囑託スルコトニ改メタシ	府縣稅ハ所屬長官ヲ經由セス郡市ニ於テ直ニ他管郡市長ニ囑託スルコトニ改メタシ	府縣稅ハ所屬長官ヲ經由セス郡市ニ於テ直ニ他管郡市長ニ囑託スルコトニ改メタシ	府縣稅ハ所屬長官ヲ經由セス郡市ニ於テ直ニ他管郡市長ニ囑託スルコトニ改メタシ
僅少ナル收納ヲ取扱フ爲メニ出納官吏ヲ配置シ一般會計法規ニ依リ整理セシムルハ手續ヲ要スルノミナラス分署ノ如キハ人少ニシテ扱上困難ヲ感スルコトアルニ由ル	轉任ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキ其百分ノ一ヲ納入ニ於テ差引スルカ爲メ前應支給ノ俸給額ヲ減シ返納セシムルノ姿トナリ且製鐵費納金ト取扱フ異ニシ不便ナルヲ以テ	轉任ニ依リ前任應ニ納付セシ官吏遺族扶助法納金ノ過納トナリタルトキハ前任應ニ於テ該過納金下戻ノ手續ヲナス後任應モ亦俸給支給ノ際重テ該納金ヲ徵收セサルモノトス	轉任ニ依リ前任應ニ納付セシ官吏遺族扶助法納金ノ支給ノ際増俸部分ニ對スル官吏遺族扶助法納金ヲ徵收シ減俸トナリタルトキハ前二項ノ例ニ依リ次期俸給支給ノ際整理スヘシト改ムルヲ適當トスルニ由ル	轉任ニ依リ前任應ニ納付セシ官吏遺族扶助法納金ノ支給ノ際増俸部分ニ對スル官吏遺族扶助法納金ヲ徵收シ減俸トナリタルトキハ前二項ノ例ニ依リ次期俸給支給ノ際整理スヘシト改ムルヲ適當トスルニ由ル	轉任ニ依リ前任應ニ納付セシ官吏遺族扶助法納金ノ支給ノ際増俸部分ニ對スル官吏遺族扶助法納金ヲ徵收シ減俸トナリタルトキハ前二項ノ例ニ依リ次期俸給支給ノ際整理スヘシト改ムルヲ適當トスルニ由ル	轉任ニ依リ前任應ニ納付セシ官吏遺族扶助法納金ノ支給ノ際増俸部分ニ對スル官吏遺族扶助法納金ヲ徵收シ減俸トナリタルトキハ前二項ノ例ニ依リ次期俸給支給ノ際整理スヘシト改ムルヲ適當トスルニ由ル	轉任ニ依リ前任應ニ納付セシ官吏遺族扶助法納金ノ支給ノ際増俸部分ニ對スル官吏遺族扶助法納金ヲ徵收シ減俸トナリタルトキハ前二項ノ例ニ依リ次期俸給支給ノ際整理スヘシト改ムルヲ適當トスルニ由ル

鹿兒島縣	長野縣	廣島縣	東京府	宮崎縣	宮崎縣	東京府	東京府
○廿七年大藏省訓令第二十五號 地方稅滯納處分表ハ毎年二回報 告セシム	(同上)	(同上)	○廿七年大藏省訓令第二十五號 國稅地方稅滯納處分報告表様式	同上	同上	同上	同上
報告ヲ廢止セントス已ムナクシハ之ヲ年一回ニ改メラレタシ	(同上)	(同上)	每年度二回ニ分チ報告スヘキヲ一回トシ且報告事項ヲ簡ニスル事	廿二年法律第九號國稅徵收法及同年法律第三十二號國稅滯納處分法中ニ左ノ一條ヲ追加セラレタシ 第三條 法律上ノ理由ナクシテ送達ノ受取ヲ拒ムルハ交附スヘキ令書(國稅滯納處分法ノ條文ニハ書類ト記スルコト)ヲ送達ノ場所ニ差置クヘシ	地ノ收入官吏ニ囑託ノ手續ヲ爲スモノトス	地ノ收入官吏ニ囑託ノ手續ヲ爲スモノトス	地ノ收入官吏ニ囑託ノ手續ヲ爲スモノトス
明治廿五年大藏省訓令第五號ニテ廿六年迄一年一回ノ報告ヲシニ様式ヲ改メ之ヲ年二回報告スルコトナリタリ國稅ニ在テハ大藏省ノ直轄ナルヲ以テ之ヲ徵スルノ必要アラシモ府縣稅ニ至ルマテ詳細綿密ナル様式ニ依リ報告ヲ徵セラルハ其煩ニ堪ヘス從テ事務ヲ簡捷ニスル所以ニアラサルヲ以テ之ヲ廢センコトヲ希	報告表ノ調製ハ極メテ精密ナル調査ヲ要スル等其手續ノ容易ナラサルハ獨リ府縣應ノミナラス郡市役所ニ於テモ同様ナルヲ以テ手續省略ノ爲メ毎半年間ニ係ル報告ヲ每年度一回ニ改正アラシムコトヲ望ム	報告表ノ調製ハ極メテ精密ナル調査ヲ要スル等其手續ノ容易ナラサルハ獨リ府縣應ノミナラス郡市役所ニ於テモ同様ナルヲ以テ手續省略ノ爲メ毎半年間ニ係ル報告ヲ每年度一回ニ改正アラシムコトヲ望ム	本報告(國稅ニ係ル分ハ大藏大臣ノ直轄ニ屬スルヲ以テ本意見ニ關係セス)ハ毎年二回ニ分チ大藏省へ報告スヘキ規定ナルモ至テ煩雜ニシテ調製上頗ル手数ヲ要スルニモ拘ハラズ其効用甚タ掛ナキカ如シ故ニ本表ハ年一回トシ單ニ稅目(地方稅ナキハ地租租額營業稅ニヨリ徵收)欠損額(滯納處分ノ未收)ニ止ムル方可ナランカ	國稅徵收法第八條ノ徵稅令書ヲ發スルトキ又ハ同法第九條ノ市町村長ニ於テ徵稅傳令書ヲ發スルトキ納稅人ニ於テ之ヲ受取ルコトヲ拒ムルカ又ハ國稅滯納處分法第四十六條ニ依リ使丁ヲシテ書類ヲ送達セシムルニ當リ本人ニ於テ其令書若クハ書類ノ受取ヲ拒ム場合ニ於テ其所爲刑法第三章第二節官吏職務ヲ行フヲ妨害スル罪ノ條項ニ該當セサル者ニ對シ處分法ナキニ由ル	ハ舉テ大藏大臣ノ直轄ニ移リタルニ付テハ右滯納處分ノ囑託ヲ要スルルハ收入官吏ヨリ直チニ其處分ヲ爲スヘキ地ノ收入官吏ニ依託スルニ至ラン乎然ルニ從來地方稅滯納處分モ亦本法ニ準據シ取扱ヒ來リタルモ右ハ徒ラニ手数ヲ要シ其效少ナキヲ以テ收入官吏ヨリ直チニ他ノ郡市長ニ囑託處分スルノ規定ニ改ムルヲ要ス	ハ舉テ大藏大臣ノ直轄ニ移リタルニ付テハ右滯納處分ノ囑託ヲ要スルルハ收入官吏ヨリ直チニ其處分ヲ爲スヘキ地ノ收入官吏ニ依託スルニ至ラン乎然ルニ從來地方稅滯納處分モ亦本法ニ準據シ取扱ヒ來リタルモ右ハ徒ラニ手数ヲ要シ其效少ナキヲ以テ收入官吏ヨリ直チニ他ノ郡市長ニ囑託處分スルノ規定ニ改ムルヲ要ス	ハ舉テ大藏大臣ノ直轄ニ移リタルニ付テハ右滯納處分ノ囑託ヲ要スルルハ收入官吏ヨリ直チニ其處分ヲ爲スヘキ地ノ收入官吏ニ依託スルニ至ラン乎然ルニ從來地方稅滯納處分モ亦本法ニ準據シ取扱ヒ來リタルモ右ハ徒ラニ手数ヲ要シ其效少ナキヲ以テ收入官吏ヨリ直チニ他ノ郡市長ニ囑託處分スルノ規定ニ改ムルヲ要ス

長崎縣	滋賀縣	群馬縣	大坂府	埼玉縣	福島縣	滋賀縣	佐賀縣	山口縣
○廿年勅令第五號 所得稅法	○廿年勅令第五號 所得稅法	○廿年勅令第五號 所得稅法	○廿年勅令第五號 所得稅法	○廿年勅令第五號 所得稅法	○廿年勅令第五號 所得稅法	○廿年勅令第五號 所得稅法	○廿年勅令第五號 所得稅法	○廿年勅令第五號 所得稅法
每年一回トセラレタシ	每年一回トセラレタシ	每年一回トセラレタシ	每年一回トセラレタシ	每年一回トセラレタシ	每年一回トセラレタシ	每年一回トセラレタシ	每年一回トセラレタシ	每年一回トセラレタシ
望ス若シ大藏省ニ於テ其狀況ヲ知ルニ必要アラハ大休 ヲ知ルニ止メ様式ヲ改メテ一年一回ノ報告トナサハ可ナ リ	望ス若シ大藏省ニ於テ其狀況ヲ知ルニ必要アラハ大休 ヲ知ルニ止メ様式ヲ改メテ一年一回ノ報告トナサハ可ナ リ	望ス若シ大藏省ニ於テ其狀況ヲ知ルニ必要アラハ大休 ヲ知ルニ止メ様式ヲ改メテ一年一回ノ報告トナサハ可ナ リ	望ス若シ大藏省ニ於テ其狀況ヲ知ルニ必要アラハ大休 ヲ知ルニ止メ様式ヲ改メテ一年一回ノ報告トナサハ可ナ リ	望ス若シ大藏省ニ於テ其狀況ヲ知ルニ必要アラハ大休 ヲ知ルニ止メ様式ヲ改メテ一年一回ノ報告トナサハ可ナ リ	望ス若シ大藏省ニ於テ其狀況ヲ知ルニ必要アラハ大休 ヲ知ルニ止メ様式ヲ改メテ一年一回ノ報告トナサハ可ナ リ	望ス若シ大藏省ニ於テ其狀況ヲ知ルニ必要アラハ大休 ヲ知ルニ止メ様式ヲ改メテ一年一回ノ報告トナサハ可ナ リ	望ス若シ大藏省ニ於テ其狀況ヲ知ルニ必要アラハ大休 ヲ知ルニ止メ様式ヲ改メテ一年一回ノ報告トナサハ可ナ リ	望ス若シ大藏省ニ於テ其狀況ヲ知ルニ必要アラハ大休 ヲ知ルニ止メ様式ヲ改メテ一年一回ノ報告トナサハ可ナ リ

新潟縣	宮崎縣	東京府	三重縣	德島縣
○廿年勅令第廿五號 ○廿年大藏省令第八號 ○廿一年大藏省訓令第三十五號	○廿年勅令第五號 ○同年大藏省令第八號	○廿年勅令第五號 ○同年大藏省令第八號	○廿年勅令第五號 ○同年大藏省令第八號	○廿年勅令第五號 ○同年大藏省令第八號
所得稅ニ關スル事務ヲ稅務署ヘ移スコ	所得稅ニ關スル事務ヲ稅務署ヘ移スコ	所得稅ニ關スル事務ヲ稅務署ヘ移スコ	所得稅ニ關スル事務ヲ稅務署ヘ移スコ	所得稅ニ關スル事務ヲ稅務署ヘ移スコ
國稅賦課ノ材料ヲ調査スルハ稅務署ノ管掌ニシテ所得 稅調査ノ如キ其性質上當サニ稅務署ノ所管ニ屬スヘキ ノミナラス實際上ヨリ云フモ郡役所ニ於テ之ヲ調査ス ルハ頗ル不便ノ事情アリ其事務ノ煩雜ナル數名ノ吏員 數閱月ノ間之ニ從事スルモ尙完了ヲ告ケ到底郡衙定 員ノ能ク堪ユル所ニ非サルヲ以テ今般稅務官署ノ組織 改正セラレタルヲ機トシ其事務ヲ稅務署ニ移サルハ 至當ナリト考フル也	郡長ニ於テ處辨スヘキ事務ヲ稅務署ノ主管ニ 移スコ	郡長ニ於テ處辨スヘキ事務ヲ稅務署ノ主管ニ 移スコ	郡長ニ於テ處辨スヘキ事務ヲ稅務署ノ主管ニ 移スコ	郡長ニ於テ處辨スヘキ事務ヲ稅務署ノ主管ニ 移スコ
現今所得稅下調等ノ事務ハ郡長ノ職務ニ屬スレトモ其 賦課徵收ノ事務ハ稅務署ニ屬スルカ故所得稅課定額并 異動ノ通報等彼此往復ノ手數ヲ要シ其結果事務ノ敏速 ヲ妨ケ郡役所稅務署共ニ不便ヲ感スルコト久シ加之營 業稅法實施ノ曉ニ至レハ稅務署ハ所得納稅者中大部分 ヲ占ムル營業人ノ收入等一々之ヲ調査スルニヨリ能ク 該所得ノ狀況ヲ察知スルニ獨得ノ便アリ故ニ右下調ノ 事務ヲ稅務署ニ屬セシムルハ單ニ處務ノ簡捷ヲ得ルノ 便アルノミナラス課稅ノ適當ヲ得易キノ利アリトス	現今所得稅下調等ノ事務ハ郡長ノ職務ニ屬スレトモ其 賦課徵收ノ事務ハ稅務署ニ屬スルカ故所得稅課定額并 異動ノ通報等彼此往復ノ手數ヲ要シ其結果事務ノ敏速 ヲ妨ケ郡役所稅務署共ニ不便ヲ感スルコト久シ加之營 業稅法實施ノ曉ニ至レハ稅務署ハ所得納稅者中大部分 ヲ占ムル營業人ノ收入等一々之ヲ調査スルニヨリ能ク 該所得ノ狀況ヲ察知スルニ獨得ノ便アリ故ニ右下調ノ 事務ヲ稅務署ニ屬セシムルハ單ニ處務ノ簡捷ヲ得ルノ 便アルノミナラス課稅ノ適當ヲ得易キノ利アリトス	現今所得稅下調等ノ事務ハ郡長ノ職務ニ屬スレトモ其 賦課徵收ノ事務ハ稅務署ニ屬スルカ故所得稅課定額并 異動ノ通報等彼此往復ノ手數ヲ要シ其結果事務ノ敏速 ヲ妨ケ郡役所稅務署共ニ不便ヲ感スルコト久シ加之營 業稅法實施ノ曉ニ至レハ稅務署ハ所得納稅者中大部分 ヲ占ムル營業人ノ收入等一々之ヲ調査スルニヨリ能ク 該所得ノ狀況ヲ察知スルニ獨得ノ便アリ故ニ右下調ノ 事務ヲ稅務署ニ屬セシムルハ單ニ處務ノ簡捷ヲ得ルノ 便アルノミナラス課稅ノ適當ヲ得易キノ利アリトス	現今所得稅下調等ノ事務ハ郡長ノ職務ニ屬スレトモ其 賦課徵收ノ事務ハ稅務署ニ屬スルカ故所得稅課定額并 異動ノ通報等彼此往復ノ手數ヲ要シ其結果事務ノ敏速 ヲ妨ケ郡役所稅務署共ニ不便ヲ感スルコト久シ加之營 業稅法實施ノ曉ニ至レハ稅務署ハ所得納稅者中大部分 ヲ占ムル營業人ノ收入等一々之ヲ調査スルニヨリ能ク 該所得ノ狀況ヲ察知スルニ獨得ノ便アリ故ニ右下調ノ 事務ヲ稅務署ニ屬セシムルハ單ニ處務ノ簡捷ヲ得ルノ 便アルノミナラス課稅ノ適當ヲ得易キノ利アリトス	現今所得稅下調等ノ事務ハ郡長ノ職務ニ屬スレトモ其 賦課徵收ノ事務ハ稅務署ニ屬スルカ故所得稅課定額并 異動ノ通報等彼此往復ノ手數ヲ要シ其結果事務ノ敏速 ヲ妨ケ郡役所稅務署共ニ不便ヲ感スルコト久シ加之營 業稅法實施ノ曉ニ至レハ稅務署ハ所得納稅者中大部分 ヲ占ムル營業人ノ收入等一々之ヲ調査スルニヨリ能ク 該所得ノ狀況ヲ察知スルニ獨得ノ便アリ故ニ右下調ノ 事務ヲ稅務署ニ屬セシムルハ單ニ處務ノ簡捷ヲ得ルノ 便アルノミナラス課稅ノ適當ヲ得易キノ利アリトス
明治廿九年勅令第三百三十七號ヲ以テ稅務管理局官制 ヲ定メテ內國稅ニ關スル事務ヲ掌ルコト、ナリ明治 廿六年勅令第六十二號地方官制中收稅長收稅屬收	明治廿九年勅令第三百三十七號ヲ以テ稅務管理局官制 ヲ定メテ內國稅ニ關スル事務ヲ掌ルコト、ナリ明治 廿六年勅令第六十二號地方官制中收稅長收稅屬收	明治廿九年勅令第三百三十七號ヲ以テ稅務管理局官制 ヲ定メテ內國稅ニ關スル事務ヲ掌ルコト、ナリ明治 廿六年勅令第六十二號地方官制中收稅長收稅屬收	明治廿九年勅令第三百三十七號ヲ以テ稅務管理局官制 ヲ定メテ內國稅ニ關スル事務ヲ掌ルコト、ナリ明治 廿六年勅令第六十二號地方官制中收稅長收稅屬收	明治廿九年勅令第三百三十七號ヲ以テ稅務管理局官制 ヲ定メテ內國稅ニ關スル事務ヲ掌ルコト、ナリ明治 廿六年勅令第六十二號地方官制中收稅長收稅屬收

岡山縣	(同上)	所得稅法中地方官並常置委員會關係ノ規定アル條項改正ノ事	稅部收稅署ニ係ル條項ヲ廢止セラレタルニ依リ所得稅法中知事及郡區長ニ關スル職務ハ稅務管理局又ハ稅務署ニ移サル、ヲ至當トス
<p>今般稅務管理局ノ新設ニ依リ內國稅ニ關スル事務ハ明ニ府縣知事ノ所掌ヲ離ル、ニ至リタリ然ルニ未タ現行法令ノ改正セラレサルモノアルカ爲メ府縣知事ハ掌理ノ機關ヲ缺キナカラ尙其事ニ任セサルヲ得ナルノ觀アルヲ免レス幸ニ國稅ノ徵收並滯納ニ關スル事務ノ如キハ其所掌元收稅官吏ノミニシテ關係他ニ連ラサリシ爲メ今遽カニ改正ヲ見サルモ其所掌ハ明ニ新管理局ニ移リタルヲ知ルヘント雖トモ夫ノ所得稅ノ調查ハ稅額確定ノ終審トシテ府縣常置委員會ノ調查ニ附スルノ故ヲ以テ其手續上依然府縣知事ノ掌理ニ置カル、カノ疑ヲ抱クモノナキヲ保セス然レトモ政務ハ一定ノ機關ニ依テ終始貫通其レヲシテ混亂セシメス始メテ綱舉リ目張リ事務ノ統一ヲ保ツヘシ已ニ一般內國稅事務ノ管理局所掌ニ歸セル曉ニ於テ獨リ所得稅調查ノ府縣知事ノ手ニ存スルノ謂レナク又政務ヲ整理スルノ所以ニアラサルノミナラス管理局新設ノ本旨ニモ副フモノト云フヲ得可ラス且常置委員會ニ於テ調査スルハ府縣知事所掌内ニ在テ始メテ當然ノ順序ニシテ圓滿ノ事局ヲモ結フヲ得ン苟モ其關係ヲ離レ他ノ支配ニ屬セルモノヲ取テ之カ調査ニ附スルハ宜キヲ得タルモノニアラス若シ別ニ之ニ代ルヘキ相當機關ヲ設ケハ敢テ妨ケナカルヘシ故ニ所得稅事務ノ如キモ他ノ稅務ニ於ケルト同シク府縣知事郡區長ハ全ク其關係ヲ離ル、モノト信ス頃者事務引繼ニ際シ當該局長協議ノ上一般稅務ト共ニ差向</p>			

新瀧縣	○雜件 廿五年大藏省訓令第一〇號 租稅外歲入豫定計算書	別ニ定ムル所ノ調製順序ニ從ヒトアルヲ法律命令ニヨリ變更スルモノ、外ハ前三ヶ年度平均額ニ依リト改ムル	該調製ノ順序タル年々取調ヲ異ニシ却テ其實ヲ得サルモノト認ムルニ由ル
兵庫縣	○廿六年大藏省訓令第五十號 收入官吏配置方 國稅外諸收入ノ收入官吏トシテ府縣ニ主任收入官吏及分任收入官吏ヲ置ク	稅務管理局及稅務署ノ收入官吏ヲシテ兼掌セシムル様改正スル	現行規程ニ於テハ府縣ニ主任收入官吏ヲ置キ郡役所警察署等ニ各分任收入官吏ヲ置クノ方法ナルモ其事務ハ概テ僅少ニシテ且國稅ト共ニ國庫ニ入ルヘキモノナレハ國稅ノ徵收ヲ取扱フ收入官吏ヲシテ傍其事務ヲ取扱ハシムル事トセハ大ニ便益ナリト認ム
三重縣	○廿七年七月大藏省訓令第千二百七號 歲入増減表	廢止スルカ又ハ簡略ニスル方ヲ望ム	該表ハ數表ニ區別シ毎目豫算額調定濟額收入未濟額等明細ニ掲記スルモノニシテ其手續容易ナラス然ルニ會計規則ノ規定ニヨリ毎月收入官吏ヨリ大藏省へ提出スル收入計算書ニハ調定額收入未濟額等ヲ記載シ増減表ニ掲クルモノト敢テ異ナラス依テ該増減表ヲ廢セラル、カ又ハ簡略ニ改正セラレンコトヲ希望ス
滋賀縣	○二十二年大藏省訓令第十六號 諸拂戻及欠損補填金ヲ以下戻委任	國稅及歲入ノ稅務管理局取扱ニ屬スルモノハ同局ノ主管ニ改正スルヲ要ス	本件ハ從來收稅署ニ於テ權利者ノ下戻請求書ヲ調査シ內務部ニ於テ仕拂命令ヲ發布スル順序ナルモ今後上段ノ如ク改ムルヲ便利トス
滋賀縣	○二十六年大藏省訓令第四十二號 諸收入取扱規程	訴訟用印紙料ノ收入ハ稅務管理局ノ取扱ニ改正スルヲ要ス	訴訟用印紙ハ從來收稅部ニ於テ拂下其料金ノ調定收入ハ內務部取扱來リシモ今後ハ其印紙ヲ拂下クル稅務管理局ノ主管ニ屬スルヲ便利トス
富山縣	○十七年第七號布告 地租條例中府縣郡市町村及ヒ公	地租條例第四條及ヒ第十三條中へ「府縣郡市町村及ヒ公共組合ニ屬シ直接公用ニ供スル土	府縣制市町村制ニ免稅ノ規程アルモ地租條例中ニ其明文ナキヲ以テ性質上免租ナルヘキモノト認ム

香川縣	共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地ニ對シ地稅ヲ免スルノ規定ナシ	地ノ二十四字ヲ追加セントス	本年勅令第三百三十七號ヲ以テ稅務管理局ヲ置レタルニヨリ從來取扱ノ稅外諸收入ノ内印紙拂下代等ノ如キ部分ハ既ニ分割該局ニ引繼タリ然ルニ尙ホ違警罪科料及物品拂下代等ノ如キ僅々タルモノ依然存留スルハ取扱上穩當ナラサルニ付殘留ノ分モ悉ク引繼コトニ改正セラレンコトヲ望ム
宮崎縣	○二十九年法律第三十二號營業稅法第三十六條	府縣ハ中略營業ニ對シ本稅十分ノ二以内トアルヲ十分ノ五以内ト改正セラレンコトヲ望ム	營業稅法發布ノ爲メ地方稅ヲ賦課スヘキ業體ニ對シ從前ヨリ稅額ヲ減少セサルヲ得サル場合トナレリ何トナレハ多額ノ地方稅ヲ賦課スルトキハ却テ國稅ニ逃ルノ途開ケタルヲ以テ自然國稅ノ程度ヨリ上ル事ヲ得ス依テ從前負擔セシ稅額ヨリ幾分ノ遞減ヲ來スノ傾アリ故ニ前記ノ如ク十分ノ二以内ヲ十分ノ五以内ト改正セラルトキハ地方經濟上ニ便益ヲ與フルハ勿論又從前ニ比シ決シテ苛稅ナラサルヲ信ス
宮城縣	○二十七年大藏省達第一二〇七號	廢止	明治二十七年三月會計檢査院達第八號租稅外歲入測定額證明規程同達第九號租稅外收入證明規程ニ依リ各計算書ヲ調製大藏省ヲ經由提出スルヲ以テ其増減ハ既ニ認定シアルニ依リ之レヲ廢止スルモ差支ナカルヘシ依テ廢止ヲ望ム
宮城縣	○廿四年大藏省訓令第四十八號恩賞諸祿仕拂取扱順序第六條第一號書式仕拂明細書式ニ依レハ目ノ下各人ノ姓名ヲ掲載スルヲ要ス	第六條第一號書式仕拂明細書々式中何々款何々項何々目ノ下姓名トアルヲ某外何名ト合記スルコトニ改正セラレンコトヲ望ム	新規下賜又ハ停止等ノ事故ニ依リ異動アルモノノ外ハ支給額確定シアルニ依リ一人別掲載セサルモ差支ナカルヘシ依テ改正ヲ望ム
三重縣		第六條ヲ廢止	明治廿四年大藏省訓令第四十八號恩賞諸祿仕拂取扱順序第六條ニ依リ調製スル支出報告書ハ受恩給者一人別記載ヲ爲スモノニシテ調製上數多ノ手數ヲ要スルノミ

鹿兒島縣 神奈川縣			ナラス會計規則第五十二條第三項ニ依リ提出スル支出計算書ノ付屬證書ニ依リ調査ヲ爲シ得ルヲ以テ本項ノ廢止ヲ要ス
新潟縣	(同上)	第六條中仕拂ヲ爲シタルキハノ下ハ第一期ハ一人別第二期ヨリハ異動ノ分ノミ一人別ニ記載シ其他ハ數人分合記ノ文字ヲ加フルヲ改ムルヲ	數百人每期一人別ノ記載ハ必要ナキモノト認ムルニ由ル
山口縣	(同上)	報告書中異動ニ係ルモノハ各別ニ其他ハ纏メテ記載スルヲ改メタシ	訓令ノ書式ハ賞勳年金恩給等各人別ニ支給額、支給未濟額及仕拂命令委任殘額ヲ記載シ而シテ毎前三ヶ月分ヲ翌月七日限リ提出スルモノナルカ其提出期ハ恩給交付期月ニ該當スルニヨリ隨テ該調製時日間恩給交付ヲ遅延セシムルノ不便アルノミナラス右ハ毎月會計檢査院へ呈出スル處ノ支出計算書付屬明細書ニカ支給額人別等ヲ記載アルニヨリ單ニ各人別ノ支給未濟額及委任殘額ヲ掲載スルコトニ改メラレタシ
石川縣	(同上)	仕拂明細書毎支給期ニ調製報告スルコトヲ止メ年一回ノ報告ニ改メラレタシ	每期差出ス報告書ハ受恩給者毎ニ各別ニ列記スルノ規定ナレバ數百人ノ事項ニシテ異動ナキモノヲ每期之ヲ記載スルハ繁雜ニ付其期中異動ニ係ルモノノミ之ヲ列記シ其他ハ纏メテ記載セントスルニ由ル
埼玉縣	(同上)	第六條仕拂明細書調製及第七條誤拂過渡金報告方廢止	年金及恩給ヲ受クルモノ追々増加スルニ從ヒ毎支給期調製スルハ手數ノ容易ナラサルニ由ル
東京府	(同上)	本條ニ左ノ但書ヲ加フルヲ要ス 但府縣備荒儲蓄金補助ノ内救助費ハ概算渡ヲ爲スコトヲ得	仕拂明細書ハ年四回ニ調製シ又誤拂過渡金報告書ハ其都度大藏省へ進達スルノ規程ナルモ會計規則第五十二條ニ據リ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添へ同省へ送付スルヲ以テ其仕拂明細書及誤拂過渡金報告書ニ記載ノ事項ハ渾テ毎月支出ノ計算書等ニ詳カナルニ付之ヲ廢止シ重複ノ手數ヲ省クヲ要ス
福井縣	○明治廿三年勅令第七十七號第十三條 本規則ニ掲ケサル中央備荒儲蓄		食料小屋掛等ノ概算渡ヲ要スルハ元來災害ノ當時多額ノ支給ヲ要シ府縣儲蓄金ノ百分ノ五以上支出シ其不足額ニ對シ中央儲蓄金ノ補助ヲ仰クニ當リテ支給確定額

廣島縣	○廿三年大藏省訓令第三十四號 備荒儲蓄金取扱順序	第八條ヲ削除シ第十一條現在高表ヲ年二回提出ノ事ニ改メラレンコトヲ要ス	ヲ調査シタル上ニ非レハ補助ノ請求ヲ爲シ得ザルカ如キハ其調査ニ多數ノ日子ヲ要シ窮民救助ノ精神ニ反スルノミナラス假令市町村ニ於テ差違供給セシムルモ多額ノ金員ハ之カ支辨ノ途ナク又中央儲蓄金ノ補助ヲ仰クヘキ場合ハ府縣儲蓄金ヨリ繰替支出シ得ヘキ規定ナキニ依リ遂ニ窮民ノ饑餓ニ迫ルノ恐レアリ然ルニ本年九月水災救助ノ如キハ支給確定額ヲ以テ稟請スルニアラサレハ許可セラレサル實例アリテ殆ント困難ヲ來セリ故ニ食料小屋掛料ニ限リ中央儲蓄金ヨリ概算渡ヲ爲シ得ヘキ特例ヲ設ケ災害ノ當時直ニ府縣儲蓄金ニ受ケ入レ一時焦眉ノ急ヲ救フヘキ必要アルヲ認ムルニ由ル
大阪府	(同上)	第八條廢止	本訓令第十條ニ依リ一周年度ノ決算ヲ報告スル以上ハ重複ニ涉ルヲ以テ廢止ヲ望ム
高知縣	(同上)	府縣會ノ決議ニ付スヘキ豫算式ヲ改ムルヲ要ス	右訓令ヲ以テ主務省ヘ報告スヘキ出納報告書式ヲ定メテ明治廿五年四月六日付縣秋乙第一八號ヲ以テ内務省縣治局長大藏省國債局長ヨリ縣會ニ付議スヘキ科目ハ右訓令ノ書式ニ據リ其ノ科目別ニ調製スヘキ旨通牒セラレタリ其書式ハ歲出中救助費ノ項ニ於テ水災、火災、風災、旱災等十數目ニ區別セリ爲メ實際ノ取扱上ハ却テ繁雜ニ過キ目ノ流用ニ就テハ殆ント煩雜ニ堪ヘス故ニ目ノ流用ヲ府縣知事限リ處分ニ改メサル限リ

岡山縣

○十三年布告第三十一號  
非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ對スル食料給與日數三十日

食料給與日數六十日以内延長ヲ要スル件

ハ本議案ノ式ハ細目ヲ廢シ單ニ救助費ナル目ヲ以テ決議ニ付スルコトニ改正シタシ

三重縣

○雜件  
廿九年十一月大藏大臣達第二〇四一號  
地方公債又ハ借入金ノ起債償還金額年月日報告ノ件

市町村債ニ限リ償還期三年以上ノモノハ時々ノ報告ヲ廢シ一年又ハ三年ニ一回取纏メ報告スルノ例ニ改メ三年以内ノモノハ報告ヲ要セサルコトニ改メラレタシ

大藏省ニ於テ市町村債ノ金額ヲ取調置カル、ノ必要ハ之アルヘシト雖也借入又ハ償還ノ都度報告スルハ繁雜ナルヲ以テ年未一回若クハ隔年一回等ノ報告ニ止メラルヲ望ム又三年以内ニ償還スル負債ハ其金額モ少小ニシテ市町村ノ財政ノ狀況ニヨリ一時ノ融通ヲナスニ過キサルモノナレハ之ハ報告ヲ廢セラレタシ

三重縣

○廿六年九月大藏省訓令第千三百四十四號  
預金保管物及供託物證憑證明ノ件

廢止

毎月未到達領收證書明細書ハ支出ノ科目金員人名ヲ掲載スルモノナリ然ルニ毎月支出計算書ニ於テモ支出ノ月別科目金額ヲ掲ケ重複ノ嫌ヒアルヲ以テ該明細書ヲ廢止セラレンコトヲ望ムノ結果ナリ

三重縣

○廿七年九月乙第四六六號大藏省國債局長照會  
預金保管物及供託物證憑證明ノ件

廢止

同上

二十七



山形縣

○廿九年十一月二日大藏省第二〇四一號達  
縣郡市町村等ニ於テ起シタル公債ニ對シ借入償還ノ時ニ大藏省ニ報告セシム

本令ヲ廢シ若シ監督上特ニ必要アラハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル公債ニ限リ府縣知事ニ於テ一ケ年分取纏メ報告セシム

縣以下ノ各團體ニ於ケル公債ハ借入及償還等頗ル頻繁ナルノミナラス市町村三年以内ノ償還期ニ屬スルモノニ至テハ其數最モ多ク其時々々報告スルハ其煩ニ堪ヘサルニ依ル

德島縣

○二十年勅令第三十六號

滲入紙製造取締規則ニ關スル件

明治二十年勅令第三十六號滲入紙製造取締規則ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄廳ヘ届出ツヘキ規定ナルモ地方廳ニテハ調査上標準ナキヨリ大藏省ニ稟議セサルヲ得ス而シテ其届出ノ見本ニシテ別ニ障害ナカルヘシト認ムルモノモ大藏省ニ於テハ總テ認許セラレズ故ニ製紙業者ニシテ新意匠ノモノヲ製出シテ其業ノ發達ヲ圖ラントスルモ規則ノ拘束スル所トナリ往々沮止スルノ感アリ因テ滲入紙中此ノ如キ形式此ノ如キ模様ハ製造相成ラスト豫メ禁止スヘキモノ、大体ヲ示サレンコトヲ望ム

事務簡捷ニ關スル意見陸軍省ノ部

府縣

現行規程大要

改廢及新設要領

改廢及新設事由

東京府  
京都府

○明治廿二年勅令第九十號  
現役士官候補生等志願ノ件  
陸軍各兵科現役士官候補生同効  
年學校生徒志願者ノ身上明細表  
ヲ當廳ニ於テ調製證明スルノ件

郡市區長ノ證明ヲ受ケタル身上明細書ヲ志願者ヨリ差出サシムルコトニ改ムル事

本表ハ地方廳ニ於テ調製スヘキノ處掲表ノ事項概テ志願者ニ就カサレハ調査シ能ハサルモノニ付專口志願者ヨリ明細書ヲ差出サシメ町村區長ニ於テ其事實ヲ調査ノ上證明ヲ付シ郡長ニ於テ又同様調査證明ヲ與ヘ志願者ヨリ願書ニ添ヘ差出サシメタル上之ヲ調査シ願書ト共ニ其筋ヘ回送スルコト、セハ大ニ其手數ヲ省クコトヲ得ヘキヲ以テナリ

京都府

○明治二十二年勅令第九十二號  
陸軍各兵科現役士官補充條例第七條地方長官ニ於テ調製スル身分財產等ノ證明書

郡市長ニ於テ調製スルコトニ改正ヲ望ム

毎年陸軍省ヨリ告示ヲ以テ證明書ノ雛形ヲ示サレ右調製ノ材料ハ總テ郡區長ニ於テ取調ヲ要スルモノニ付一年志願兵及教導團生徒志願者等ニ倣ヒ郡市長ニテ證明書ヲ調製シ直ニ願書ト共ニ師團ヘ回送スレハ地方廳ニ於テハ數十人ノ證明書調製ノ手數ヲ省キ一郡區役所ニ於テ調製スレハ僅カノ人員ヲ殊ニ材料ヲ調製スヘキノニ付直ニ今一本ヲ製シ送付スレハ神速ニ相連ヒ志願日限切迫スト雖モ願書ヲ受領回送スルコトヲ得ルニ依リ郡市長ニ於テ調製スルヲ便利ト思考ス

京都府

○明治二十七年陸軍省令第六號  
(屯田兵召集規則)第九條ノ府縣知事吏員ヲ集合地ヘ派遣セシメ補助セシムルコト

屬派出ラ止メ集合地ノ郡市書記ニ補助スルコトニ改正ヲ望ム

志願者家族ヲ取纏メ受領員ニ引渡シ且宿泊乘車乘船等ニ係ル金圓ヲ志願者ヘ交付方ノ補助ヲナス位ニシテ屬派出モ敢テ必要ト認メス是等モ集合スヘキ地ノ郡市書記ヲ以テ補助セシメ差支無之ト思考ス

德島縣

同第九條  
同第五條

本條ノ兵員引渡等ニ關スル取扱ノ補助ハ聯隊區司令官ニ於テ同部ノ書記ヲシテ補助セシムルコトニ改ム  
本條ノ願書及身元等ハ府縣廳ニ差出サンメス

屯田兵志願者ノ身體検査ハ聯隊區司令官ニ於テ執行ス

廣島縣	市町村長前條ノ願書ヲ受領シタルトキハ第五書式ニ依リ志願者ノ身元證明書ヲ作リ願書ニ添ヘ府縣廳ニ差出シ府縣廳ニ於テハ之ヲ審査シ云々	市町村ヨリ直ニ當該聯隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヘ送付セシムルコトニ改ム	ルヲ以テ同司令部ニハ志願者連名簿等關係書類ヲ備ヘ且志願書差出シタル後ノ異動ハ隨時同司令部ニ届出テシムルノ例規ニテ司令部ニ於テ志願者及其家族ノ人員年齡等判明セルモ府縣廳ニ在テハ一旦市町村ヨリ差出セシ連名簿願書等召集規則第五條ニ依リ聯隊區司令部及屯田兵司令部ヘ回送スルヲ以テ別ニ人名簿ノ備ヘ置ナシ隨テ同規則第九條ニ依リ移住者ヲ引渡シノ事務ヲ補助スルニハ別ニ更メテ名簿及其家族ノ人員年齡ヲ區別シタルモノヲ調製シ出願後ノ異動ヲ加除シ置カサレハ志願者人員及男女ノ別等判明ニシテ引渡ニ差支少ナカラス依テ之ヲ聯隊區司令部ニ取扱ハシメントスルニ由ル
石川縣	○明治廿五年陸軍省令第五號陸軍旅費支給規程並廿七年法律第廿三號市町村長ヲ以テ前渡官吏トスルコトヲ得ル件 島司郡市長及市ニアル稅務署長又ハ島廳郡書記ヲ以テ出納官吏トシテ交付ス 但廿七年法律第二十三號ハ支出規程ノ改正ナキヲ以テ實施セラレス	臨時召集ハ一聯隊區毎凡一二ヶ所集地ヲ定メ置キ其集地迄ノ旅費ハ市町村役場ニ於テ繰替本人ニ支給シ退テ師團ヘ戻リ請求スルコト並集地ニハ聯隊區司令部員出張シ同地ヨリ召集地迄ノ旅費ヲ支給スルコトニナリタシ	臨時召集旅費ハ師團ノ通牒ニ依レハ召集發令後廿四時間ノ後支出規程第五條ノ令達アルノ時間ヲ要スル趣ナレハ夫レハ尙數多ノ手續ヲ經テ本人ニ交付スルモノナレハ令狀受領後旅費ノ交付遲引スル爲メ出發遲延ス故ニ市町村ニ於テ繰替支給スルコト、セハ令狀受領直ニ旅費ヲ受領スルヲ得速ニ應召スルヲ得ヘシ
愛媛縣	○明治廿三年法律第四十五號 軍人恩給法第廿五條第一中「文官判任以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ」 憲兵隊服務規則 第百十六號	「文官判任以上ニ任シタルトキ」ト改正ヲ要ス 憲兵ノ配置ハ兵營所在地ニ止メ其他ノ町村ニ配置スルコトヲ廢セラレハヲ要ス	官吏恩給法ニヨリ恩給ヲ受クルモノ郡區書記ニ任セラレタルトキハ恩給ヲ停止シ軍人恩給法ニヨリ恩給ヲ受クルモノ同書記ニ任セラレハ、モ恩給ヲ停止セラレサルニ於テハ權衡ヲ得サルニ依ル

埼玉縣	○明治二十九年勅令第二百三十八號 陸軍服務條例 第百六十四條 餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者ハ内閣ニ具狀シ認可ヲ受クヘシ	技術官又ハ巡査看守ノ職務ヲ奉スル者ハ認可ヲ受クルノ手續ヲ省キ單ニ所管師團若クハ聯隊區司令部ニ通報スルコトニ止ム	ノ場合ニ於テ臨時派遣セラレハコトニ改メラレシコトヲ望ム 上請中召集令狀ニ接シ爲メニ擔任事務ニ障礙ヲ來スノ場合往々之アリ故ニ此改正ヲ施シ以テ其害ヲ除キ大ニ各官廳ノ手續ヲ省カントスルニ由ル
-----	---	---	---

佐賀縣	憲兵職制ノ件	憲兵ノ職制ヲ改ム	現時本邦ノ警察官吏ハ四種アリ第一ハ警視廳及府縣廳ノ管スル所ノモノ即チ普通警察官吏ト稱スルモノ第二憲兵第三山林警察官吏第四鐵山警察官吏トス而シテ山林及鐵山ノ警察ハ前各項ノ如ク官林鐵山ヲ以テ地方廳ノ管理トセハ從テ其警察事務モ地方廳ニ歸スルヲ以テ爰ニ贅言ヲ要セスト雖モ獨リ憲兵ニ至リテ素ヨリ地方官ノ統轄スヘキモノニアラサルヲ以テ從テ憲兵制度ノ改正ヲ要スルモノアリ現制ニ依レハ憲兵ハ軍事ニ關スル警察ノ外普通行政司法ノ兩警察事務ヲ執行スルモノニシテ所謂同一事務ヲ二個以上ノ官署ニ於テ重複ニ處理スルニ當リ頗ル處務簡捷ノ主旨ニ反ルノミナラス地方警察ノ行動ト衝突ヲ生シ甲ノ着手セル或機密ノ事件ニ關シ乙モ亦知ラスシテ是ニ着手シ爲メニ甲ヲシテ機ヲ失セシメ其結果甲乙共ニ其目的ヲ達シ得ザルカコトキヲナキヲ保セス其他冥々ノ裏双方職務執行上ニ生スル故障枚舉ニ迫アラサルヘシ故ニ憲兵ノ制度ヲ改メ憲兵ノ職務ハ軍事警察ニ限り地方警察官ノ請求アルニアラサレハ普通警察ニハ一切關係セシメサルコト、シ以テ其職權ノ區域ヲ明ニスルハ最モ必要ノコトナリトス
-----	--------	----------	--

神奈川縣	○明治十五年太政官布達第二十 六號 徵發事務條例ニ依リ徵發物件調査ノ件	徵發物件調査事項ヲ改正シテ簡易ニシタシ	本表中人口戸數寺院學校及物産ノ收穫高等ハ各其主務省ニ於テ調査スルモノト同一ナラシメ僅ノ差違アルカ爲メ一事件ニ就キ二途ノ調査ヲ爲サ、ルヲ要スルニ由ル
------	---	---------------------	---

群馬縣	○明治十五年第四十三號布告徵發令 同年第二十六號布達徵兵令事務條例	改正	徵發令同事務條例第一節團徵發馬匹事務細則及借上馬匹取扱規則徵發馬匹買上規定蹄鐵工事務細則獸醫雇入規定等ノ設アリト雖モ之レヲ實際ニ應用スル場合ハ一方ニ兵員召集アリ郡市役所以下町村役場ノ事務非常ノ繁雜ヲ加フルノ際ナレハ之レヲ處理スルノ令規ハ可及的簡明ナルヲ望ム而シテ從來徵發馬匹買上事務上ノ實際ニ徵スルニ郡市町村ノ徵發區ヲ廢シ物件ノ何タルヲ問ハス舉テ府縣徵發區トシ總テ徵用スヘキ物件ハ府縣知事力處辨スルノ規定ニ改メ其費用ノ如キハ國費ヲ以テ團隊長ノ要求ニ應ジテ府縣知事ハ其物件ヲ指定地ニ差出スモノトセハ扱上便益不尠ト考フ
群馬縣 (新設)	○明治廿八年陸軍省訓令甲第一號 國民兵召集事務準則召集名簿ハ聯隊區司令部郡市役所町村役場ニ備置クヘキノ規程	徵兵徵發召集ノ事務ヲ管掌スル文官ニ武官ノ職務ヲ執ラシムルコト	府縣知事ヲ軍務長官トシ府縣書記官警部長市長ヲ軍務官トシ府縣屬警部郡市書記若干ヲ軍務官補トシ其身分取扱ハ武官トシ且一定ノ服制ヲ設ケ執務上便ナラシムル事 國家事アルノ日ニ當テハ野戰ト留守ノ計畫アリテ間然スル處ナキモノ、如クナルモ客年以來行政ニ關聯シタル軍事上ノ事務ヲ見ルニ大ニ將來考慮ヲ要スヘキ點アリ且軍事上ニシテ苟モ行政事務ニ涉リ地方廳ニ關スル事柄ハ武官以外ノ者ヲシテ責務ヲ負ハシムルヲ可トス故ニ本項ノ如ク規定ヲ望ム所以ナリ
愛媛縣	○明治廿二年陸軍省訓令甲第五號 徵兵失蹤者ノ所在發顯報告ノ件	召集名簿ハ市町村役場ニ備置クコトニ改ムルヲ要ス 國民兵轉籍シタルトキ轉籍先市町村長ニ通知スル手續本項中ニ追加シタシ	召集名簿ハ聯隊區司令部郡市役所町村役場ニ備置クヘキノ規定ナルモ司令部及市町村役場ニ備置クトキハ別ニ郡役所ニ置カシムルノ必要ナキヲ以テ郡長ハ町村ヲ監督スルノ責ニ任スルコトニ止メ郡役所ニ調製セシムル分ハ從來多クノ勞費ヲ要スル點モ有之勞廢止セラレシトヲ望ム 國民兵名簿ハ市町村役場ニ設置シアルモ轉籍ノ際通知ノ手續規定ナキ爲其際一々之ヲ調査スルハ複雜ナルニ由ル
神奈川縣 (同上)	同上所在發顯報告ヲ廢止シタシ	本件ハ各主管ノ郡市長ニ於テ調査スレハ陸軍省マテ報告スルノ必要ヲ認メサルニ由ル	

神奈川縣	○明治廿二年陸軍省訓令甲第五號 徵兵失蹤者ノ所在發顯報告ノ件	同上所在發顯報告ヲ廢止シタシ	本件ハ各主管ノ郡市長ニ於テ調査スレハ陸軍省マテ報告スルノ必要ヲ認メサルニ由ル
鳥取縣	○明治二十二年勅令第四百四十四號 豫備後備下士ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スルモノハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集セラレ、コトナシト雖トモ巡查看守ハ豫メ内閣ニ具狀シ許可ヲ請フニアラサレハ召集ヲ免除セラレサルノ件	巡查看守ヲ奉職シタルモノハ當然召集ヲ免除セラレタシ	巡查看守ハ其職務上除人ヲ以テ代フヘカラサルモノタルコト明カナレハ每人具狀ノ繁ヲ省カレタシ
群馬縣	○同徵兵事務條例明治二十九年陸軍省令第十號徵兵施行細則	徵兵検査ハ郡市長ニ於テ雇醫ヲシテ検査セシムル其兵役ニ堪ヘサル者及身幹定尺ニ滿タサル者ハ直ニ兵役免除又ハ國民兵役ノ處分ヲ爲シ餘ハ悉ク假合格トナス事 假合格ハ三四ヶノ徵募區ヲ合シ聯隊區司令部郡市長陸軍々醫出張検査シ直ニ抽籤セシムル事	從來徵兵検査ニ徵スルニ其壯丁ハ一年毎ニ増加シ隨テ検査日子ヲ延長シ徒ニ徵兵事務ヲ複雑ナラシムルノ感アリ因テ顯然タル不合格者ノ如キハ第一項ノ如ク處分シ第二項ノ如ク假合格者ヲ再検査ノ上直ニ抽籤ヲ執行スルモノトセハ検査日子ヲ短縮シ抽籤事務ヲ簡ナラシメ諸般整理神速ナルヘシ故ニ改正ヲ求ムル所以ナリ
德島縣	○明治二十九年勅令第一百二十二條 徵兵事務條例	悉皆検査済ノ上抽籤ヲナスコト、セン	壯丁抽籤ヲ各徵募區毎ニ執行スルトキハ條例第五十三條ニ依リ寄留地ニ於テ身体検査ヲ受クル者ノ如キハ實際ニ於テ其本籍徵募區ト寄留地徵募區ト検査執行時期ヲ同フセサルモノ多クシテ寄留地ヨリ検査成績ヲ報告シ來ルトキ本籍徵募區ハ既ニ抽籤結了セシモノアリ是等ハ翌年更ニ身体検査ノ上徵集セサルヲ得然レトモ翌年モ亦同一ノ結果ヲ來ストキハ其年モ亦應徵セシムルコトヲ得サルノ不便アリ且兵種撰定ノ如キモ各徵募區ノ壯丁悉皆検査済ノ上抽籤スルコト、セハ彼是徵募區ノ各兵種ヲ組替スルコトヲ得ラルヘクシテ大ニ便利

ナルノミナラス一府縣内甲徵募區抽籤未済ヨリ乙徵募區抽籤既済ノ郡市へ轉居スルモノハ翌年徵集ニ回サ、ルヲ得サルヲ以テ或ハ忌避ノ爲メ轉居スル等ノ弊ヲ釀スノ掛念ナシトセス加フルニ壯丁悉皆検査済ノ上抽籤スルモノトセハ一時ノ疾病他行等ノ者ニテ翌年回シト爲ス者ヲ減スヘキニ付一聯隊區内各郡市徵募區ヲ通シテ抽籤ヲ行フコトニ改メラレシコトヲ望ム

事務簡捷ニ關スル意見(海軍省ノ部)

府縣	現行規程大要	改廢及新設要領	改廢及新設事由
廣島縣	○廿一年海軍省令第六號 豫備兵飯家シタルトキ戸長へ届出又轉籍又ハ寄留地其他身上異動ヲ鎮守府へ届又其寫ヲ以テ郡區長へ届出	豫備兵又ハ後備兵トアルヲ下士ノ明文ヲ加ヘ又十四日以上ノ旅行モ届出サシメ寄留旅行者共召集令アルモ通報スヘキモノヲ定メ届書ニ連署セシメ又郡區長へ寫ヲ以テ届出ヲ廢止シ鎮守府へノ届書ヲ郡市ヲ經由スルトシ且總テ届出ノ期限ヲ定メ其届ヲ怠ルモノハ相當ノ制裁ヲ加ヘラレタシ	本令單ニ兵員ニ係ルモノナルモ實際下士モ其届出ヲナサ、レハ召集ノ場合住地等詳ナラス現ニ廿七年臨時召集ノ片差支アリシ又届出ヲ怠ルモ制裁ナキカ故ニ異動モ届出ヲナサ、レモノノ中七八ナリ又異動ヲ鎮守府ニ届又別ニ郡長ニ寫ヲ届出シムルハ煩雜ニシテ届出ヲ怠ルノ因トナレリ旅行者モ届出ヲナサシメサレハ數月ニ涉リ航海等ヲナスモノアリ又寄留旅行者ノ召集ノ場合通報人ヲ定メ届出シメ置カサレハ差支アリ但廿七年海軍省令第六號ニテ通報人ノ定メアルモ該項ハ海員トナリ願ニ依リ其船籍港等ヨリ直ニ召集ニ應スルモノ、ミノ規定ナレハ普通他ニ寄留旅行者ノモ、通報人ナケレハナリ
京都府	○廿一年海軍省令第五號 海軍志願兵徵募細則第七條ノ屬書記ヲ検査所へ派出シ事務補助ヲナス	屬書記ノ派出ヲ止メ検査所ヲ設置スル地ノ郡市書記ニ補助スルコトニ改正ヲ望ム	屬書記派出ハ敢テ必要ト認メス志願者合格スレハ該人ノ戶籍明細書ヲ町村長ニ於テ即時調製セシムヘキ位ニシテ其他重要ノ事件無之ニ付検査所設置スル地ノ郡市書記ヲ以テ補助スレハ屬書記ノ出張旅費モ削減シ別ニ差支ノ義無之ト思考ス
廣島縣	○廿七年海軍省令第六號 寄留地又ハ船舶乗組中船籍港ヨリ直ニ召集ニ應セントスルモノノ海兵團ニ願出許可ヲ得タル上其地ノ市町村長ノ奥印ヲ以テ原籍町村長ヲ經テ郡長ニ届出ス	許可證ハ寄留地島司郡市長町村長ヲ經テ本人ニ下付シ其島司郡市長ハ其旨ヲ本籍郡市長ニ通報シ且本籍郡市長ハ本人志願兵又ハ徵兵出身ノ區別及豫備後備編入ノ年月日並賃働者ハ滿期ノ年月日共寄留地島司郡市長ニ通報スルコトニ改メラレタシ	實驗ニ依ルニ許可ヲ得タルモノ届出ヲナサ、レハ十中八九ナリ右ハ手數ノ煩ハ敷カ故ナルヘシト雖モ一朝召集ノ令アル片差支ノ憂アリ且召集令第二條但書ニ據レハ現役ヲ離レ豫備役トナリシ年月日ヲ寄留地郡市町村長ニ於テ詳カニセサレハ召集ノ令アル片差支アリ故ニ其豫備役等編入ノ年月日等原籍郡市長ヨリ通報ヲ要ス

廣島縣	○廿七年海軍省令第七號 召集令狀ハ島司郡市長ニ於テ保管シ置召集發令ニ際シ豫定脚夫ヲ以テ各自ニ送達ス	令狀ハ町村長ニ保管セシメ其異動ヲ訂正セシメ發令ノ際島司郡市長ヨリ旅費支給ヲ始ムル時日及場所ヲ町村長ニ達シ町村長ハ令狀ニ規則第十六條ノ事項ヲ記入シ各自ニ配達スルコトナリタシ	郡部ニ在テハ市ト異リ人家各所ニ散在シ郡役所々在ニ於テ雇入タル脚夫ハ其村落ニ入り兵員ノ住所ヲ尋テ夜間ノ如キハ住家ヲ知ルニ不便不現ニ去ル廿七年臨時召集ノ際ノ如キ不便ノ感アリ故ニ本文ノ如ク改正セラル、ニ於テハ町村長ニ於テ其地ノ者ヲシテ配達セシムレハ兵員所在ヲ詳悉スルヲ以テ迅速ニ送達スルヲ得ヘシ
神奈川縣	○廿二年海軍省令第三號 海軍下士卒家族ノ異動海兵團ニ通知ノ件	同上異動通知ヲ廢止シタシ	本件ハ現役中ノ異動ナレハ本人ヨリ直接海兵團ニ届出シメ地方廳ヨリ通知セシムルノ必要ヲ認メサルニ由ル
廣島縣	(同上)	地方廳ニ届出ヲ廢止シ戸主又ハ親族ヨリ海兵團宛届書ヲ市町村長ニ差出シ市町村長ハ戶籍ニ照較ノ上奥印(郡)ハ郡長經也海兵團へ回送スルコトナリタシ	戶籍異動ヲ地方廳ヨリ通報スルニハ名簿ヲ備ヘ置キ届書ト照較シ加除セサルヲ得然ルニ從前ハ家族扶助金ヲ地方廳ニ於テ交付スル手續ナリシカ廿三年海軍省令第七號ヲ以テ扶助金ヲ地方廳ヨリ交付スルヲ廢セラレタレハ其戶籍異動地方廳ニ於テ知ルノ必要ナク之ヲ廢スレハ名簿ヲ備フルノ要ナク手數省略ノ一端ナラン

### 事務簡捷ニ關スル意見(司法省ノ部)

府縣	現行規程大要	改廢及新設要領	改廢及新設事由
長野縣	裁判所構成法ニ關スル件第十八條 各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク (第二項略ス)	第十八條ヲ改正シ區裁判所ノ檢事ヲ廢シ警部ヲ以テ其事務ヲ取扱ハシメントス	區裁判所ノ檢事員若クハ不在等ノ節ハ其地ノ警察官ヲシテ事務ノ代理ヲ爲サシメラル、規定ナルカ元來區裁判所ノ檢事ハ一名ノ定員ナルヲ以テ出張、欠員、賜暇、病氣、看護、忌引等往々不在ノ日多ク爲メニ事務多端ナル警察官ヲシテ專ラ其事務ニ從事セシメサルヲ得サル場合少シトセス警部定員アリ僅カニ一名ヲ以テ一署ヲ理スル警察署ニ在テハ一ト度ヒ檢事ノ事務ニ當ルトキハ其間定規ノ巡回ヲ欠略スルノミナラス諸般ノ事務滯滞ヲ來スハ勿論時トシテ緊急活機ノ處分ヲ過ツヘキ虞アリ故ニ斷然警察官ヲシテ檢事ヲ務代理ヲ廢スルカ否ラサレハ寧ロ區裁判所檢事ノ事務ハ警部ヲ以テ之レニ充テ其費用ハ其向ヨリ支出セラレ區裁判所々在地ノ警察署へハ必ス警部二名以上ヲ配置スルコトハセハ彼我頗ル便益ナルヘシト思考ス
德島縣	第三百七十七條第十八條及八十四條ニ掲ケタル官吏ハ第三百三十五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受ケル官吏中ニ之ヲ包含ス	但第三百三十六條第二ノ場合ハ第十八條及第八十四條ニ掲ケタル官吏ニ適用セスノ但書ヲ追加ス	構成法第十八條及第八十四條ニ掲載シタル官吏ハ司法警察事務ヲ除クノ外各其所屬長官アリテ相當監督權ヲ有セルヲ以テ檢事カ其職務上ニ非サル行狀ニ至ル迄監督權ヲ適用セントスルハ穩當ナラサルニ付本項ノ追加ヲ望ム
佐賀縣	刑事訴訟法ニ關スル件 第八十二條拘留狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致スヘシ若シ其監獄署ニ引致スルコト能ハサルトキハ假ニ最近ノ監獄署ニ引致スル	刑事被告人ノ拘禁ハ裁判所自ラ之ヲ爲シ有罪ノ判決ヲ爲シタルモノハ確定ノ後監獄署へ執行ノ爲メ交付スルコトニ改メラレシコトヲ望ム	刑事被告人ハ專ラ裁判所ノ管理ニ屬スルヲ以テ裁判所内ニ監倉ヲ設ケ拘禁セハ被告人等カ接受及發送スル所ノ信書及差入書籍ノ檢閱且ツ願訴ノ許否或ハ尋問呼出等ニ至ル迄裁判進行上敏活ヲ計ル上ニ於テ最モ有益ナルコト、信ス

滋賀縣	滋賀縣	香川縣	愛媛縣	滋賀縣
コトヲ得何レノ場合ニ於テモ監獄署長ハ合狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取り其證書ヲ渡スヘシ	第八十四條 勾留狀ヲ受クヘキ被告人既ニ監獄署ニ至ルトキハ執達吏ヲシテ之ヲ本人ニ送達セシムヘシ	刑法附則ニ關スル件 第十八條服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日内ハ工錢ヲ給與セス	第二十二條 監視ニ付スヘキ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル後典獄ヨリ最近ノ警察署ニ護送シ其警察署ヨリ居住地ノ警察署ニ送致シ監視ヲ執行セシム云々	第二十五條但書 但途中事故アリテ淹滞シタルトキハ第三十一條ノ例ニ從フヘシ
令狀送達ハ監獄署長ニ之ヲナスト改ム	削除	監視ニ付スヘキモノハ監獄署ヨリ直ニ旅券ヲ付シ住居ノ地警察署ニ一件書類ヲ交付スル事	現役一百日未滿ノ囚ニ工錢ヲ給與スルコトニ改正スルヲ要ス	廢止スルヲ要ス
執達吏直ニ之ヲ本人ニ送達スルトキハ一々之ヲ引出スノ煩アリ且檢束上ニ影響ヲ及ボスヲ以テ民事訴訟法第百四十條ト同一ニ改正セラレタシ	削除スルモ差支ナシ	事務ノ敏捷ヲ圖ルタメ而已ナラス行政上有益ノ參考トナルコト少ナカラス爲メニ此改正ヲ要ス	定役囚ニ對シテハ現役百日經過ノ後工錢ノ中其幾分ヲ給與スルノ規定ナリ然ルニ此規定ニ據ル時ハ短期刑ノモノハ之ヲ受クル能ハス加之長期ノ囚ト雖モ亦貧弱ルヘキモノナキモノ出獄後生計ヲ營ムノ資ニ供シ若クハ歸郷ノ旅費ニ充テシメ且勞働ニ對シ多少ノ報酬ヲ與フル等役業獎勵ノ一助トナリ又自ラ勞役ニ耐ユルノ良習慣ヲ造リ或ハ再犯豫防ノ方便トナルヘキヲ以テ百日本未滿ノ囚ト雖モ工錢ヲ給與スルコトニ改メラレシム	監視人ヲ監獄ノ別房ニ留置スルノ煩ハ今更多辯ヲ要セサルヘシ速ニ改メラレタシ

佐賀縣	大阪府	福井縣	福井縣	福井縣
同上	登記法ニ關スル件 登記法第十六條第十七條第十九條ノ場合ニ於テ處分ヲ爲シタル官廳ヨリ登記ヲ求ムルコト	司法警察官執務手續(此手續ハ檢事總長ノ訓示ニ係リ本年九月中福井地方裁判所檢事局ヨリ司法警察官へ通達セシ旨ヲ以テ本縣警察部へ通牒セシモノナリ) 第一條ヨリ第十一條ニ至ル犯罪ニ關スル事件	工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在リテ歸着スル資力ナキ者亦同シ 第三十三條 監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スルノ資力ヲ得タルトキハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム	附加刑監視
區裁判所ヲ廢シ登記事務ノ取扱ヲ變更スルヲ要ス	法第十六條二項ヲ削ルコト	削除	廢止	廢止
區裁判所ハ裁判所事件表ノ示ス所ノ如ク各府縣管内ニ於ケル極メテ樞要ナル場所ノ外一年ノ件數民刑事事ヲ合セテ二百件乃至五百件ニ過キス甚敷ハ其件數二百件ニ足ラサルモノアリ故ニ樞要ノ地ヲ除クノ外之ヲ平均スル片ハ一ヶ所三百件内外ナルヘク而モ其事件タル極メ	公賣拂下等ノ場合ニ於テハ落札違書代金完納證并指令若クハ違書ヲ示スモノナレハ處分ヲ爲シタル官廳ヨリ登記ヲ求ムル要ナカルヘシ	監視ノ執行ハ警察署警察分署ニ於テ之ヲ行フト雖既往ノ實驗ニ徴スルニ只繁雜ノ手數ヲ要スルノミニシテ實効少ク眞實改悛ノ狀ヲ顯スモノ極メテ稀ナルノミナラス嚴密之ヲ施行スルニ當リテハ爲メニ違犯者ヲ増シ罪人ヲ増加スルノ嫌アリ且經費ノ點ニ於テモ關係少ナカラサルニ付寧ロ全廢アラシムヲ希望ス	本手續中第一條ヨリ第十一條ニ至ル事件報告ハ頗ル煩密ナルモノニシテ少數ナル警察官ノ能ク履行シ得ヘキニアラス良シ内勤巡查ヲシテ之ヲ爲サシメントスルモ一二名ノ人員ヲ以テハ實行シ難キノミナラス就中第五條乃至第十一條ノ如キハ到底爲シ得サルモノト思料セリ依テ之ヲ削除シ從前ノ如ク司法警察官執務心得第二十條ニ依リ報告スル迄ニ止メタシ	

ヲ輕微ノ事タルヲ以テ一日三四件ヲ處斷スルモ極メテ容易ナラン然ルニ平均三百件トスルトキハ一日一件ニ過キス其無聊ニ苦ム素ヨリ其所ナルヘシ斯ル有様ナルニ拘ハラス判事檢事ヲ在勤セシメ之ニ付スルニ若干ノ書記ヲ以テ其實ニ浪費ノ極ト言フヘシ殊ニ近來各地共ニ鐵道ノ布設日ヲ逐フテ進ミ從來往復二日程ナリシ地方モ僅々二三時間ヲ以テ往來スルヲ得ルヲ以テ區域狹小ナル府縣ニ在テハ一地方裁判所ト一區域裁判所ノ設ケアラハ毫モ不自由ヲ感スルコトナカルヘキヲ以テ平均一地方裁判所管内ニ於テ少ナクトモ二ヶ所區域裁判所ヲ廢止スルハ毫モ妨ケナカルヘシ

登記ノ事務ハ現制ニ在テハ其種類ノ如何ヲ問ハス一切登記所ニ於テスルモノナリト雖モ爲メニ不便ヲ感スルコト甚カラス依テ土地賣買讓與等所有權ノ移轉ニ屬スル事項ハ稅務署ニ於テシ買入書入ノ類ハ市町村役場ニ於テシ右ノ外商會社其他ノ登記ハ區域裁判所ニ於テセハ獨リ官民ノ利便ヲ得ルノミナラス登記所ヲ廢シテ其費用ヲ節スルヲ得ルノ利益アリトス其右ノ如ク變更スルノ利便ナル所以ハ從來土地ノ所有者ヲ公認スルノ臺帳ハ稅務署ニ在テ市町村亦租稅ノ徵收地籍管理等ノ必要ニ依リ稅務署ト同一ノ臺帳ヲ設備セリ而シテ賣買讓與質入書入其他所有權ヲ保有セントスル場合ニ於テハ更ニ登記法ノ規程ニ依リ登記所ニ登記ヲ請フノ手續ナルカ故ニ登記所ニ於テモ亦其土地ノ番號位置地目反別等ヲ知ルノ必要アリ爲メニ稅務署ニ設備スル土地臺帳ノ原本ヲ設備セリ依テ現制ニ在テハ稅務署登記所市町村役場ノ三ヶ所ニ關聯シ賣買讓與其他登記ノ事項ハ登記所ヨリ稅務署ニ通知シ稅務署ハ之ヲ市町村ニ移牒シ又未タ登記ヲ受ケサル土地ニ就テハ稅務署ヨリ登記所ニ通知シ登記所ハ之ニ依テ臺帳ヲ訂正シ他日登記ヲ請フモノアル場合ノ憑據トスル等双方大ニ手續ヲ要スル

ノミナラス或ハ登記請求者ノ失誤ニ依リ或ハ臺帳原本ノ誤謬ノ爲メ登記ノ事項稅務署ノ臺帳ト符合セサルカ如キ煩雜アリ加之登記請求者ニ於テモ現行ノ手續ハ大ニ不便ヲ訴フルノ有様ナルヲ以テ將來賣買者ハ土地ノ市町村役場ニ至リ賣買契約書ヲ市町村長ニ示シ登記請求書ヲ提出シ市町村長ハ其契約ノ確實ナルヲ證明シ登記請求書ヲ便宜稅務署ニ送付シ稅務署ニ於テ登記セハ現行ノ如ク登記所ト稅務署間ノ通牒ヲ要セスシテ官民共ニ便利ヲ得ヘク又土地ノ買入書入等ハ市町村役場ノ土地臺帳ニ據リ市町村長ヲシテ登記セシメハ又請求者ノ便利甚カラス右ノ外商會社其他ノ登記ハ極メテ少數ナルカ故ニ區域裁判所ニ於テ登記スルモ敢テ多數人民ノ不便ヲ來スカ如キコト之ナカルヘク而シテ右ノ爲メ稅務署及市町村役場ニ於テモ特ニ費用ヲ要スルコトナキヲ以テ現今登記所ノ經費ハ全ク之ヲ節シ得ルモノナリトス

事務簡捷ニ關スル意見(文部省ノ部)

府縣	現行規程大要	改廢及新設要領	改廢及新設事由
山口縣	○明治十四年文部省達第四號(府縣立學校幼稚園書籍館等設置廢止規則)	同第一條第二條第三條中左記事項變更ノ場合 稟請若クハ報告ヲ廢スルコト 一 學校長教員助教員心得(保姆等職務心得)及其人員俸給額 二 敷地建物ノ略圖坪數及所有ノ區別 三 經費收入支出及細目 四 教科用書及器械 五 保姆用器械 六 生徒(幼稚)概數 七 學校長履歷教員學力及履歷 八 保姆學力及履歷 九 書籍ノ種類部數等	規則第四條ニ府縣立學校幼稚園書籍館設置後第一條第二條及第三條ノ各項中ニ變更アルトキハ其都度何出若クハ開申スヘシトアリ然ルニ師範學校令元第五條ニ於テ師範學校經費ハ其豫算ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘキ旨規定アリシヲ二十四年勅令第二百十六號ヲ以テ認可ヲ要セサルコトニ改正セラレ又二十六年文部省令第七號第二項ヲ以テ尋常師範學校設備規則第十三條ヲ改メテ校舍建築ノ事項ハ報告ニ止メ認可ヲ要セサルコトニ改正セラレタルヲ以テ彼此權衡ヲ得サルノミナラズ教員保姆ノ進退ハ勿論書籍器械等ハ常ニ異動頻繁ニシテ之レカ變更ノ都度其手續ヲナスハ頗ル煩雜ニ涉ルニ付第二ハ報告ニ止メ其他ハ許可又ハ報告ヲ要セサルコトニ改メタシ
靜岡縣	(同上)	尋常中學校ニ關スル部分廢止シタシ	尋常中學校ノ事ハ中學校令其他學科課程等ニ至ルマテ勅令省令アレハ今日ニアリテ別ニ其必要ヲ認メサレハナリ
群馬縣	(同上)	學校ノ變更幼稚園書籍館ノ設置變更等ハ認可ヲ經ルヲ要セサルコトニ改ム	府縣立幼稚園書籍館等設置廢止規則ハ前勅令ノ範圍ニ於テ定メタルモノニアラサルモ偶然勅令ノ細則トナリシモノナレハ亦伴フテ改正セサルヘカラス
德島縣	府縣立學校幼稚園書籍館等設置廢止等ヲ文部大臣ニ何出若クハ開申スルノ件	設置及廢止并ニ變更ニ係ル件ハ開申ニ改メ尋常師範學校尋常中學校商業學校ノ如ク別ニ學科程度等ノ規定アルモノハ其學科程度等ハ開申ニ及ハサルコト	府縣立學校等ノ設置及廢止並ニ變更ハ其經費ノ關係ヨリシテ何レモ府縣會ノ議決ニ付シテ後ニ文部省ニ何出ツル順序ナルモ府縣ニ於テ既ニ其必要ヲ認メ設置變更セントスル場合ニ於テ文部省ノ認可ヲ得サル様ニテハ府縣知事ノ威信ニモ關シ教育上ノ一大妨害タラサルヲ保スヘカラス殊ニ設置變更等ニ關シテハ夫々規定モ



兵庫縣	熊本縣	愛媛縣	德島縣	德島縣	愛媛縣
(同上)	町村私立學校(小學校ヲ除ク)認可ノ節教則ヲ文部大臣ニ開申ス	○明治十六年文部省號外達 學校職員任用ノ際ハ豫メ官廳又ハ學校等ニ就キ經歷調査方照會ヲ要ス	學校職員ノ經歷等管轄廳又ハ奉職ノ官廳若クハ學校ニ照會ノ件	○明治十八年文部省達第七號 府縣立學校授業料額及徵收方法等ヲ伺出ツルコト	○明治二十年勅令第四十一號 氣象臺測候所條例第二條ニ依リ 地方測候所ハ地方長官之ヲ管理シ其經費ハ地方稅ノ支辨ニ屬ス
簡捷ナル規程ヲ設クル	教則開申ヲ廢セラレ度	本達廢止ヲ要ス	新任ノ者ニ限リ照會詳查スルコトニ改正ス	「其額」ヨリ以下「伺出ヘシ」マテノ十七字削除	地方測候所ヲ文部省直轄トシ國庫ノ支辨ニ屬センコトヲ要ス
同 上	知事ニ許否權ヲ與ヘシニ其教則ヲ開申セシムルハ無用ノ手數ナルノミナラス若シ其開申ニ依リ改正等ノ命令アレハ知事ハ一旦認可セシモノニ改正ヲ促カサハルヲ得ス自然職權上不都合ナルニ由ル	公立學校長教員採用ノ場合其者ニ不都合ナキヲ認メナカラ本達ノ爲メ形式上照會セサルヲ得ス爲メニ任用選延スルノミナラス甲乙兩廳ノ手數ヲ要スル掛ナカラス依テ必用ト認ムル場合ハ隨意ニ照會調査スルコトハ本達ハ之ヲ廢止セラレンコトヲ望ム	教員任用ノ際其本人ノ經歷等ヲ詳查スヘキハ勿論ナルモ新任ノ者ニ必要ニシテ現ニ奉職セル者ハ其奉職地ニ於テ是等ノ手續ヲ了シタレハ更ニ其手續ヲナスヲ要セサルニ由ル	授業料ノ徵收及其員額ノ規程ハ文部省ニ稟議ノ必要ナキヲ以テ府縣限リ決行セントスルニ由ル	氣象觀測ノ事タル專門ノ技術ヲ要スル論ヲ俟タスト雖モ地方測候所ノ如キハ地方稅支辨ニ屬スルヲ以テ經費充分ナラス隨テ當器者ヲ得ルニ難ク其技手俸給ノ點ニ於テモ一等測候所ト二等測候所トノ間各縣區々ニ涉リ其權衡ヲ得サルモノ多ク到底一律普及ノ効ヲ奏スル能ハス斯業ノ爲メ深ク遺憾トス依テ之ヲ文部省ノ直轄トナシ等給ヲ更メ俸給ノ權衡ヲ計リ以テ國家事業トシテ

德島縣	島根縣	
○地方測候所費ハ地方ノ支辨ナリ	○地方測候所ハ地方廳ノ所轄ナリ	
國庫ニ移サレンコトヲ望ム	文部省ノ直轄トスヘシ	
經營セラレンコトヲ望ム		
明治二十年勅令第四十一號氣象臺測候所條例ニ依リハ測候所ノ費用ハ測候所々在地ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘキコトナルモ其事務ノ關係ハ專ラ中央氣象臺ニ屬シテ離ルヘカラサルモノニシテ獨リ測候所ノミニテ活動ヲ得サルモノナレハ其經費ハ國庫ノ支辨ニ移サレンコトヲ望ム	氣象觀測ノ殖産航海等ニ必要ナルハ論ヲ俟タス然ルニ現設地方測候所ヲ地方經濟ノ維持ニ委スルハ穩當ナラサルヲ認ム宜シク之ヲ國立トシテ文部省ニ屬セラルヘシ惟フニ地方測候所ノ重ナル事務ハ日々其地方氣象觀測ノ結果ヲ中央氣象臺ニ報告シ以テ各種報告ノ材料ニ供スルニ過キス而シテ測候所ノ地方ニ與フル利益ヲ説クモノ農業ニ漁業ニ航海ニ其他之ヲ應用スルノ區域廣シト言フト雖實際ニ於テハ未タ直接ニ地方ニ利益ヲ與フルコト能ハサルヲ奈何セン抑地方測候所ハ嘗テ政府之ヲ設置シ後之ヲ地方經濟ニ移サレシモ今日ノ事業上ヨリ之ヲ見レハ寧ロ國費支辨ノ舊ニ復スルヲ至當ト信セリ何トナレハ地方測候所ハ所設地方ノ利益ヲ目的トシ又ハ必要ニ迫リテ之ヲ設ケタルモノニアラサルヲ以テ直接其地方ニ利益ヲ與フルコト能ハサレハナリ假シ初ヨリ地方ノ利益ヲ目的トシテ設ケンカ須ラク其地方氣象ノ中和ヲ得ルノ地ニ設クヘキニ却テ之ヲ僻陬ノ港灣ニ置キ或ハ之ヲ偏在セル縣廳所在地ニ置ケリ即チ本縣ノ濱田ニ於ケル鳥取縣ノ境ニ於ケル千葉縣ノ銚子ニ和歌山縣ノ和歌山ニ於ケル其一例タリ由是觀之現設地方測候所ハ政府ノ必要ニヨリ設ケンタルヲ明カニシテ隨テ之ヲ地方ニ維持セシムルノ理由アルヲ認ムル能ハス若シ其直接地方ニ利益ヲ得ヘキ天氣豫報暴風警報	

宮崎縣	(同上)	地方測候所經費ヲ國庫支辨トセラレンコトヲ望ム	ノ如キハ其希望ニ依リ之ヲ報シ以テ其費ヲ徵收スルヲ適當トシ是國立トシテ文部省ノ直轄トシメラルハ、ヲ必要トスル所以ナリ
群馬縣	○明治十九年勅令第十六號 諸學校通則	第三條學校ノ設廢ハ文部大臣ノ認可ヲ經其變更及幼稚圖書館等ノ設廢及變更ハ開申ニ改正	學校ノ變更幼稚圖書館ノ設廢變更等ハ認可ヲ經ルノ要ヲ認メサルニヨル 縣立學校ノ設置廢止ハ文部大臣ニ於テ認可可否スルノ必要アルヘキモ其ノ他ハ事實ニ於テ之ヲ認可可否スルノ要

石川縣	府縣立學校ノ設廢ハ文部大臣ノ認可ヲ受ク	府縣立學校ハ府縣知事ニ於テ其設廢ヲ處分シ事由ヲ報告ニ改メタシ	設備規則等ノ規定モアレハ府縣立學校設廢ヲ文部大臣ノ認可ヲ受クルハ其處分ヲ遅緩ナラシムルノ憂アルニヨル
新潟縣	諸學校通則	左ノ一項ヲ追加ス 公立 <sup>府縣立</sup> 學校圖書館等ハ其郡市町村又ハ町村學校組合及其區ノ議決ニ依リ經費ヲ支辨シ北海道廳長官府縣知事ニ其教育及管理ヲ委託シ縣立ノ名ヲ附スルコトヲ得	時ノ狀況ニヨリ其郡市町村自ラ其學校ヲ管理スルヨリモ寧ロ之ヲ地方長官ニ委託シ別ニ商議委員等ヲ設ケ經濟ヲ商議セシムルノ方法ヲ取レハ却テ其教育等ノ實績ヲ擧クルニ至ルヘケレハナリ
静岡縣	○明治十九年文部省令第四號 第三課長及府縣立學校長變更ノ都度履歷書ヲ具シ開申ノ件	尋常師範學校長及高等官待遇ノ尋常中學校長ニ限リ開申ヲ廢止シタシ	府縣立學校長判任官待遇ノ當時發令セラレタルモノニシテ明治廿五年三月以下ハ尋常師範學校長ハ高等官トナリ尋常中學校長ハ高等官ノ待遇ヲ受クルニ至リタルニヨリ其辭令書ハ文部省ニ於テ取扱ハル、トニ相成リタレハ其變更ノ都度履歷書ヲ添へ開申スルハ徒ラニ手數ヲ掛クルモノニ付改正アラシコトヲ望ム
德島縣	學務課長及府縣立學校長ノ變更進退ノ節ハ其姓名官等俸給履歷ヲ具シ開申スヘシ	文部大臣ノ奏薦ニ係ル尋常師範學校長ノ分ハ之ヲ削リ尋常中學校長ノ如キ奏任待遇ノ者ハ俸給ノミ開申ス	尋常師範學校長ハ奏任官ナルヲ以テ其任用前其氏名履歷ハ文部省ノ詳知スル所ニシテ其俸給官等トハ文部大臣ノ奏薦ニ基クヲ以テ任用後更ニ之ヲ開申スルノ必要ナシ奏任待遇中學校長ニ於ケルモ其氏名官等履歷ハ文部省ノ知ル所ナリ故ニ其俸給額ノミ開申スルヲ穩當トスルニ由ル
兵庫縣	○明治十九年文部省令第廿一號 ○明治二十五年同省令第十三號 ○明治二十七年同省令第八號	上記ノ諸規則ヲ合シテ一篇ノ規則トスル	明治十九年始メテ規則ヲ制定セラレシ以來上欄掲記ノ通漸次其一部ヲ改正シ且其間一二ノ通牒等アリ然ルニ檢定志願者ニ於テハ往々右改正等ノ跡ヲ詳ニセスシテ

大分縣	○明治二十七年文甲第八一三號 文部省文書課長通牒 尋常中學校高等女學校教員免許規則 尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許規則	○明治廿三年法律第九十號 第八條小學校教員退職給與金ニ關スル件 ○明治廿三年法律第八十九號 地方學事通則第十一條學校基本財産ノ件	出願スルヲ以テ數回ノ往復ヲ要スルノミナラス爲ニ手 數料トシテ貼付セル登記印紙(金二圓)ヲ空シテ反古タ ラシムルカ如キ不幸ニ陷ラシムル事アリ依テ渾テ關係 ノ事項ヲ網羅シタル一篇ノ規則トシテ發布セラルレハ 受驗者并ニ當局者トモ大ニ手數ヲ省クヲ得ヘシ 之ヲ増補セントスルハ小學校教員在職五年未滿ノモノ ト雖モ自己ノ便宜ニアラスシテ退職シタルモノニハ退 職金ヲ給スルコト至當ナリト認ムルニ由ル
大分縣	○明治廿三年法律第九十號 第八條小學校教員退職給與金ニ關スル件 ○明治廿三年法律第八十九號 地方學事通則第十一條學校基本財産ノ件	在職滿一年以上五年未滿ノモノハ現俸給一ヶ月ニ當ル金員ヲ給ストノ條項ヲ加ヘラレ度 第十一條中本法實施後二年間トアルヲ削除セラレ度	之ヲ削除セントスルハ從前學校ノタメ設ケタル積立金 ニシテ町村制第八十一條ニヨリ町村基本財産ニ加入シ タルモノ本則實施後二月間ニ學校基本財産トナサ ルモノアリ之ヲ同財産トナスコトヲ得セシメントスル ニ由ル
宮崎縣	○明治廿三年法律第四十四號官 吏遺族扶助法 ○明治廿三年法律第九十號市町 村立小學校教員退職料及遺族 扶助料法 ○明治廿三年法律第九十一號府 縣立師範學校長俸給並公立學 校職員退職料及遺族扶助料法 ○明治廿九年法律第十三號公立 學校職員退職料等ニ關スル件	官吏及教員各自ヨリ納金ノ制ヲ廢止スルヲ要 ス	本項各納金ハ全國幾千百萬ノ官吏教員各自ヨリ毎月俸 給百分ノ一ノ額ヲ徵收スルモノニシテ之レカ徵收ヨリ 過不足ノ追徴下戻及決算ニ至ルマテ各廳各町村各校等 ニ於テ費ス所ノ手數ハ實ニ思ヒ量ルヘカラサルモノア リ而シテ其收入スル所ノ金額ヲ顧ミレハ未ダ些少ニシ テ國庫又ハ地方經濟上決シテ負擔ニ堪ヘ難シトナスニ 足ラサルナリ斯クノ如キハ畢竟右ニ與ヘ左ニ取リ精シ キニ過キ實ニ疎ナルモノニシテ財務整理上故ラニ煩冗 ヲ求ムルニ過キサルヲ以テ宜シク廢止スヘキナリ假ニ 一步ヲ讓リ財力ノ許サレ所アリトセンカ一令以テ官 吏教員俸給百分ノ一ヲ減スルモノ可ナリ是尙彼ノ故ラニ 名目ヲ付シ授受ニ巨大ノ煩勞ヲ費スモノニ比スレハ其 優レルコト退ナルヘシ
神奈川縣	○明治二十三年勅令第二百十五 號(小學校令)	本令第三章ニ故ナク就學セシメサルモノニ對 スル制裁ノ條項ヲ追加シタシ	本令第三章ニ故ナク就學セシメサルモノニ對スル制裁 ノ條項ヲ追加セントスルハ教育普及ノ目的ヲ達セント

新潟縣

第三章學齡兒童就學ノ件

第四條 高等小學校ノ教科目ハ修身何々、  
、、、、、體操トス女兒ノ爲  
ニハ裁縫ヲ加フルモノトス  
土地ノ情況ニ依リ男兒ニアリテ  
ハ外國地理唱歌ノ一科目若クハ  
二科目ヲ欠クヲ得又幾何ノ初  
歩外國語農業商業手工ノ一科目  
若クハ數科目ヲ加フルヲ得

第十二條ノ第二項

府縣知事ハ小學校教則ノ大綱ニ  
基キ其府縣ノ小學校教則ヲ定メ  
文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

府縣知事ハ小學校教則ノ大綱ニ基キ其府縣ノ  
小學校教則ヲ定メ又ハ改正スルトキハ文部大  
臣ニ開申スヘシ

小學校ノ教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定シタル  
モノニ就キ道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ  
第二項刪除

小學校ノ教科用圖書ハ文部大臣  
ノ檢定シタルモノニ付小學校圖  
書審查委員ニ於テ審查シ府縣知  
事ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ル  
ヘシ審查委員ハ云々審查委員及  
審查ニ關スル規則ハ云々

第十六條及小學校教科用圖書審  
查等ニ關スル規則

小學校令第十六條及第五十二條中ノ審查委員  
並ニ之ニ關スル費用ノ件ト明治廿四年文部省  
令第十四號ヲ廢ス

我國ノ狀況女子ニハ高等小學校ヲ以テ最終ノ學校ト稱  
スルモノ可ナリ然ルニ裁縫ノミヲ教授シテ家事ヲ一科目  
トシテ教ヘサルハ不可ナリ又理科ハ教授スルノ優レル  
ニ如カサレトモ時間ナシ依リテ之ヲ欠キ重キ家事ニ  
置キ其内ニテ必要ノ部分ヲ教授スルコトニ改メタシ

大綱ニ基キ規定スルモノナレハ文部大臣ノ許可ヲ受ク  
ルニ及ハサルヘシ從來ノ如ク小改正マテモ一々許可ヲ  
受クルハ繁雜ナリ

地方長官ニ信ヲ置キ責任ニ任シ撰定セシムルヲ可トス審  
査會ノ如キハ却テ審查ノ實ナキモノアルカ如シ且ツ休  
裁ニ流レ多數ニ依リ決スルカ如キハ最不可ナリ地方長  
官公平ヲ保ツ適宜ノ方法ヲ設ケ審查セシメテ可ナリ

小學校教科用圖書審查會ハ其制宜キヲ得サルヲ以テ審  
査ノ都度書肆其他ノ者奔走請託シ其弊害言フニ忍ヒサ  
ル地方モ之アリ教育上ノ醜態掩フヘカラス殊ニ其圖書  
ノ如キハ共ニ文部省ノ撰定ヲ經シモノニテ素ヨリ其等  
差ニ甚シキ懸隔ナキ筈ナレハ總テ府縣知事ノ採擇ニ任  
カセラレ差支ナキニ由ル

德島縣

石川縣

小學校教科用圖書ハ審査委員之ヲ審査ス

教科用圖書審査委員及之ニ關スル規則ヲ廢スルヲ要ス

圖書ノ審査ハ其準備手數ニ涉ルノミナラス其結果善良ナラサル廉アルニ付廢止スル方却テ教育上利益アルニ由ル

小學校ノ修業年限ハ府縣知事ノ許可ヲ受ク

目下ノ狀況小學校ノ修業年限ハ四ケ年ヲ多トスルヲ以テ許可ノ手續ヲ止メ一定セントコトヲ要ス

修業年限ノ如キハ四ケ年ノ外二年或ハ三年ノモノ殆ントナキ委ニ付之ヲ一定セラル、方許可ヲ經ルノ手數ヲ省クニ由ル

小學校ノ教科目ノ加除ハ府縣知事ノ許可ヲ受ク

體操唱歌ノ學科ノ如キハ正科目トシ許可ヲ受クルノ手續ヲ廢止セントコトヲ要ス

教科目ノ加除ノ如キハ土地ノ狀況ニ依ルモノナレハ許可ヲ受ケ之ヲ加除スルハ管ニ手數ヲ増スノミナルニ由ル

小學校ノ補習科專修科ノ廢設教科目加除修業年限ハ府縣知事ノ許可ヲ受ク

補習科專修科ニ係ル設置廢止ハ一切府縣知事ノ許可ヲ受クヘキ手續ヲ廢スルヲ要ス

町村立小學校ノ廢設ハ郡長ニ於テ取調指定スヘキモノニ付豫メ知事ノ指揮ヲ受クルハ却テ率制スルノ嫌アリテ手數ヲ重スルノ憂アルニ由ル

町村立小學校ノ廢設指定ハ府縣知事ノ許可ヲ受ク

小學校ノ廢設ハ郡長ニ於テ直ニ指定シ府縣知事ノ許可ヲ受クルノ例ヲ廢スルヲ要ス

同 上

尋常小學校設置ニ關スル組合ノ廢設ハ府縣知事ノ許可ヲ受ク

學校組合ノ廢設ハ郡長ニ於テ指定シ許可ヲ受クルノ例ヲ廢スルヲ要ス

同 上

學校組合内某町村ニ負擔ヲ定ムルハ府縣知事ノ許可ヲ受ク

學校組合ノ廢設ハ郡長ニ於テ指定シ許可ヲ受クルノ例ヲ廢セシコトヲ要ス

同 上

小學校教員ノ俸給旅費額ハ市參事會町村長ノ意見ヲ聞キ確定ス

俸給旅費額ヲ豫メ聞キ確定スルノ例ヲ止メ府縣知事ニ於テ直ニ取定メシコトヲ要ス

俸給旅費額ヲ豫メ聞キ確定スルハ情弊アルノミナラス手數モ隨テ重スルノ憂アルニ由ル

第十六條

第十六條ヲ削除シ教科用圖書審査ヲ廢スル

第五 教科用圖書ヲ改正實施スルニ適當ナル時期如何

小學校ノ教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審査委員ニ於テ審査シ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ルヘシ

第十六條ヲ削除シ教科用圖書審査ヲ廢スル

依テ以上ノ五項ニ對シ之ヲ考究スルニ

審査委員及審査ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一 小學教育ノ本旨ハ該校令第一條規定ノ如クナルヲ以テ之ヨリ進ンテ高等教育ヲ受ケ若クハ實業ニ從事スル等其事業ノ千差萬別ナルニ關セテ其基礎タルノ價值ヲ有セシメサル可カラズ然ルニ其土地ノ都市タリ開港場タリ若クハ村落タルノ故ヲ以テ一般ノ生徒ニ對シ商業的又ハ農業的ニ教育スルハ宏大ナル勢力ノ萌芽ヲ有スル純白ノ腦力ヲ偏狹ナル模型中ニ壓縮スルモノニシテ實ニ小學校令ノ本旨ヲ誤ルノ甚シキモノト云ハサル可カラサルカ故ニ彼商業的若クハ農業的ノ教育ヲ爲スハ實業補習學校等ノ任ナリトス今之レヲ事實ニ徵スルモ農業地方ノ修身書或ハ工業地方ノ讀本トシテ編纂シタルモノナク又一府縣ニ於テ都鄙ヲ區別スルノ旨趣ヲ以テ一科目ニ就キ數種ノ圖書ヲ採定シタルモノナキノミナラス文部省ニ於テモ可成一科目一種ノ方針ヲ採ラル、ニ於テテヤ故ニ地方ノ狀況ニ適スルヤ否ヤヲ審査スルト云フモ事實上之レヲ適用スルノ餘地ナクシテ一ノ談柄タルニ過キサルヘシ

第二 教科用圖書ハ其記事体裁等一モ間然スル所ナキ善良ノモノナリト雖モ之レカ供給若シ不及ノ恐アラシカ寧ロ之ヨリ數等ヲ讓ルモ其普及ノ見込確實ナルモノヲ採定セサル可ラス是レ即チ衆思ニ依ルヲ要スル所以ナルヘシト雖モ今日ノ如ク官廳ニ於テ編纂出版セシメテ個人ノ出版ニ係ルモノヲ用フルトキハ之カ普及ト否トハ一ニ出版者ノ掌裡ニ存シ他ヨリ之ヲ奈何トモスルヲ得ス試ミニ一例ヲ舉ケンニ一ノ善良ナル教科用圖書ヲ出版シタルモノアリトセンニ數府縣ハ之ヲ採用シ而シテ數年ノ後一二ノ府縣之ヲ廢シテ他ノ圖書ヲ用フルコトアラハ出版者ハ忽チ製本ヲ減却スルノ結果トシテ供給ノ不足ヲ來スカ或ハ代價ノ騰貴ヲ來ス等市場方則

ノ制裁ヲ免ルコト能ハサルヘシ此時ニ及テ府縣ハ何  
 程審査當時ノ契約ヲ主張スルモ事實上ノ勝ヲ制スルコ  
 ト能ハスシテ審査委員ノ供給上ニ關スル調査ハ烟散霧  
 消一片ノ痕跡ヲ留メサルヘシ故ニ審査委員ニ於テ供給  
 方ノ不及ヲ調査スルト云フモ之亦一場ノ談タルニ過  
 キサルヘシ

第三 教科用圖書ノ代價ハ教育施設上最モ重大ノ關係  
 ヲ有スルモノナレハ鄭重ノ注意ヲ要スルハ論ナシト雖  
 モ單ニ代價ノ一點ヲ調査スルカ如キハ故テ審査委員ノ  
 組織ヲ煩スノ要ナキハ疑ヲ容レサル所ナリ

第四 近時圖書出版ノ多キ管ニ汗牛充棟ノミナラス所  
 謂玉石混淆殆ント方物ス可ラサルノ勢アリ故ニ府縣ニ  
 於テ平素繁劇ノ職ニ從事スル屬吏ヲシテ之ヲ採擇セシ  
 メントスルハ到底實行シ得ヘキ望ナシトノ論ナキニ非  
 ラスト雖モ又顧ミテ各府縣審査委員任命ノ狀況ヲ視ル  
 ニ多クハ審査探定ノ時期ニ近ツキテ之カ任命ヲ爲スカ  
 故ニ其委員タルノ任命ヲ受ケテ始メテ夥多ノ圖書ヲ倉皇  
 閱讀シ甚シキニ至リテハ全部ノ素讀ヲモテセサルモノ  
 アリト加之教育專務ニテラサル參事會員ノ如キニ在テ  
 咄嗟ノ間圖書ノ良否等ヲ甄別取捨セントスルハ到底能  
 ハサルヘシ左リトテ審査委員ヲ常設トセンカ各所ニ散  
 在スル者ニシテ許多ノ圖書ヲ閱テスルハ甚困難ナルノ  
 ミナラス今日ノ如ク臨時ノ任命ニ於テスラ猶汚行醜聞  
 ヲ招シノ恐アルヲヤ

第五 教科用圖書ハ屢々變更スヘカラサルハ勿論ナル  
 ヘシト雖モ已ムヲ得サル事情アルトキハ廿四年省令第  
 十四號第五條ノ範圍内ニ於テ之レヲ更正スル以上ハ敢  
 テ實行時期ニ關シ審査委員ヲ待ツノ必要ナカルヘシ  
 抑モ教科用圖書ハ依テ以テ教育ノ本旨ヲ違スヘキ主要  
 ノモノナレハ之カ採擇ニ慎重ヲ加フヘキハ論ヲ俟タサ  
 ルヘシト雖モ府縣審査委員ノ如キ著シキ効用ナキニ於

<p>熊 本 縣</p>	<p>新 潟 縣</p>	<p>山 梨 縣</p>	<p>第二十四條        學齡兒童就學及家庭教育ニ關ス        ル規則ハ府縣知事ノ定メ文部        大臣ノ許可ヲ受クヘシ</p>
<p>○小學校ノ設置ニ關スル件        第二十六條        市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校        ノ校數並位置ハ府縣知事其市ノ        意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ        町村ニ於テ設置スヘキ尋常小學        校ノ校數並位置ハ郡長其町村ノ</p>	<p>第十六條 小學校ノ教科用圖書        ハ文部大臣ノ檢定シタルモノ        ニ就キ小學校圖書審査委員ニ        於テ審査シ府縣知事ノ許可ヲ        受ケタルモノニ限ルヘシ云々</p>	<p>小學校教科用圖書ハ文部省ニ於テ全國ニ通シ        テ適當ナルモノヲ編纂シ之ヲ用井シムルコト        ニ改ムルコト</p>	<p>許可ヲ受クヘシヲ開申スヘシト改メラレタシ</p>
<p>市町村若クハ區ノ意見ヲ聞クニ及ハスニ府        縣知事郡長ニ專行セシムルノ方法ニ改ム可シ</p>	<p>許可ヲ受クヘシヲ開申スヘシト改メラレタシ</p>	<p>テハ寧ロ之ヲ廢止スルヲ以テ行政ヲ簡約ニスルノ旨趣        ニ副フナランカ而シテ之ヲ廢シタル上圖書ヲ採定スル        ノ方法ハ</p> <p>第一 文部省ニ於テ一教科目ニ就キ數種ヲ審査探定セ        ラレ府縣ハ其中ニ就キ一種又ハ數種ヲ定ムルコト</p> <p>第二 前項ノ方法ニ依ルコト能ハストセハ府縣知事之        レヲ採定スルコトニ改メラレタシ</p>	<p>小學校教育ハ立國ノ基礎タルニヨリ之カ教科用圖書ハ        國家ノ力ヲ以テ完全ナルモノヲ編纂スルノ至當ナルヲ        信スルノミナラス現行審査ノ規定ニテハ到底書肆競争        ノ弊害ハ免カレサル所ニシテ教育ノ神聖ヲ汚スノ恐レ        アリ而シテ教科用書中全國ニ通シテ一定ノ書籍ヲ用キ        シメ難キモノ即チ日常生活ニ須要ナル智識ヲ得セシム        ルモノ、如キ郡鄙ノ別民業及風俗等ノ差異ニ依リ自ラ        之カ用書ヲ異ニスルノ必要アルヘシ是等用書ニ就キテ        ハ二三種ヲ編纂シ以テ地方長官ノ撰定ニ委シ尙郷土地        理及郷土史談ノ如キハ殊ニ地方廳ヲシテ編纂セシメ文        部省ノ檢定ヲ經テ之ヲ用井シムルカ又ハ口授教授ノ方        法ニ依ラシムルモ可ナラン</p> <p>自ラ一定ノ律アリ今日ニ於テハ開申ニ止メテ可ナリ</p>

新潟縣	意見ヲ聞キ之ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ	學校組合ヲ設ケシメノ下ニ若クハ學齡兒童ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシメノ三十四字ヲ加フ	他町村ニ組合ハシメントスルモ一方ノ町村ニ於テ資力豊ナルトキハ組合タルヲ嫌忌シ爲メニ紛議ヲ生スルアリ斯ノ如キ場合ニハ教育事務ヲ委託セシムルノ必要アリ故ニ之ヲ明記スルヲ可ナリトス
第二十七條	郡長ハ一町村ノ資力其町村ニ相當スヘキ尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スル場合ニ於テ其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲メ他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數并位置ヲ定ムヘシ	第三十四條ノ次ヘ追加 第三十五條 市町村内又ハ町村學校組合ニ於テ尋常小學校ヲ設置スヘキ適當ノ土地ナキトキハ他ノ市町村ノ區域ニ屬スル所有ノ土地若クハ他ノ市町村ト協議シ其區域内ニ尋常小學校ヲ設置スルヲ得 前項ノ協議整ハサルハ郡參事會ニ於テ之ヲ裁決ス 但他郡市ニ亘ルキハ府縣知事之ヲ裁決ス	此規定ナキ故往々紛議ヲ生シ取扱上繁雜ニ付明カニ規定アラシムルヲ望ム
熊本縣	第六十條 小學校教員給料旅費ハ其標準ヲ定メ教員ニ交付スヘキ額ハ市參事會町村長ノ意見ヲ聞キ之ヲ確定ス	市參事會町村長ノ意見ヲ聞クコトヲ廢シ直ニ確定スルコトニ改メ度 廢止スルヲ要ス	小學校教員ハ郡市長ノ推薦ニ依リ之ヲ任用スルモノニテ其給料ハ勅令ノ命令ニ依リ市町村ニ負擔ノ義務ヲ有スルモノナレハ其教員ニ交付スル額ヲ一々意見ヲ聞キテ確定スルハ取扱上手續ヲ要スルノミナラス確定權ヲ減殺スルノ嫌アルニ由ル
福井縣	第六十條第二項中 市町村立小學校教員ノ旅費額ヲ市參事會又ハ町村長ノ意見ヲ聞キ府縣知事ニ於テ確定スル件	廢止スルヲ要ス	此廢止ヲ要スルハ已ニ旅費標準ノ定メアレハ其範圍内ニ於テ市町村ヲシテ適宜ニ教員ニ交付スヘキ金額ヲ定メシムルモ不適當ナル旅費額ヲ生スルノ恐ナカルヘシ故ニ府縣知事ニ於テ確定スルノ必要ナシト認ムルニ由ル

廣島縣 (同上)

新潟縣 (同上)

第三十八條  
第三十六條及第三十七條ノ規定ハ徒弟學校及實業補習學校ニ關シ之ヲ適用ス

第四十四條

第四項

授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五十一條

郡視學ノ件

郡視學ノ給料旅費退隱料等ハ郡ノ負擔トス其ノ額及支給方法ハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケテ之ヲ定ムヘシ

第五十二條

小學校教員檢定委員及檢定ニ關スル費用ニシテ府縣ニ屬スルモノ并小學校教科用圖書審查委員及審査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第六十六條

郡ニ郡視學一名ヲ置キ府縣知事之ヲ任免ス

郡視學ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ト同一ノ待遇ヲ受クルモ

同上

小學校教員給料旅費額ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第三十五條ノ規程ハ高等小學校ニ適用シ第三十六條第三十七條ノ規定ハ徒弟學校及實業補習學校ニ關シ適用ス

云々府縣知事之ヲ定ムヘシ

府視學縣視學ノ給料旅費退隱料等ハ府縣ノ負擔トス其額及支給方法ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

「モノ并ニ小學校教科用圖書審查委員及審査ニ關スル」二十二字ヲ刪除ス

府ニ府視學縣ニ縣視學ヲ置キ府縣知事之ヲ任免ス

府視學縣視學ハ判任官ト同一ノ待遇ヲ受ク府視學縣視學ノ人員給料額ハ文部大臣之ヲ定ム

同上

第三十五條ヲ追加スレハ此修正ヲ必要トス

一字ノ修正モ一々文部大臣ノ許可ヲ受ケサルヲ得ス繁雜ナレハナリ

郡視學ノ組織ハ有名無實其効ヲ見サルノ感アリ且ツ之カ爲メ紛雜ヲ來スノ慮ナキニアラヌ事ハ地方稅ヲ以テ府縣廳ニ置キ知事ノ耳目トナスノ優レルニ如カス而シテ其人員ハ府縣ノ大小ニ依リ二人以上五人マテトス

審査委員ノ項ヲ廢セハ此ノ數文字ヲ刪除スルノ必要アリ

理由前ニ出ツ

新潟縣	第三十八條 第三十六條及第三十七條ノ規定ハ徒弟學校及實業補習學校ニ關シ之ヲ適用ス	第三十五條ノ規程ハ高等小學校ニ適用シ第三十六條第三十七條ノ規定ハ徒弟學校及實業補習學校ニ關シ適用ス	第三十五條ヲ追加スレハ此修正ヲ必要トス
廣島縣	授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ	云々府縣知事之ヲ定ムヘシ	一字ノ修正モ一々文部大臣ノ許可ヲ受ケサルヲ得ス繁雜ナレハナリ
新潟縣	郡視學ノ件	府視學縣視學ノ給料旅費退隱料等ハ府縣ノ負擔トス其額及支給方法ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ	郡視學ノ組織ハ有名無實其効ヲ見サルノ感アリ且ツ之カ爲メ紛雜ヲ來スノ慮ナキニアラヌ事ハ地方稅ヲ以テ府縣廳ニ置キ知事ノ耳目トナスノ優レルニ如カス而シテ其人員ハ府縣ノ大小ニ依リ二人以上五人マテトス
廣島縣	小學校教員檢定委員及檢定ニ關スル費用ニシテ府縣ニ屬スルモノ并小學校教科用圖書審查委員及審査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス	「モノ并ニ小學校教科用圖書審查委員及審査ニ關スル」二十二字ヲ刪除ス	審査委員ノ項ヲ廢セハ此ノ數文字ヲ刪除スルノ必要アリ
新潟縣	郡ニ郡視學一名ヲ置キ府縣知事之ヲ任免ス	府ニ府視學縣ニ縣視學ヲ置キ府縣知事之ヲ任免ス	理由前ニ出ツ
廣島縣	郡視學ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ト同一ノ待遇ヲ受クルモ	府視學縣視學ハ判任官ト同一ノ待遇ヲ受ク府視學縣視學ノ人員給料額ハ文部大臣之ヲ定ム	

佐賀縣	郡ニ郡視學一名ヲ置キ云々(第六十六條)	給料ヲ地方稅ヨリ支辨スヘキ明文ニ改メラレタシ	今ノ制ニ依レハ郡費ヲ以テ支辨スヘキモノナルヲ以テ監督ノ上ニ於テ實際不都合多シ依テ地方稅トシテ郡書記同様ニスルノ必要アリ
熊本縣	郡視學ノ給料旅費退隱料ヲ郡ノ負担ト爲スノ規定	縣稅支辨ノ吏員ト爲スヲ要ス	別紙郡制廢止ニ關スル意見書中ニ記入セリ
長野縣	第六十八條 府縣知事ハ郡ノ申出ニ依リ特ニ郡視學ヲ置カサルヲ得云々	第六十八條ヲ創除セントス	第六十六條ニ於テ郡ニ郡視學ヲ置クヲ必要トシ第五十一條ニ於テ其給料旅費等ヲ郡ノ負擔ト定メタル上ハ第六十八條ノ如キ取除ヲ設クルノ必要ヲ認メス斯ル取除ヲ設クルカ爲メニ郡ニ於テハ口實ヲ設ケテ之ヲ置クノ費用ヲ否決スルモノ多キノミナラス廢設常ナラサルノ弊ヲ生シテ郡視學ノ効用ヲ收ムルヲ能ハサルニ由ル
大分縣	(同上)	左ノ意味ニテ一項ヲ設ケラレシモノ望ム 府縣ニ視學三人ヲ置キ到任官トシ五級俸以上ノ月俸ヲ給スルコト	地方教育事務ニ關シテハ小學校令ヲ始メトシ夫々法令ハ整備シ居ルモ府縣廳ニ專任ノ視學ナキカ爲メ監督上缺クル所アルノ感アリ殊ニ數百ノ學校アリテ教育事務ノ複雜ナル之ヲ視察スルハ專任者ヲ置クニアラサレハ到底少數ノ屬吏ヲシテ周到ナラシムル能ハス依テ專任ノ視學ヲ置キ益々監督ヲ嚴シシ以テ教育ノ効果ヲ充分ナラシムルハ目下ノ急務ト認ムルニ由ル
新潟縣	第六十七條 郡視學ハ郡長ノ指揮命令ヲ受ケテ郡内ノ教育事務ヲ監督ス	府視學縣視學ハ府縣知事ノ指揮命令ヲ受ケテ其府縣内ノ教育事務ヲ視察ス	監督ノ文字允當ナラス視察ノ方可ナラン
山梨縣	第六十八條 府縣知事ハ郡ノ申出ニ依リ郡視學ヲ置カサルコトヲ得云々	第六十八條刪除	府縣視學ヲ置ケハ必要ナシ

新瀉縣	第六十九條 郡視學ニ對スル懲戒處分ノ件	府視學縣視學ニ對スル懲戒處分ハ云々ニ改ム	ラシメン爲メ創除ヲ希望スルモノナリ
山梨縣	第七十五條 市ハ教育事務ノ爲メ市條例ノ規程ニ依リ市内ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得云々	條例ヲ設クルヲ要セス學務委員ヲ置キ若クハ置クコトヲ得ル主旨ニ改ムルコト	市町村ニ學務委員ヲ置クモ町村學校組合等ニ學務委員ヲ置クモ其性質上敢テ徑庭ナカルヘシ故ニ町村學校組合等ニ置ク學務委員モ同令第七十二條及第七十九條ニ依リ學務委員ノ如ク其組織及職務權限等ニ關シ別段ノ規定ヲ設クル場合ノ外ハ條令ヲ設ケシメサルコトニ改正セラルヘシ而シテ條令制定上ニ關スル從來ノ實況ヲ考フルニ條文修正等ノ爲メ往復手續ヲ要シ其裁令ヲ受クル迄ニハ數ヶ月ノ日子ヲ經過スルカ如キ有様ニシテ其力爲メ教育事務上支障ヲ來タセシモノアリ依テ之カ改正ヲ望ム所以ナリ
熊本縣	學校組合若クハ區ニ於テ學務委員ヲ設置スル件	市町村ト同シク町村條例ノ規定ニ由ラス必ス設置スルヲ要スルモノト爲スヲ要ス	必ス學務委員ヲ設ケシムル事ハ學校ノ管理教育ノ發達ニ於テ欠ク可カラサルヲナリト信ス
新潟縣	(追加)	第九十三條ノ次へ追加 郡制ヲ施行セサル府縣ニシテ第四十六條第四十七條ニ據ラサルヲ得サル場合アルモハ郡長ニ於テ其意見ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受ケ府縣費ヲ以テ相當ノ補助ヲ與フルヲ得	此規定ナキ爲メ郡制ヲ施行セサル府縣ノ町村ニ於テ無教育ノ境遇ニ陥ルモノ少シトモス
熊本縣	高等小學校ハ市町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スルモノトス	郡ニ於テモ高等小學校ヲ設クルコトヲ得ル様シクシ	一郡内全町村組合ヲ以テ高等小學校ヲ設クルモノアリ此等ハ郡ニ於テ設置スルコトヲ得ハ組合ニ關スル費用ト手數ヲ省クノミナラス管理上ニ於テモ頗ル便ナルニ由ル
東京府	(追加)	第五十八條ニ左ノ但書ヲ加フル事「但市町村立小學校ノ教員ハ市長又ハ郡長ノ薦舉ニ依リ	前項市町村立小學校教員任用令廢止ノ結果トノ本文ヲ該條へ追加スルヲ要ス

熊本縣	○明治二十四年勅令第七十三號 特別任用ノ師範學校長ハ高等試験ヲ經ルニアラサレハ他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス	之ヲ任用スルモノトス	人才登用ノ必要ニ依ル
新潟縣	奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケルノミノ規定アリ	改正 府縣立尋常師範學校長同尋常中學校長及ヒ明治廿四年勅令第二百十七號云々 各學校職員ノ任免奏請及宣行ハ府縣知事ノ具狀ニ依リ明治二十五年勅令第九十六號云々	師範學校長等ハ其狀況ニ依リテ其人ヲ求メサレハ適當ノ人ヲ得難シ其狀況ヲ熟知スルハ知事ニ如クモノナシ然ルニ主務省ノ臆測ニ依リテ突然交迭ヲ見ルコトアリ故ニ知事ノ具狀ヲ待チテ任免アランコトヲ望ム
愛媛縣 (新設)		尋常師範學校及公立學校 <small>(小學校及之ニ類スル學校ヲ除ク)</small> 教員任免進退ニ關スル規程ヲ制定セラレンコトヲ要ス	近來中等教育ノ趨勢一變シテ尋常中學及各種學校ノ振起ト共ニ教員ノ需要益急ニ俸ヲ厚クシテ之ヲ招致セントスルノ勢ヲ來シ爲メニ教員中名利ニ奔逸シ住所ヲ遷轉シテ其位置ヲ高メントシ其職任ヲ愛重スルノ念ニ乏シク其志操ノ高潔教授ノ懇切ヲ期シ職ヲ一校ニ奉シ積テ永年ニ收ムルモノ殆ント稀ナリトス蓋シ選叙ヲ慎ミ進退ノ例規ヲ設クルハ實ニ刻下ノ急務ニ屬ス依テ一般官吏ノ例ニ准シ任期例、俸給令、進級例及再任例ヲ制定セラレ以テ此陋弊ヲ矯正セラレンコトヲ望ム
香川縣 (同上)		尋常師範學校及府縣立尋常中學校ノ教諭及助教諭ノ轉任辭職ニ關シ相當ノ制裁ヲ設クルコト	教員ノ交迭ハ教育上至大ノ障害アルハ今更喋々ヲ要セス而シテ方今各地方尋常中學校ノ増設アリテ教員ノ需用俄ニ増加シ互ニ俸給ヲ高クシテ之カ聘用ヲ爭フノ狀アリ其影響タル延キテ尋常師範學校ニ及ホシ一般教員ノ缺乏ヲ告クルコト益々甚シトス故ニ現ニ尋常師範學校又ハ尋常中學校ニ奉職スル者ハ永ク其學校ニ奉職シテ成績ヲ擧ケンコトヲ務メス動モスレハ他府縣ノ支給セントスル俸給ノ高キニ眩シテ其學校ヲ去ラントシ若シ轉任ニシテ行ハレサレハ強テ其職ヲ辭シテ他府縣ノ召聘ニ應セントスルニ至ル殊ニ甚キニ至テハ新任ノ

德島縣	(同上)	尋常師範學校長ノ旅費ヲ國庫ノ負擔トスヘシ	尋常師範學校長ノ俸給ハ已ニ國庫ノ支辨タリ蓋シ同校長ヲシテ年々府縣會ノ爲ニ其俸給ヲ左右セラルハコトナク安シテ其職責ヲ盡シメントスルニ外ナラサルヘシ果シテ然ラハ府縣立尋常中學校長ノ俸給モ亦等シク國庫ノ支辨ニ屬セシムルノ必要アルヘシ抑尋常中學校ハ中人以上ノ子弟ニシテ實業ニ就カント欲シ又ハ高等ノ學校ニ入ラント欲スル者ニ須要ナル教育ヲ施ス所ニシテ地方教育トシテ最必要ナルハ敢テ論ヲ俟タス而シテ其教育ノ整理ヲ圖ルハ又今日ノ急務ナリトス想フニ教育ノ實効ヲ期セント欲セハ整然タル秩序ニ由ツテ學校ノ管理ヲ嚴正ニセサルヘカラス然ルニ尋常中學校ノ生徒ハ素血氣ノ少年ニシテ學校管理ノ整肅ヲ悦ハサルノ風アリ而シテ其父兄タル者子弟等ノ言ヲ妄信シテ切リニ校長ノ所爲ヲ是非評論シ且府縣會ノ開設ニ當リ或ハ同校長俸給ノ減削ヲ主張スル者ナキヲ保セス爲ニ校長ハ其職ニ安シ其責ヲ盡ス能ハサルニ至ル故ニ是等ノ弊害ヲ防止シ同校長ヲシテ其自ラ信スル所ニ依リ充分ニ其職責ヲ盡シメントカ爲尋常師範學校長ト同シク同校長ノ俸給ヲ國庫ノ支辨ニ屬セラレンコトヲ望ム所以ナリ
香川縣 (同上)		尋常中學校長ノ俸給ヲ國庫ノ支辨ニ屬セラレタシ	教員ニシテ就職後未タ數月ヲ出テシテ早ク已ニ他府縣ノ聘用スル所トナル者アリ而シテ是等ノ教員ニ對シテ々々其希望ニ依リ俸給ヲ増額シテ之ヲ留任セシムルハ到底地方經濟ノ許ス所ニアラサルナリ若シ夫レ斯ノ如クニシテ底止スル所ナクハ邊僻又ハ貧弱ナル地方ニ在リテハ常ニ教員ノ缺乏ヲ生シ其弊害ノ及フ所實ニ淺少ナリトセス是ヲ以テ教員ヲシテ切ニ轉任辭職セシメサル様相當ノ制裁ヲ附シ之ヲ檢束スルハ目下ノ急務ナリ
新潟縣	師範學校長特別任用令 任用シ得ヘキモノ	府縣立師範學校長ハ何……………	一ケ年間府縣立尋常中學校長ノ職ニ在リシモノハ學位稱號等ナキモ生徒養成上ニ就キテハ經驗アルモノアリ



新 潟 縣	山 口 縣	新 潟 縣	大 分 縣	神 奈 川 縣	大 分 縣
○明治二十四年文部省令第一號 (私立小學校代用規則) 第九號 代用私立小學校授業料知事ヨリ 文部大臣ノ許可ヲ受クルノ旨	○明治廿四年文部省令第十三號 小學校每週教授時間ノ制限	○明治廿四年文部省令第十四號 小學校教科用圖書審査規則	○明治廿四年文部省令第十九號 府縣知事ニ於テ適任ト認メタル モノニ正教員ノ免許狀ヲ授與スル ルハ文部大臣ノ認可ヲ受ク	(同上)	○明治廿四年文部省令第二十號 小學校教員退職ニ關スル件
又ハ判任官待遇者及一ヶ年間府縣立尋常中學 校長ノ職ニアリシ者ニ限リ云々	代用私立學校ノ授業料ハ府縣知事ノ規定スル 町村立小學校授業料ノ範圍内ニ於テ設立者其 市町村若クハ町村學校組合ノ承認ヲ經テ之ヲ 定ムヘシ	第四條ノ教授時間ハ規定ノ範圍内ニ於テ府縣 知事之ヲ定ムルコト	全 廢	第三條但書ヲ削除シタシ	文部大臣ノ指揮ヲ受ケサルコトニ改メラレタ シ
仍リテ之ヲ加ヘタシ	知事ニ於テ私立小學校ノ授業料ヲ規定スルハ允當ナラ スト思フスルノミナラス設立者ト町村トノ協議ニ任ス 方却テ都合宜シカラシ	尋常小學校ノ教授時數ノ範圍ハ同第一條ニ又高等小學 校ノ教授時數ノ範圍ハ同第二條ニ於テ夫々規定シアル ヲ以テ該範圍内ニ於テ之ヲ定ムルモノナルニヨリ敢テ 經伺ノ必要ナカルヘシ依テ改正セラレタシ	之ヲ削除セントスルハ其府縣内ニ於テ有効ノ小學教員 免許狀ヲ授與スルハ其府縣知事ニ一任シテ差支ナキヲ 認ムルニ由ル	第三條但書ヲ削除セントスルハ本規則第七條第七款ニ 該當スル者ハ教員志望者中最モ優等ノ者ナリ然ルニ本 款該當者ニ正教員免許狀ヲ授與スル場合ニ限リ豫メ文 部大臣ノ認可ヲ經ルモノトセルハ他ノ各款該當者ト權 衡ヲ得サルノミナラス特ニ其手續ヲ了スルノ必要ナシ ト認ムルニ由ル	之ヲ改メントスルハ教員ノ退職ニ就テハ旨ヲ諭シ辭表 ヲ差出サシムル等府縣知事ニ一任シテ差支ナキヲ認ム ルニ由ル

神 奈 川 縣	兵 庫 縣	官 崎 縣	山 口 縣
小學校長及教員ノ任用解職其他 進退ニ關スル規則第五條教員休 職ノ件	(同上)	(同上)	(同上)
本規則第五條第一項第二款「學校編制ノ變更」 ノ下ニ「及特別ノ事情」ノ六字ヲ追加シタシ	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノ ヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役 ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	第三條第一項中「正教員タルヘキ者ヲ得ルコ ト能ハスト認メタルトキハ期限ヲ定メテ准教 員ヲ任用スルコトヲ得」トアル「期限ヲ定メテ」 ノ六字ヲ削除ス	同上中ニ左ノ一項ヲ設ケラレタシ 小學校教員懲戒處分中へ一時諭示退職ノ路ヲ 設クルコト
本規則第五條第一項第二款「學校編制ノ變更」 ノ下ニ「及特別ノ事情」ノ六字ヲ追加シタシ	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタル小學校正教員 充員ノ爲メ召集セラレタル者ハ彼此等シク兵役ニ服ス ルモノニ付豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ト同一ノ待遇ヲ與 ヘラルヘキハ至當ノ事タルヘク且戰時事變ニ限ラズ渾 テ兵役ニ服シタル場合ヲ包含セシメラル、ハ實際便利 ナレハナリ	准教員ヲ任用スルトキハ期限ヲ定ムヘキ規定ナルモ尙 モ正格ノ訓導ヲ得ンカ期限内ト雖モ代用ヲ止ムルハ勿 論之ヲ得サレハ期限ノ如何ヲ論セス任用セサルヲ得ス 既ニ理論上ニ於テモ斯クノ如ク期限ヲ設クルノ必要ヲ 認メサルノミナラス本縣ノ如キ正教員欠乏ノ地ニ在テ ハ徒ラニ事務ノ繁雜ヲ來スノミナルニ由ル	小學校教員監督ニ關スル現行ノ制度ニヨレハ懲戒ト休 職トノ二途ニ對シ處分スルヲ得ヘシト雖モ若シ生徒父 兄ノ信用ヲ害シタルカ如キ或ハ教員又ハ市町村吏員ト ノ間ニ於ケル平和ヲ破リタルカ如キ場合ニ對シテハ處 分スルノ限ニアラサルヲ以テ是等ノモノヲシテ依然 職セシメンカ他ニ影響ヲ及ホスコト擲ナカラサルカ故 ニ之レカ處置ヲ爲スノ路ヲ設クルハ實際ノ狀況ニ於テ 必要ナルヘシ依テ右等ノ者ニ對シテハ一時諭示退職セ シムルノ便路ヲ設クルトキハ當ニ各自ヲシテ自ラ戒防 セシムルニ至ルノミナラス又他日再就職セシムルコ トヲモ得所謂一舉兩得ノ方法ナレハ此路ヲ開カレタシ

新 潟 縣	兵 庫 縣	佐 賀 縣	山 口 縣	德 島 縣	山 梨 縣
○明治二十四年文部省令第廿二號(小學校々長教員ノ懲戒ニ關スル件) 第二條 市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ヲ行ハントスルハ其處分スヘキ行爲ニ關スル手續ヲ本人ヨリ徵スヘシ	○明治二十四年文部省令第廿六號(尋常師範學校附屬小學校規程) 教科目ノ加除補習科ノ設置廢止及修業年限、設備、學級ノ編制ハ文部大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス	○明治二十五年文部省令第八、第九、第十四號 教員數生徒數修學年限給費等ノ件	○明治二十四年文部省令第二十、六號 尋常師範學校付屬小學校規程	(同上)	第二條附屬小學校ノ設備ハ云々府縣知事ノヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ 第三條附屬小學校ノ學級ノ編制
第二條ニ左ノ但書ヲ加ヘタシ 本人ヨリ手續書ヲ出サ、ルキハ他ノ證據等ニ依リ認定スルヲ得	許可ヲ受クルヲ止メ處分後ノ報告ニ止ムル事	二十八五月文部省ニ於テ師範學校長會ニ提出案教員補充策ノ通ニ改メラレタシ	第一條但書及第二條第三條ノ認可ノ稟請ヲ報告ニ改ムルコト	文部大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ廢ス	兩條共文部大臣ノ許可ヲ受クヘシトアルヲ文部大臣ニ開申スヘシト改ムルコト
但書ノ規定ナキハ大ニ處分ノ機ヲ失スルヲアリ	是等ノ事項ハ市町村立小學校ニ在リテハ府縣知事ニ於テ直ニ許可スルモノニ付附屬小學校ニ在リテモ處分後報告スルモ敢テ差支ナカルヘシト認ムルニ由ル	現行ノ制ニテハ師範學校教員ノ配置及生徒ノ給費多キニ過クルノ感アリ依テ上欄ノ案ノ如ク改正スレハ同時ニ小學校教員ノ缺乏ヲ補足スルノ功果アルヘシト信ス	小學校教科目ノ加除補習科ノ設置、修業年限、設備及學級ノ編制等ニ付キテ一般小學校ニ關シ夫々ノ規程アルヲ以テ附屬小學校モ亦之レニ準據シ府縣知事ニ於テ精査之ヲ定メ報告スルコトニ改メタシ	附屬小學校規定ハ市町村立小學校ニ係ル規定ノ例ニ由リテ斟酌設定スルモノニ付キ文部大臣ノ許可ヲ受クル必要ナキニ由ル	文部大臣ノ許可ヲ要スヘキ重要事件ニアラサルヘシト考フ

山 口 縣	高 知 縣	大 分 縣	新 潟 縣	靜 岡 縣	大 分 縣	高 知 縣
尋常師範學校教諭助教諭合監訓導及書記人員	尋常師範學校教員合監及書記ノ人員ニ關スル規則中人員等ニ關スル件	第九條 尋常師範學校ニ於テ助教諭ヲ以テ教諭ニ代用シ又ハ雇教員ヲ以テ教諭助教諭ニ代用スルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ク	○明治廿五年文部省令第十四號(師範學校教諭等ノ人員規程) 第三條 合監ノ人員 第五條 書記ノ人員	第二號表 四級十五圓 五級十二圓	○明治廿五年文部省令第六號 尋常師範學校書記ノ俸給ニ等級ノ設ケアリ	(同上)
第九條中第八條ノ雇教員ヲ以テ正教員ニ代用スル場合ハ報告スルニ止メ其他ハ許可ヲ要セ	第九條中第八條ノ雇教員ヲ以テ正教員ニ代用スル場合ハ報告スルニ止メ其他ハ許可ヲ要セ	第九條中「第七條及第八條」ノ七字ヲ削除セラレタシ	第九條中「第七條及第八條」ノ七字ヲ削除セラレタシ	四級十七圓 五級十五圓 六級十二圓	書記ノ俸給ニハ等級ヲ設ケス十二圓以上三十圓以下ト改正セラレタシ	同上
第二條第二項ニ於テ適當ノ教員候補者ヲ得サルカ爲メ第一項ニ依リ難キ場合ニ在テハ第一條ノ教諭助教諭ノ	本條ノ如キハ一々大臣ノ許可ヲ經サルモ處分後開申ニ止メ差支ナカルヘシ依テ本令ノ更正ヲ望ム	之ヲ削除セントスルハ助教諭ヲ以テ教諭ニ代用シ又ハ雇教員ヲ以テ教諭助教諭訓導ニ代用スル場合ニ於テ其人ヲ詮索シ然レ後許可ヲ受テ之ヲ採用シタルトキハ實際ニ於テ取扱上困難ニ付本件ハ知事ニ一任セラレタキニ由ル	合監書記ノ人員ハ學校ノ狀況ニ依リテ知事ノヲ定ムルヲ可トス	四級ト五級ノ間懸隔大ナル爲メ昇級等ニ不都合多キニ由ル	小學校ノ設備及學級編制ニ關シテハ明治廿四年文部省令第十二號及第十五號ノ規定アルヲ以テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ經サルモ單ニ開申ニ止メ差支ナカルヘシ依テ本則ノ更正ヲ望ム	學校書記ニ比シ増俸ノ困難ナルニ由ル

石川縣	兵庫縣	東府	新瀨縣	山梨縣	神奈川縣	大分縣	福岡縣	兵庫縣	長崎縣	宮崎縣
尋常師範學校ノ教諭助教諭ヲ増シ又ハ代用教員ヲ採用スルハ文部大臣ノ許可ヲ受ク	○明治二十六年勅令第二百六十號(市町村立小學校教員任用令) 第一條 市町村立小學校教員ハ市長又ハ郡長ノ推薦ニヨリ小學校教員銓衡委員ノ銓衡ヲ經テ云々 第二條 小學校教員銓衡委員ノ組織	○明治二十七年勅令第四百一十一號公立學校職員休職ノ件 豫備後備ノ軍籍ニ在ル公立學校職員戰時若ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ當然休職ヲ命ゼラレタルモノトス	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事
許可ヲ受クルノ手續ヲ廢スル事	許可ヲ受クルノ手續ヲ廢スル事	許可ヲ受クルノ手續ヲ廢スル事	許可ヲ受クルヲ止メ處分後ノ報告ニ止ムル事	許可ヲ受クルヲ止メ處分後ノ報告ニ止ムル事	許可ヲ受クルヲ止メ處分後ノ報告ニ止ムル事	許可ヲ受クルヲ止メ處分後ノ報告ニ止ムル事	許可ヲ受クルヲ止メ處分後ノ報告ニ止ムル事	許可ヲ受クルヲ止メ處分後ノ報告ニ止ムル事	許可ヲ受クルヲ止メ處分後ノ報告ニ止ムル事	許可ヲ受クルヲ止メ處分後ノ報告ニ止ムル事
人員ヲ増加シ又第六條ニ於テハ豫備科、教員講習科、保姆講習科ヲ置キハ第一條ニ準シ其人員ヲ増シ第七條ニ於テハ特別ノ事情アルトキハ助教諭ヲ以テ第一條ノ教諭ニ代フルコトヲ得ルノ規定ナリ知事ハ固ヨリ地方教育ノ發達ヲ計ルヘキカ故ニ已ヲ得ザル場合ノ外ハ求メテ下級教員ヲ用ウルノ恐ナク而シテ已ニ知事ニ與フルニ此便法ヲ取ルノ權能ヲ以テセラレタルニ於テハ經同ノ必要ナカルヘシ故ニ是等ハ許可ヲ要セザルコトニ改メタシ尤モ第八條ノ雇員ヲ以テ正教員ニ代用スル場合ニ於テハ事稍重大ナルカ故ニ報告スルコト、セラレタシ	一時ノ代理者ヲ要スルハ臨時急迫ノ場合ヲ多シトスルニ許可ヲ待テ採用セントスルトキハ其間多少ノ日子ヲ費シ授業上ニ差支ヲ生スルコト少カラズ且尋常中學校等ニ就テハ別ニ規定ナキヲ以テ便宜迅速ニ取運フヲ得テ何等ノ不都合ヲ認メス	教諭助教諭ノ員數ヲ増シ又ハ代用教員ヲ採用スルハ實際已ニ得ザル儀ニ付經同セ直ニ任用スルヲ便ナリトスルニ由ル	小學校教員成規ノ手續ヲ經テ其學力品行及身体ノ檢定ヲ受ケ免許狀ヲ受領シ其府縣教員候補者名簿ニ登錄セラレタルモノ、内ニ就キ郡市長尙其學力品行等查察ノ上之ヲ推薦スルモノナレハ殊ニ銓衡ヲ要セス地方長官ニ於テ更ニ取調ヘ任用セハ別段不都合ナキハ勿論取扱上事務ノ簡捷ヲ得ヘシ殊ニ該委員ノ組織ハ府縣官吏ト尋常師範學校職員トニ依リ成レルヲ以テ彼此往復等其繁ニ堪ヘサルモノアリ依テ之ヲ省略セントス	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタル小學校教員充員ノ爲メ召集セラレタル者ニ付豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ト同一ノ待遇ヲ與ヘラルヘキハ至當ノ事ナルヘク且戰時事變ニ限ラス渾テ兵役ニ服シタル場合ヲ包含セシメラル、ハ實際便利ナレハナリ	是等ノ事項ハ郡市町村立ニ係ルモノニ在リテハ府縣知事ノ直ニ許可スルモノニ付府縣立ノモノニアリテモ處分後報告スルモ敢テ差支ナカルヘシト認ムルニ由ル	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタル小學校教員充員ノ爲メ召集セラレタル者ニ付豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ト同一ノ待遇ヲ與ヘラルヘキハ至當ノ事ナルヘク且戰時事變ニ限ラス渾テ兵役ニ服シタル場合ヲ包含セシメラル、ハ實際便利ナレハナリ	是等ノ事項ハ郡市町村立ニ係ルモノニ在リテハ府縣知事ノ直ニ許可スルモノニ付府縣立ノモノニアリテモ處分後報告スルモ敢テ差支ナカルヘシト認ムルニ由ル	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタル小學校教員充員ノ爲メ召集セラレタル者ニ付豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ト同一ノ待遇ヲ與ヘラルヘキハ至當ノ事ナルヘク且戰時事變ニ限ラス渾テ兵役ニ服シタル場合ヲ包含セシメラル、ハ實際便利ナレハナリ	是等ノ事項ハ郡市町村立ニ係ルモノニ在リテハ府縣知事ノ直ニ許可スルモノニ付府縣立ノモノニアリテモ處分後報告スルモ敢テ差支ナカルヘシト認ムルニ由ル	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタル小學校教員充員ノ爲メ召集セラレタル者ニ付豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ト同一ノ待遇ヲ與ヘラルヘキハ至當ノ事ナルヘク且戰時事變ニ限ラス渾テ兵役ニ服シタル場合ヲ包含セシメラル、ハ實際便利ナレハナリ

石川縣	熊本縣	奈良縣	宮城縣	廣島縣	高知縣	兵庫縣	兵庫縣	新潟縣
○銓衡ニ關スル件	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事
陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事
陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事	陸海軍補充兵及現役兵ニシテ歸休シタルモノヲモ包含セシメ且戰時事變トアルヲ渾テ兵役ニ服シタルモノニ適用スル様改ムル事

山口縣	新瀧縣	奈良縣	石川縣
○明治二十八年省令第一號高等女學校規定	○同年文部省訓令第三號 學事年報ニ附帶スル諸表中乙號表	○明治二十九年法律第十四號 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助金ヲ教員各自ニ仕拂フ件	○明治二十九年七月勅令第二百六十四號 小學校教員ノ恩給等ハ恩給審査委員之ヲ審査ス
第一條第二項教科目ノ採否ハ府縣ニ一任スルコト	全廢ヲ望ム	同上補助金ハ直接各自ニ仕拂フ爲メ國庫ハ府縣ニ府縣ハ市町村學校費ニ補助シテ然ル後教員各自ニ仕拂フノ結果ニ改正ノ件	小學校教員恩給審査委員ヲ廢スルヲ要ス
本項ハ許可ノ必要ナカレハ何トナレハ既ニ規程ノ後段ニ示スカ如ク生徒ノ志望ニヨリテハ之ヲ課セザルコトヲ得ルニモ不拘一面ニハ許可ヲ要スルハ權衡ヲ得サルニ付該科目ヲ缺クト否トハ府縣知事ニ一任セラレタシ	木表ハ全ク必要ナラサルニアラサルモ其概數ハ甲號表ニアリ本表ハ之ヲ詳密ニ區分シタルモノニシテ統計上ノ手續ヲ要スル少ナカラス今ヤ諸般ノ事務漸次繁加フル際ニアリテ執務上支障ヲ來ス少ナカラサルノミナラス爲メニ却テ統計ノ時期ヲ失スルニ至ルノ畏アルヲ以テ之ヲ省略センヲ望ム	國庫カ直接ニ市町村立小學校教員ニ補助金ヲ交付スルコトハ普通教育ノ完全ヲ期スル上ニ於テ大ニ教員保護ノ道ニ適スルハ論ナシトスルモ實際ノレカ仕拂フ執行スル上ニ於テハ甚タ煩雜ヲ免レズ假リニ該仕拂ノ煩雜ト費用ヲ要スルコトヲ忍ビ仕拂フ執行スト雖モ遠隔ノ僻村寒地等ニアル學校ニ在勤スルモノハ金庫ハ勿論爲替取組ノ方法モナキ場所十二七八ナリトス故ヲ以テ法律上毎月本人ノ受領ヲ爲シ得ル如クナレトモ上文ノ有様ニシテ到底普通ノ日時ヲ以テ送金ヲ受領スル能ハス聊カ教員保護ノ道ニ欠クル所ナキカヲ疑フナリ故ニ上欄要領ノ如ク府縣ハ國庫ヨリ補助金ヲ受ケ府縣ハ町村ニ交付シテ町村費ノ外別個ニ整理セシメ之レカ監督ヲ屬行セハ本法ノ精神トスル教員各自受領スル本條ト共ニ速ニ加俸ノ受領ヲ爲シ得ラレ一方ニ於テハ現行煩雜ノ取扱ヨリ生スル官吏増員等政費ノ増加ヲ要スルニ至ラサルヘク兩者共ニ便利ヲ認ムルナリ	市町村立小學校教員年功加俸ハ毎月下旬ニ支給スルノ規程ナレトモ斯クハ實際手續ヲ要スル少カラサルヲ以テ右加俸ハ毎年六月十二日ノ二回ニ支給スルコトニ改正スルハ彼此ノ手續ヲ省キ加俸者ニ於テモ寧ロ便トスル所ナラン

東京府	高知縣	山形縣	新潟縣	神奈川縣	神奈川縣
○明治二十九年七月勅令第二百六十五號 小學校教員年功加俸支給期毎月下旬ノ件	○二十九年文部省訓令第三號 小學校教員年功加俸豫算決算ニ關スル規定第三條現計調書ノ件	○明治廿五年十一月廿五日縣發第一三六號縣治局長普通學務局長通牒 市町村立小學校ノ増築改築ノ爲メ地稅制限外市町村稅賦課ノ必要ヲ生シタル場合ハ容易ニ許可セラレス	(新設)	(新設)	(新設)
支給期ヲ年ニ二回ト改正	廢止	本通牒ヲ取消シ監督上ノ注意ニ止ム	尋常中學校ノ教科用圖書ハ府縣立尋常中學校教員ノ會議ニ附シ府縣知事調査ノ上文部大臣ノ裁定ヲ經ヘシ	尋常師範學校公立尋常中學校高等女學校及市町村立小學校ノ正教員俸給平均額ヲ定メ其人員ニ應シタル給料額支出ノ義務ヲ府縣郡市町村ニ負ハシムルノ規定ヲ設ケタシ	人口十萬以上ノ都市ニハ高等女學校ヲ設置スヘシトノ規程ヲ設ケタシ
取扱上敢テ現計調書ノ須要ヲ認メサルニ由ル	學校ノ建築等ニノミ通牒アリテ却テ比較上必要ナラサル町村役場ノ建築等ニ付何等ノ通牒等アルナク實際不倫ナルノミナラス到底實行シ難キニヨリ寧ロ取消ス方可ナルヘシ	現今ハ知事ノ開申ニ止マル故ニ學校ニ於テ屢々變更スルノ傾キアリテ繁雜ナリ故ニ此規定ヲ設ケラレタシ	此俸給規定ヲ設ケントスルハ其各學校ヲ設置シタル以上ハ教員ノ俸給額ヲ確定シ教員チシテ亦ク其職ニ安シ其職ヲ盡サシムルノ方法ヲ設ケルノ必要アリ何トナレハ現行規程ノ如ク毎年議會ノ決議ニ依リ俸給額ニ變動ヲ及ホスヲ免レサルニ於テハ教員ノ其職ニ安ンセザルハ必然ノ勢ヒナリ故ニ教育上良好ノ結果ヲ收メントスルニハ教員ノ俸給平均額ヲ定メ其人員ニ應シ俸給ヲ支出スルノ義務ヲ府縣郡市町村ニ負ハシムルノ規程ヲ設ケ之ヲ既定ノ歲出トナスノ必要アルニ由ル	都市ニ高等女學校ヲ設置セシムルノ規程ヲ設ケルヲ要スルハ男子ノ中等教育ヲ年々遂フテ發達シツ、アルモ	

廣島縣	官立各學校生徒ヲ定期又ハ臨時ニ募集スルトキハ同學校長ノ依頼ニ依リ其都府縣ニ於テ訓令告示又ハ照會ヲ發スルコトニナリ居レリ	府縣知事ニ於テ特選スルモノ、外各官立學校ヨリ府縣新聞紙へ直接ニ廣告相成ルカ又ハ其費用ヲ府縣ニ支辨セラレタシ	女子ノ該教育ニ至リテハ之ヲ輕視スルノ舊慣ヲ脱スル能ハサルヲ以テ高等女學校ニ關スル規程アレヒ之ヲ設置スヘシトノ明條ナキカ爲ニ其設置ノ必要アルニモ拘ハラス之ヲ等閑ニ付スルノ情況アリ故ニ先以テ其必要ノ最モ切ナル都市ニ高等女學校ノ設置ヲ命スルハ女子教育ヲ發達セシムル上ニ於テ目下緊急ノ事ト思考スルニ由ル
秋田縣	同上	小學校教員年功加俸ヲ現金前渡トナス件	各官立學校生徒ノ定期又ハ臨時募集ノ爲メ其依頼ニ依リ府縣ニテ其都府縣訓令告示照會等ヲ發スルハ其手数料費用尠カラズ依テ其手續ノ改正ヲ望ム
德島縣	同上	尋常師範學校生徒定員ヲ増加スル件	小學校教員年功加俸ハ受領者數百名ニシテ之ニ對シテ縣廳ヨリ仕拂命令ヲ發スルハ頗ル繁雜ニ涉ルノミナラズ送金通知書發送ニ要スル郵便稅ニ多額ヲ要スルニ付其事情ヲ具シ郡長へ現金前渡ヲ爲シ度旨文部大臣ニ稟申セシモ聽許セラレス右ハ會計法規ニ抵觸ノ廉モ無之ニ付現金前渡ヲ聽許アラントヲ望ム

事務簡捷ニ關スル意見遞信省ノ部

府縣	現行規程大要	改廢及新設要領	改廢及新設事由
滋賀縣	○明治十五年布告第五十九號(郵便條例)	在監人宛ノ信書及葉書ヲ監獄署宛トシテ發スルモノ少ナカラス本人出獄後ニ在テハ處置ニ苦シムニヨリ是等ハ付箋シテ返付シ得ヘキ條規ヲ追加セラレタシ	明治十六年太政官第五十九號布告郵便條例第一章第一條明治十八年太政官第八號布告電信條例中郵便物電信トモ官廳及官吏ヨリ發スルモノハ總テ無稅トシ郵便封筒ハ各官廳ニ於テ特ニ標識アル様式ヲ定メテ豫メ遞信省ニ提出シ其需用ノ數ハ毎年度量目ヲ區別シテ計算表ヲ作り遞信省ニ報告シ其電信ハ官廳及官吏ノ用ニ供スル賴信紙ヲ普通ノ賴信紙ト區別シテ調製シ遞信省ヨリ各官廳ニ配付シ各官廳ニ於テ其使用セシ賴信紙ノ計算表ヲ作り毎年度遞信省ニ報告スルノ制ヲ定メラレ且各官廳間ニ用フヘキ一定ノ電信符號ヲ製シ官廳官吏ノ電信ハ符號ニアラサレハ取扱ハサルコトニセハ事務簡捷ヲ期セラルヘシ
德島縣	同上	官廳及官吏ヨリ發スル郵便電信ハ總テ無稅トスル件	從來公文ノ体裁文ニ泥ミ冗長煩雜其要ヲ失フ處務ノ簡便ヲ圖ランニハ電報ノ平易簡短ナルニ如カス故ニ官公用電報料ノ額ヲ今ヨリ減却セラレンコトヲ望ム之ヲ減スルモ右ノ趣旨ヲ實行スルトキハ通信ノ數ニ於テ今日ニ倍加スルコト必然ナレハ收支相償ハサルカ如キ結果ヲ見サルヘシ
大分縣	同上	通信往復ハ主トシテ電信ニ依ラシムルタメ官公用電報料ヲ低減セラレ度 附官公用郵便端書ヲ新設セラレ度	現行ノ郵便端書ハ保存ニ便ナラス故ニ一種ノ官公用郵便端書ヲ新設セラレンコトヲ望ム而シテ其端書ハ國內

滋賀縣	○明治二十五年法律第二號(小包郵便法) 在監人へ送付ノ物品ハ返付シ得ルノ條項新設	ノ官公用ニ限リ主トシテ之ニ依ラシムルモノトシ其様式ハ現行ノ電報送達紙様ノモノニテ可ナラン然ルハ大凡左ノ如キ利益アルヘシト認ム 一保存ニ便ナリ 二紙幅ニ制限アルカ故ニ公文自ラ簡短ニシテ要領ヲ得 三封筒ニ納メ切手ヲ貼付シ目方ヲ量ル等手數ト封筒ノ費用トヲ省カン
埼玉縣	○明治二十三年法律第五十八號(電信電話線建設條例) 電信電話線建設條例第六條柱木ヲ民有地ニ建設シタルトキハ一ケ年金四錢ノ敷地料ヲ給與ス	電信柱敷地手當金ヲ建設ノ際一時給與トスルカ將タ敷地ヲ買收スルコトニ變更アリタシ
京都府	○明治廿六年逓信省訓令第二號(電柱敷地手當金取扱順序) 逓信大臣ハ電柱及電話柱敷地ノ手當金仕拂概算額ヲ定メ其仕拂ヲ北海道廳長官府縣知事ニ委任ス云々	逓信大臣ハ電信及電話柱敷地ノ手當金仕拂概算額ヲ定メ其仕拂ヲ郵便電信局長ニ委任ス云々ト改ム
鹿兒島縣	仕拂報告書翌月五日迄ニ差出等ノ件 誤拂過渡ニ對スル報告ノ件	廢止
熊本縣	○明治二十九年逓信省令第五號(電氣營業取締ノ件)	取締事務ハ舉ケテ逓信省ノ直轄トス
高知縣	○明治二十九年逓信省令第五號(電氣營業取締ノ件)	第十條ノ報告ヲ爲スニ於テハ第五條ノ報告ヲ省クモ整理上之差支ヲ生セサル可キニ由ル 整理上之レカ須要ヲ認メサルニ由ル
德島縣	○明治二十九年逓信省令第五號(電氣營業取締ノ件)	電氣ニ關スル設計上ノ鑑査器具物品ノ試驗工事ノ檢査其他百般ノコト皆技術ニ屬セサルハナシ地方廳ニ在リテハ特ニ專任技術官ヲ置キテ之ヲ處辨スルノ餘地ナシ強テ普通官吏ヲシテ之ヲ檢按調査セシメントスレハ其

兵庫縣	○明治十七年太政官布告第三十號(西洋形船舶檢査規則) 登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル船舶ハ船籍地ノ地方官廳ヲシテ之カ檢査ヲナサシム	船舶司檢所ニ一任スル事但シ開港場ノミニ限ル	技術ニ通セサルノ結果危害ノ虞ナキ能ハサルヲ以テ規則中地方長官ニ屬スルモノモ總テ逓信省ノ直轄トシ其事務ヲ電信郵便局ニ屬セラルレハ煩冗ヲ省キテ取締ノ實行ヲ期セラレヘキニ由ル
兵庫縣	○明治廿三年勅令第二百十九號(船籍規則) 施行延期中	速ニ實施スル	開港場ニ出入スル船舶ハ一地方ノ船舶ニ限ラス從ヒテ其事務實ニ煩多ニシテ地方廳カ其間ニ介入シ中央官廳トノ往復ヲ重ヌルカ如キハ手數煩雜ナリトス
福岡縣	○明治二十五年逓信省令第三號(西洋形船舶調查ノ件) 西洋形不登簿船舶調一年二回現在數ヲ掲表ノ件及日本形五十石以上船舶每一石調査ノ件	西洋形船舶一々現在ノ分ヲ明記スルヲ改メ異動ヲ調査シ加除ヲ届出ルコトニセラレ度且日本形船舶每一石ヲ每十石位ノ調査トセラレタキ件	今日完備セル船籍法行ハレス爲ニ新造船ヲ其造船地ニ於テ檢査シ之ヲ船籍港ニ回航シテ其地ニ於テ檢査證書ヲ發スルニ當リ第一ノ官廳ニ照會往復ヲ重ヌルヲ要スル等ノ手數頻繁ナリトス
島根縣	○明治廿九年法律第六十七號 船舶檢査法 第五條摘抄 登簿噸數十五噸未滿ノ汽船ノ檢査ハ其仕出地ノ地方官廳之ヲ行フ	汽船ノ檢査ハ舉テ船舶司檢所ノ主管ニ改ムルヲ要ス	船舶積量ニ大小ノ別アリト雖往々同航路航行ノ汽船ニシテ檢査ニ途ニ出テ寬嚴其軌ヲ一ニセス檢査執行上往々支障アルヲ以テ其軌ヲ一ニシ檢査ノ衡平ヲ得セシメントスルニアリ
愛媛縣	○明治二十年勅令第十二號(私設鐵道條例) 私設鐵道條例第一條鐵道起業願書ハ本社ヲ設置セントスル地ノ地方廳ヲ經由スヘキ規定	本願書ハ敷設地管轄地方廳ヲ經由スヘキコトニ改正ヲ要ス	鐵道敷設ノ要否其他之ニ關スル諸般ノ調査ハ本社設置ノ地方廳ニ於テ審查スルヨリモ其敷設地ノ地方廳ヲ經由スルトセハ其便宜ヲ得ルコト、信ス既ニ電氣事業取締規則ニ於テモ所轄地方廳ヲ經由スヘキ規定アリ依テ本條例ヲ改正セラレシコトヲ望ム

山梨縣

○明治二十年五月勅令第十二號  
(私設鐵道條例)  
○明治二十三年八月法律第七十一號(軌道條例)  
○明治廿六年五月農商務省令第十一號(株式會社發起認可申請手續)  
○明治十九年五月遞信省令第五號(電氣事業取締規則)

現行法ニ依レハ先ツ內務省ノ免許狀ヲ得而後遞信省ノ認可ヲ得而後農商務省ニ申請スルノ順序ナルヲ以テ時日ヲ要スルコト大ナリ故ニ發起者ヨリ各省ニ出願ノ要領ヲ具備シタル願書、設計、會社目論見、定款等ヲ一括シ各省連署宛ニテ二通若クハ三通呈出セシメ各省限リ主管事項ヲ調査シ若クハ各省協議シ出願事項中修正ヲ要スル件ハ主管毎ニ願人ニ垂示シ許否共ニ一時ニ指令スルコト改ムレハ繁文ヲ省キ勸業上大ナル利益ナリ

事務簡捷ニ關スル意見(農商務省ノ部)

府縣	現行規程大要	改廢及新設要領	改廢及新設事由
府縣	○廿二年法律第五號 取引所仲買營業願主務大臣ノ許可ヲ要スル件	本件許可ノ權ヲ府縣知事ニ委任セラレタシ	本縣ノ如キハ取引所ノ數最多ク從テ其事務極メテ繁多ナルヲ以テ處務簡捷ヲ計ラントスルニ由ル
長崎縣	○廿三年法律第三十一號 蹄鐵工免許規則	附則第十二條改正ヲ要ス	假免狀ハ府縣知事ニ於テ授與スルコト改正ヲ要ス
兵庫縣			文書往復ノ繁ヲ省ク
福岡縣	(同上)	營業年限ヲ五ヶ年ニ改正ス(內規ハ從來ニヶ年ナリシ)	之ヲ改メントスルハ地方經濟及治安上敏捷ニ檢査ノ必要ナルヲ以テ豫メ檢査權ヲ分與シ置クノ必要アルニ由ル
大分縣	○廿三年法律第三十二號第七十七號及第七十三號 株式會社銀行ノ檢査ハ主務大臣ノ權限ニ屬ス	地方長官ニ檢査權ヲ分與セラレタシ	事務簡捷ヲ圖ル
鹿兒島縣	○廿三年法律第三十一號同第七十六號 蹄鐵工免許規則第三條獸醫免許規則第三條等	本條ノ願屆書ニハ別ニ添書ヲ附セス一定ノ位置ニ地方長官ノ官印ヲ捺捺スルコトヲ要ス	附則第十四條ノ假免狀ハ府縣知事ニ於テ授與スルコトニ改正セラレタシ
長崎縣	○廿三年法律第七十六號 獸醫免許規則	附則第十四條改正ヲ要ス	現行法ニ於テハ北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ニ於テ假免狀ヲ授與スルノ規程ナレトモ地方ノ狀況ニ依リ假免狀ヲ授與スルノ必要ヲ生スルモノニシテ其効力ハ營業區域ヲ限リ特許スルモノナレハ敢テ
神奈川縣	(同上)	第十四條中農商務大臣トアルヲ北海道廳長官府縣知事ニ改メラレタシ	
石川縣			
福岡縣			

福岡縣	○二十三年法律第三十一號及第七十六號中 蹄鐵工免許規則 獸醫免許規則 明文ハ無之モ出願者ニ對シ指令ヲ與ヘラレタル者ニ限リ試験ヲ行フ件	指令ヲ要セス出願者ハ日時ヲ告知シ出願セシモノヘ應試ノ便ヲ與ヘラレタシ	弊害ヲ生セサルヘシテ出願ノ場合ハ屬ト調査ヲ遂ケ必要ト認ムルトキハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ免許ヲ授與シ後其要項氏名等ヲ報告スルコトニ改正セントスルニ由ル
石川縣	○廿三年法律第八十七號第八條及第十二條 試掘ヲ爲サント欲スル者ハ鑛山監督署長ノ認可ヲ受採掘ノ特許ヲ得ント欲スル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受ヘシ	地方長官ニ委任ス	現行ノ手續ハ上段ノ通りナルモ他試驗ノ例ニ依リ簡便法ヲ以テ應試者ノ便ト多少ノ手續ヲ省カントスルニテ
石川縣	○廿四年法律第三條第八條 度量衡器ヲ製作修覆若クハ販賣セント欲スル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ	度量衡器ノ製作修覆若クハ販賣ハ地方長官ニ於テ處分スルコト	處務簡捷ヲ圖ル
鹿兒島縣	同上第十一條	本條ニ依リ臨檢ノ際差狂又ハ毀損アル器物ヲ發見シタルトキハ直ニ消印ヲ付スルノ規定ヲ要ス	取締ノ爲メ當該吏員ヲ派遣シ營業者及使用者ニ就キ臨檢ヲ執行セシムル場合ニ於テ差狂又ハ毀損アル器物ヲ發見シタルトキハ之レカ修覆又ハ檢定ノ出願ヲ命スト雖モ器物上何等ノ形跡ヲ存セサルヲ以テ往々之ヲ實行セシ營業上ニ使用スルモノ不少是等ヲ處分センカ徒ニ違犯者ヲ増加シ到底取締ノ實効ヲ奏スル能ハス依テ臨檢ノ際如此器物ヲ發見シタルトキハ直ニ消印ヲ付シ營業者ヲシテ後來使用ノ念慮ヲ斷タシムルハ最必要ト認ム

石川縣	○廿六年法律第六號第五百五十九號第六十六號 會社ヲ設立スヘキ發起人ハ發起ノ認可ヲ請フコトヲ要ス又發起人ハ會社設立免許ヲ請フヘシ	株式會社ノ發起設立ハ地方長官ニ於テ處分スルコト但鐵道銀行等ノ如キ特別ノ法ニヨリ成立スル株式會社ハ此限ニアラス 前項地方長官ニテ處分シタルトキハ之ヲ主務省ヘ報告スルコト	狩獵免許稅ヲ登記印紙ヲ以テ納付スルコトニ改ム
熊本縣	○廿八年法律第二十號 狩獵免許稅ハ國稅徵收法ニ依リ徵收ス	狩獵免許稅ヲ登記印紙ヲ以テ納付スルコトニ改ム	狩獵免許稅ヲ登記印紙ニテ納付スルコトニ改正セントスルハ現行法ノ如ク狩獵免許ハ地方長官ニ願出其免許稅ハ國稅徵收法ニ據リ納付セシムルトキハ官民ノ手續ヲ要スルノミナラス税金意納者ヲ生スルノ恐レナシトセス依テ登記印紙ヲ免狀領收證ニ貼付スルコトニ改ム一ハ以テ官民ノ手續ヲ減シ一ハ以テ意納者ナカラシメントスルニ由ル
鹿兒島縣	同法律第二十號第六條	本條ノ免許權ヲ警察署長分署長ニ委任シ得ルノ規定アルヲ要ス	地方長官ニテ免許權ヲ限ルハ遠隔ノ地ニ住スル人民ハ時機ヲ失スルコトアリテ不便少カラサルヲ以テ其利便ヲ計ラン爲メ特別ノ規定ヲ必要トス
石川縣	○廿六年法律第十號 砂鑛ヲ採取セント欲スル者ハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ	砂鑛採取願ハ地方長官ニ於テ處分スルコト	事務ノ敏捷ヲ圖ル
熊本縣	○鑛業條例第二章中第八條及第十二條及本條例施行細則第九條 鑛物ヲ試掘採掘セントスルモノハ鑛山監督署長又農商務大臣ニ出願シ鑛山監督署長ハ出願地所在地方長官ニ通知シ地方長官ハ其意見等ヲ復牒スル	鑛物ヲ試掘又採掘ヲ出願スルハ其願書ト同一ナルモノヲ出願スルト同時ニ出願地所在地ノ市役所又町村役場ヲ經由シ地方長官ニ届出ルコトニ改ムル	現時地方廳ニ於テ取扱フ手續ハ鑛山監督署長ノ通知ニ接スルヤ直ニ市町村役場ニ合達シ市町村長ハ之ヲ調査シ郡役所ニ差出シ郡長之レニ意見ヲ加ヘ進達シ地方長官之ヲ審案シ自己ノ意見トシテ回報スルモノニシテ多少手續ヲ要スルノミナラス幾多ノ日子ヲ費サ、ルヲ得サルモ實地ノ調査ハ一々本廳員ヲ派出シ能ハサルヲ以テ已テ得サル手續ニ出テ未タ他ニ便法アルヲ見ズ依テ之ヲ前記ノ如ク改正セハ豫メ市町村長ニ訓令シ該届ニハ字名ノ公簿ニ符合スルヤ否及事業ノ公益ニ害ナキヤ否ヲ副申スル事ニ定メ置クハ一々合達スルノ手續ヲ省キ鑛山監督署長ノ通知ニヨリ直ニ復牒スルノ便ヲ得



鹿兒島縣	○明治二十三年勅令第六十九號 (官有森林原野及產物特別處分規則) 官有森林原野及產物特別處分規則第一條第五項	建築材料ノ下ニ「又ハ生活上必要ノ器具材料」ノ文字ヲ加フ	可ク出願者モ二通ノ書類ヲ認ムルハ不便ノ觀アルト雖 一一方ニ於テ處分ノ迅速ナルノ便アルアリ得失却テ後 者ニ於テ益アルヲ認ムルニヨル 非常災害ノ場合ニ於テハ獨リ建築材料ニ止マラス其生 活上必要器具材料賣渡モ必要ナルヲ認ム
鹿兒島縣	同上第十六項	「接續地ノ所有者」ノ文字ヲ削リ左ノ但書ヲ加フ 但隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス	現行法接續地ノ所有者トノミ限レルハ蓋シ其隣地ノ縁 故ト事業取締上等ヲ斟酌シタルモノニ外ナラズト雖方 今殖産興業勸興ニ伴ヒ土地ノ必要ヲ感スルノ場合ニ於 テ只僅カノ縁故アル爲メ接續地主ノミ此特別ノ恩惠ニ 浴スルハ不可ナリ故ニ接續地主ハ之レカ先買權ヲ有ス ルモノトシ置クヲ以テ足レリトス
鹿兒島縣 (同上)	第七條追加 農商務大臣ハ官有森林原野ニシテ存置ノ必要 ナシト認メタルモノハ所在市町村ニ隨意ノ契 約ヲ以テ賣渡スコトヲ得	本文中「接續地ノ所有者」ノ八字ヲ削除スル ヲ要ス	豫約拂下若クハ介在地即時拂下ノ制アレレ之ヲ個人ニ 拂下クルハ其規模率ヲ狭少ニシテ一區域全體ニアラサ 且就中沃饒便宜ノ土地ノミヲ撰擇スルノ弊アルヲ免レ ス斯クテハ拂下ノ處分頻々手數ヲ煩ハスノミナラス爾 餘拂下以外ニ瘠薄望ミナキノ土地點々殘留ノ觀アリ故 ニ市町村ニ特買スルノ道ヲ開キ存置見込ナキ箇所ハ一 手ニ之ヲ拂下ケ市町村ノ處置ニ一任シ開墾使用ノ方法 ヲ立テシメハ整理上得策ナルヘシ
福井縣	同第十一條第十六號 十町歩以下ニシテ見積代價金二 百圓ニ超ヘサル森林原野ノ民有 地又ハ道路河川ニ介在セルモノ 接續地ノ所有者ハ賣拂フハ隨意 契約ヲ以テスルヲ得ルノ件	本文中「接續地ノ所有者」ノ八字ヲ削除スル ヲ要ス	此削除ヲ要スルハ規則中接續地ノ所有者外ハ賣拂得ル ノ明文ナキヲ以テ僅少ノ土地ト雖モ名ヲ開墾若クハ牧 畜ニ託シ豫約拂ヲ受クルノ外隨時賣拂ノ途ナキニ付之 カ範圍ヲ擴張メントスルニ由ル

宮崎縣	同第一條	第一條第一號ニ左ノ但書ヲ加フ 但第五條ニ依リ地元市町村ニ於テ森林保護 ノ契約アルモノハ豫定價格ノ二割又ハ三割 ヲ減スルコトヲ得	斯ク但書ヲ設クルニ至テハ森林所在地ノ住民ハ公共事 業ニ付キ利益アルノ念徐ロニ起リ相互ニ森林ノ保護ニ 意ヲ用井ルノ深キニ至ランカ其事由ハ別紙ニ述ン
宮崎縣	同第五條	第五條左ノ通改正ス 第五條 農商務大臣ハ森林保護ノ爲メ必要ナ ル制限ヲ付シ左ノ事項ニ限リ森林ノ副產物 又ハ下枝ヲ無料ニテ採取セシムルコトヲ得 一地元市町村又ハ地元人民ニ於テ森林保護 ノ契約アルモノ 一前項ノ契約アルモノニシテ其保護宜シキ ヲ得タルモノハ樹木下枝ノ全部又ハ一部 ヲ下付ス	本條ハ無料採取ノ區域狹隘ニ失シ却テ森林保護上十分 手ヲ盡ス能ハサルノ感アルニ由ル尙其事由ハ別紙ニ述 ン
宮崎縣	同第七條	左ノ一條追加ヲ要ス 第七條 部分林仕付地ハ挿植ヲ爲スノ前相當 ナル下地ヲ造ル爲メ無料貸渡ヲ爲スコトヲ 得	本條新設ノ事由ハ別紙ニ述ントス
富山縣	○明治二十六年勅令第四百十六 號 農商務省官制第八條官有森林原 野ニ關スル事務	官有地ハ內務省主管ト農商務省主管トヲ區分 シアルヲ一省ノ主管ト改ムルヲ要ス	官有地ハ從來內務省ノ主管ニ區分セラル、ヲ以テ其 法規令達モ自ラ異ナリ從テ其處分方區々ニ涉リ甚タ錯 雜スルカ爲メ大ニ手數ヲ感ス故ニ一省ニ於テ總テ官有 地ヲ主管スルコト、ナラハ法規令達錯雜トナラス簡明 能ク均一ノ取扱ヲ爲シ得ルト考フ

宮崎縣

官林嶺山事務ヲ地方廳ニ移ス意見  
大小林區署ノ制度ヲ廢スルニ付意見

大小林區署ノ制ヲ廢スルニ付意見  
抑モ縣下官林内ニ於ケル原野ハ其面積三萬町餘歩(其實五萬町步)ニシテ大林區署ニ於テ樹木ヲ植栽シタル總反別一ケ年ハ僅カニ五十町步ニ過キスト聞ク右ハ當局者ニ於テ見ル所アリテ然ルモノナラン然レモ縣民ノ造林事業如何ヲ顧ミルニ縣下舊高鍋藩及肥後藩ハ古來山林ノ制度ニ意ヲ用ヒタルノ周到ナルニ因ルカ現ニ鬱蒼森々タル山林ヲ造成シ其光景觀ルヘキモノアリ而シテ此二藩ニ於テ最モ殖林ヲ獎勵シタルハ種々方法アリ一ニシテ足ラスト雖モ部分林ハ又其重ナルモノ、一ナリ是ヲ以テ今ニ至リ猶ホ縣民ノ部分林ヲ望ムヤ甚タ切ナリ然ルニ明治十六年以降大林區署ニ部分木ノ挿植ヲ出願スルモノ南那珂ノ一郡ニシテ四千八百五十二町餘歩ニ達スルモ更ニ許可ヲ得ス然レモ因襲ノ久シキ縣民ハ舊來ノ慣行ニ染ミ造林ノ殖産上利益アルヲ忘レサルノ餘リ許可ヲ待タズ樹木ノ挿植ヲ爲セシモノ亦少カラサルノ實況ヲ呈スルニ至レリ地方廳ハ此慣行ヲ利用シ法文ノ許ス限リ便宜ノ取締法ヲ設ケ部分林ヲ獎勵スルノ利益且得策ナルヲ信スト雖モ官林地ニ係ルヲ以テ現今ノ官制上亦奈何トモ爲シ難シ而シテ維新以來栽植セシモノ并前顯許可ヲ待タズシテ栽植シタル部分木及舊藩時代ノ部分林ニシテ證券ノ下付ヲ爲スヘキモノ縣下ノ官林ニ於テ一萬七千餘個所ニ至リ明治廿六年主務大

臣ノ承認ヲ經テ大林區署之レカ處分ヲ爲スノ運ヒニ至レリト雖モ今尙ホ結了スルニ至ラズシテ人民ノ證券下付ヲ待ツ甚タ切ナリ是レ畢竟地方官ノ如ク人民ニ直接ノ關係ナキカ爲メ人情風俗ニモ通セス林業ノ發達林政ノ施行上便宜ヲ得サルニ因スルナラン故ニ地方廳ニ官林ノ事務ヲ移サレ學識經驗アル人材ヲ採用シ以テ其事業ニ從事セシムルニ至ラハ林業ノ發達林政ノ施行上便宜ヲ得ル儀ト確信ス斯ノ如クナラハ則チ一ハ國家經濟ノ幾分ヲ裨補シ一ハ從來ノ大小林區署ノ經費ニ比シ經費ノ節減ヲ看ルニ至ランカ又官林ノ現況ニ鑑ミ官民協同以テ官林ヲ保護スルノ必要ヲ認メタルニ付茲ニ併テ意見ヲ陳述セントス  
現今官林ニ對シ官民ノ關係ヲ見ルニ大ニ寒心スヘキモノアルヲ見ル即チ官林ノ火災盜伐等ノ被害ハ地元人民恬然之レヲ傍觀シ官民力ヲ協セ之カ災害ヲ歇止スルノ念慮ヲ起サス官林ノ災害ハ却テ之ヲ喜フノ奇觀ヲ呈スルニ至レリ斯ノ如ク官林ニ對シ保護心ヲ却却シタルハ種々ノ原因アリト雖モ要スルニ左ノ二元素ニ因由セス  
一 法律規則ノ緻密ナルニ隨ヒ人民又昔時ノ如ク官林ノ爲メ其利益ヲ享クル能ハサル事  
一 森林官ハ法律規則ノ範圍内ニ於テ嚴正ニ事ヲ處スルニ長シ地方ノ人情風俗ニ隨ヒ林政ヲ處理スルノ意嚮或ハ乏キノ傾キアリ  
斯ノ如キ點ヨリ官民協同ノ要素ヲ缺キ人民ヲシテ官林ヲ愛護スルノ念慮ヲ益稀薄ナラシムルニ至リタルハ現今制度ノ結果ヨリ然ラシムル處ニシテ之レカ改善ヲ謀ルハ實ニ刻下ノ急務ト信ス抑モ現行ノ大小林區署ノ制度タルヤ森林官ハ一方ニ於テハ檢察官ノ職務ヲ帶フルヲ以テ勢ヒ官林取締ノ一方ニ偏スルノ傾キアリテ寬嚴相待チ官民協同ノ方法順序ヲ運ラズ能ハサルノ情態ア

--	--	--

ルヲ免レシ既ニ陳述シタル如ク官林ノ地方廳ノ管轄ニ歸セシメラル、時ハ地方廳ハ町村役場郡役所等ノ下級行政廳ヲ管督スルヲ以テ此レ等ノ吏員ヲ監督シ或ハ提携シ人民ト共ニ官林ヲ保護愛育スルノ至便至利ナルヲ信ス之ヲ舊藩制度ノ既往ニ鑑ミ將來ニ考フルニ官林ヲ保護シ益林業ヲ發達セシメント欲スルニハ官民協同ノ四字ハ徹頭徹尾之ヲ去ル能ハサルモノト斷定セサルヲ得サルナリ官民協同ノ實行ハ第一森林法ヲ速カニ發布シ官林ノ保護ヲ爲ス事第二官林ヲ地方廳ニ於テ管理セシムル事第三現今ノ規則ニ對シ前表ニ述フル如ク差當リ訂正増加シ併セテ不要官林ノ處分ヲ速ニスルヲ必要トス猶ホ其理由ヲ左ニ詳記セン

一官林實況調査ノ結果ニ依リ廢止スヘキ官林ハ速カニ之レヲ廢止シ町村ノ基本財産トナスカ如キ然ルヘキ方法ヲ講スル事

現今大林區署ハ出來得ル丈ハ官林ノ區域ヲ擴張シ隨テ其取締行届カス殆ント尾大振ハサルノ觀アリ不用ノ官林ハ速ニ然ルヘキ方法ヲ設ケ町村ニ特賣又ハ讓與ノ方法ヲ設ケ之レヲ處分スルハ目下ノ必要ト認ム

一官林保護ノ爲メ地元人民ニ報酬ヲ與フル事

此報酬ニ對シテハ官有森林原野及產物特別處分規則第五條及二十四年農商務省內訓令第四五二號ノ規程アリト雖モ其區域甚タ狹少ニシテ到底關係者ノ希望ヲ滿タス能ハス又其順序方法甚タ複雜ニシテ人民其類ニ堪ヘス故ニ本規程發布以來本縣ニ於テハ漸ク二三人民官林內副產物ノ無料採取ヲ出願シタルニ過キス故ニ將來其手續ヲ簡單ニシ採取ノ區域ヲ擴張シ獨リ副產物ノ下付ノミナラス其町村ニ於テ保護シタル官林中ヨリ公共ノ用ニ供スル爲メ建築材料ヲ其町村ニ賣渡ストキハ豫定價格ヨリ二割又ハ三割ヲ減スルコトヲ得ルノ規程ヲ設ケ或ハ林樹ニ差支ナキ以上ハ

島根縣(同上)

--	--	--

官林ノ事務ヲ地方廳ニ移ス意見

其枝條ヲモ下附シ又ハ其山林ノ一部分ヲ割與スルノ規程ヲ設ケルハ亦タ最モ必要ナルコト、ナス

一部分林ノ素地ヲ作ル爲メ無料ニテ官有原野並官林內原野ヲ使用セシムル事

良好ノ用材ヲ養成セント欲セハ唯原野中ニ稚樹ヲ植栽シタルトテ成長スヘキモノニアラス故ニ數年間之レカ素地ヲ作り或ハ切替知トナシ或ハ松林ヲ作り然ル後之レニ良樹ノ稚苗ヲ植栽シ始メテ良林トナスラ得ルモノナリ舊藩政ニ於テハ右等ノ爲メ官ニ屬スル原野ヲ自由ニ人民ニ使用セシメタリ故ニ各地到ル處鬱蒼タル部分林ヲナセリ現今ノ制度ハ右等ノ事ヲ許サ、ルヨリ部分林ヲナサントスルモノハ良樹ノ成長シ易キ一部分ノ地ヲ撰ヒ之レガ出願ヲナセハ其造林區域ノ不規則ナルヲ責メ之レヲ許可セラレサルノ傾キアリ故ニ是等ノ規程ヲ設ケルハ亦最モ必要ナルコト、信ス

右ハ其大要ニシテ其細小ノ事ニ至リテハ地方ノ慣習ト民智ノ發達トヲ斟酌シ時宜ニ從ヒ地方長官ハ法律規則ノ範圍內ニ於テ勉メテ官民協同ノ方法ヲ取レハ大ニ不用ノ費ヲ省キ有用ノ途ニ供シ森林ノ繁殖ハ再ヒ舊藩時代ヲ凌駕スルノ盛況ヲ見ルコトハ信シテ疑ハサル所ナリ

明治廿二年縣下官林ヲ廣島大林區署ニ移セシ以來既ニ幾多ノ歲月ヲ經ルモ未タ面積ノ測量林樹生長等ノ施業調査ヲ了セサル而已ナラス動モスレハ古來ノ林相ヲシテ却テ荒廢セシメタルノ感ナキ能ハス即チ遷摩郡温泉津山、那賀郡大麻山、及簸川郡鵜淵寺上地ノ如シ而シテ該諸山ハ魚沼ニ航海ノ目標ニ又水源涵養風致保存ニ必要ヲ有シ殊ニ大麻、鵜淵寺ノ兩山ニアリテハ禁伐林タルニモ拘ハラズ之ヲ濫伐シテ舊藩ヲ毀損スルコト堪カラス蓋シ以上ノ弊源ハ漫ニ收入ノ多キヲ期スルト彼林

區署管轄ノ區域廣キニ過キ監督治カラサルヲ以テ盜伐等之ヲ制スル能ハサルニ由ル是ヲ以テ之ヲ推ス全國森林ノ荒廢ニ歸スルモノ多キ知ルヘキノミ抑森林ノ植伐ニ由リテ治水防砂漁業等地方ニ及ホス所ノ利害ハ實ニ至大ナルニヨリ近來地方ニ於テモ漸ク其必要ヲ感シ民林ノ保護監督ヲ嚴ニシ又新ニ殖林ノ準備ヲナサシメ以テ國土ノ保安又森林經濟ノ發達ヲ企圖スルニ至レリ然ルニ若シ一方其執ヲ愆ルトキハ官民兩ナカラ其目的ヲ達スルコト能ハサルハ實ニ火ヲ親ルヨリモ明ナリ因テ此際官林事務ヲ舉テ之ヲ地方廳ニ移シ其規模ヲ一ニシ之ヲ保護獎勵セハ兩者其効ヲ收メ以テ國土ノ安寧ヲ保全スルヲ得ン乎若シ夫レ國家經濟ノ點ニ至リテハ現今全國林區署ニ要スル凡ソ五十萬圓ノ半額以內ヲ以テ豫定收入凡ソ九十萬圓ヲ國幣ニ納入スルコト敢テ至難ノ業ニアラスト認ム今左ニ廣島大林區署主管ヲ標準トシ其收支概目ヲ掲ケ以テ參考トナス

經費比較概目  
 現在(本縣當)豫算  
 金一萬圓  
 但現在廣島大林區署經費豫算ヲ所屬廣島外四縣ニ平均分割シタル本縣當額  
 一金五千八百三十圓  
 未來(本縣主管)ノ支出豫算  
 內  
 金七百二十圓 技師一人俸給  
 金三百圓 技手一人俸給  
 金三百六十圓 關或ハ技手二人俸給平均十五圓  
 金千二百圓 保護吏十人平均十圓  
 金七百五十圓 保護吏旅費月額平均十圓  
 金三百圓 技師以下旅費  
 金千圓 備品及消耗品費  
 造林費  
 金五萬圓

熊本縣	熊本縣	大林區署鑛山監督ヲ廢シ其ノ事務ヲ地方廳ニ移ス件	但現在廣島大林區署收入豫算 內 五千圓 未來(本縣主管)ノ收入豫算 一金五千圓
熊本縣	熊本縣	大林區署廢止ニ關スル意見	府縣ノ境域ヲ廣クシ大林區署鑛山監督ヲ廢シ諸法令ヲ改正シテ地方分權ノ實ヲ舉ケタル以上ハ地方廳ノ事務ヲ分科シテ五部ト爲スヘシ即チ第一內務部第二警察部第三土木部第四林務部第五監獄部是ナリ更ニ各部ヲ分割シテ幾許ノ課ト爲シ各部長ハ高等官ヲ以テ之ニ充テ各課長モ亦必ス高等官ノ資格ヲ有セシムルヲ要ス而シテ別ニ書記官一名專任參事官一名ヲ置キ地方行政事務ニ關シテ一ハ實際上ノ一ハ理論上ノ責ニ當ラシム可シ其他右ノ改革ニ伴フ精細ノ事項ハ茲ニ之ヲ省略ス

熊本縣	熊本縣	大林區署廢止ニ關スル意見	水源涵養土砂押止ノ目的ヲ達セント欲セハ全國ノ森林ヲ保護スルノ急務ナルヲ世間既ニ定論アリ我政府茲ニ見アリ數年來歐洲ノ制度ヲ照考シテ森林保護監督ノ方法ニ注意シ森林法ヲ制定シテ將ニ本期ノ議會ニ提出スルノ準備ヲ終ヘタリト聞ク蓋シ林政ノ美果ヲ充分ニ收メント欲セハ森林ノ官有タルト民有タルト問ハス禁伐輪伐等ノ制度ヲ嚴行シ所謂收利主義ニ由ラスシテ專ラ林木經濟法ヲ實施スルヲ要ス森林保護ノ目的既ニ官有民地ノ間ニ差別ヲ立ツ可キモノニアラストセハ之レカ監督實施ノ責ニ當ル可キ機關ハ必スシモ兩様ニ分別スルノ必要ヲ見ス管ニ其必要ヲ見サルノミナラス却テ林政ノ統一ヲ害スルノ事實多カル可シ是レ大林區署ヲ廢シテ地方ノ林務ヲ悉ク知事ノ權限內ニ移ス可シト云フ第一要點ナリ殊ニ全國ヲ現時ノ如ク少數ノ大林區ニ區劃セル制度ノ如キハ其境域非常ニ廣大ニ失スルカ爲ニ充分官有山林ノ保護監督ヲ實行シ得可カラシメテ官林盜伐ノ徒續々輩出シ偏私不利益ノ形跡時々顯出シ來ル所以ナリ加之現時ノ制度ニ於テハ大小林區署ノ經費
-----	-----	--------------	---

佐賀縣	同上	大小林區署ヲ廢スヘシ	<p>ハ官有山林ノ收入ヲ以テ之ヲ充タスノ方法ヲ取ルモノナレハ實際上却テ濫伐ノ弊害ヲ醸セルノ情態アリ且ツ又民有林ト官有林トノ關係就中部分林ノ關係上ヨリ觀察スル時ハ今日ノ如ク林政ノ複雜ナル結果ハ往々地方人民ノ紛糾悶着ヲ招クコト多ク到底其得策ナル所以ヲ知ル可カラサルナリ</p> <p>一官林ニ關スル事務ヲ地方廳ノ管理外トシ別ニ大小林區署ヲ設置シタルハ單ニ官林其モノ、經營上ヨリ見テ以テ利益アリトセルモノナルヘシト雖モ元來山林ノ經營ハ治水ノ事業ト相俟テ國土保安上至大ノ關係ヲ有スルモノナルニ各別ノ官署ニ於テ管理スルカ故ニ相互ノ關係ヲ適當ニ保持セシムルコト頗ル困難ナルノミナラス地方長官ハ其管轄内ニ職權ノ及ハサル地域アルカ爲メ日常處務ノ上ニ無用ノ手數ヲ要スルコト尠カラズ例ハ官有原野ニ關スル處分ハ大林區署ノ意見ヲ聞テ要スルカ如キ若クハ郡町村ニ於テ道路溝渠溜池等ヲ開墾セントスル場合ニ於テ其敷地官林ニ關係アルトキハ先以テ大林區署ニ協商ヲ要スル等徒ニ往復ノ間事務ノ滯滞ヲ來ス少キナラス林區署ニ於テ亦官林ノ境界等ニ關シ地方官ノ立會ヲ求メ若クハ其意見ヲ聞クニアラサレハ處分ヲ爲ス能ハサルコト頗ル多ク時トシテハ地方廳ニ於テ其立會ノ煩ニ堪ヘサルカ如キコトアリ畢竟右等ノ煩雜ハ官署ヲ異ニスルヨリ生スルモノニ付大小林區署ヲ廢シ其事務ヲ舉テ地方廳ニ管理セシムルトキハ一面處務ノ簡捷ヲ得一面治水事業ト相俟テ國土保安ノ目的ヲ完全ニ達シ得ヘク且ツ官林ノ經營モ亦地方トノ關係ヲ圓滿ナラシメ現時ヨリ一層整理スルヲ得ヘシ或ハ官林ヲ以テ地方廳ノ管理トセハ管ニ濫伐ノ弊ヲ生スルノミナラス山林ノ整理得テ期スヘカラストノ說ヲ爲スモノアリト雖モ維新後舊藩ノ制度敗類シテ新制度ノ未タ</p>
-----	----	------------	--

岡山縣	同上	<p>治水ニ關シ小林區署ノ事務ヲ地方廳ノ所管ニ移スヲ要ス</p>	<p>制定セラレザル所謂過渡時代ニ在テハ右等ノ弊害アリシハ理ノ然ラシムル所ニシテ地方官獨リ無謀ノ處置ヲ爲シタルニアラス中央政府ト雖モ恐クハ今日ノ如ク山林愛護ニ意ヲ致サ、リシナルヘシ然レニ爾來漸次制度ノ制定アリ森林法ノ如キモ亦不遠制定セラレントスル今日ニ在テハ右等ノ弊害ナキハ勿論國土保安ノ職責アル地方廳ニ於テ管理スルハ大小林區ニ於テスルヨリモ寧ロ一層好結果ヲ得ヘシト信ス</p> <p>一大小林區署嶺山監督署土木監督署ヲ廢シ其事務ヲ地方廳ノ管理トシ且ツ前二項ノ如ク地方廳ノ組織ヲ改メ俸給令ヲ改正スルトキハ地方廳ノ經費ニ多少ノ増加ヲ要スルハ勿論ナリト雖モ其増費ハ大小林區署嶺山監督署土木監督署ノ經費ヲ轉用セハ増費ヲ補フテ餘アラン假ニ福岡大林區ニ屬スル經費ヲ其管内四縣ニ配付セハ一縣平均二萬餘ニ當ルヘシ若シ尙不足アラハ常ニ閑散無聊ニ苦ミツ、アル處ノ區裁判所ヲ廢シ及官民共ニ其不便ヲ感シツ、アル處ノ登記事務ノ取扱ヲ變更セハ全國ヲ通シ凡百萬圓内外ノ經費削減ヲ見ルヘク之レヲ各府縣ニ平均セハ一府縣管内少クモ二萬圓ヲ節シ得ヘキニ付キ地方廳ノ増費ヲ補充スルハ實ニ易々タルヘシ其區裁判所ヲ廢シ登記事務ノ取扱ヲ變更スルノ適當ナル理由概略左ノ如シ(區裁判所ヲ廢スル理由ハ司法省ノ部ニ移ス)</p> <p>凡ソ山林事務ハ治水ノ事ト密接セル重大ノ關係ヲ有スルハ言フ俟タズ曩ニ河川法ヲ發布セラレ尙早晩山林法及砂防法等逐次其發布ヲ見ルニ至ラントスルモ蓋シ以上ノ關係ニ重キヲ置カル、ノ主旨タルヲ疑ハス殊ニ近年各地水旱災沓リニ臻リ上下熱心治水ノ策ヲ求メ就中山林事務ニ關シテハ意ヲ用ユル特ニ切ナリ然レトモ縣々今日ノ制ヲ考フルニ府縣ノ支配ハ獨リ民林及官有林ニ對スルノミ官林ハ別ニ大小林區署ノ在ルアリ爲メニ</p>
-----	----	----------------------------------	--

福井縣	福島縣	佐賀縣
(同上)	(同上)	(同上)
官林ノ所管ヲ地方廳ニ移サレンコトヲ望ム	山林事務ヲ地方官ノ管理ニ屬セラレンコトヲ望ム	同上
水源涵養國土保安其他一般民林ニ對シ植樹ヲ獎勵スルニ際シ官林ノ營林事務ト地方廳ノ民林ニ對シ施設ニ於テ其方法統一ヲ欠クカ如キ場合アラハ山林經營上甚タ遺憾トスル所ナリ殊ニ本縣ノ如キハ將來大ニ民林ノ整理ヲ圖ラントシ目下夫々着手中ナレハ萬々施設上支牾スルカ如キアラハ其効果ヲ收ムルコト能ハサルモ亦	現今ノ制度ニ依レハ山林ニ關スル事務ハ農商務省ノ直轄トセラレ大小林區署ヲ置キ以テ之ヲ統轄スルノ制ナリト雖從來ノ實績ニ徴スルトキ如此制度ヲ設クルノ必要ヲ認メス其山林ノ事務ヲ整理シ之カ保護監督ヲ嚴ニスルハ將來益々必要ナルハ論ヲ俟タルモ其事務タル從テ地方廳ニ貫連スルモノ多ケレハ今ニシテ山林ノ事務ヲ舉ケテ地方官ノ管理ニ屬セラレ農商務省ハ之カ監督ヲ爲スノ法ヲ以テ林政ヲ施行セラルハ於テハ從來林區署ニ要シタルトコロノ經費ノ半ニシテ其政舉カルハ火ヲ觀ルカ如ク所謂勞半ハニシテ功倍スルモノト思考ス	此ニ施ス所ヲ以テ直ニ彼ニ施スヲ得ス交渉往復ノ未施業往々其期ヲ愆ルモノナシトセス或ハ官林ニ施ス所府縣ノ以テ不利ト爲スモノアルモ權限ノ存スルアリ亦如何トモ爲シ難シ途ニ百年ノ計ヲ全フスルコト能ハサルナキヲ保セサルナリ若シ治水ヲ外ニシテ論セハ現今ノ制固ヨリ敢テ妨ケナカルヘシ苟モ然ラザレハ假令山林法砂防法ノ發布ヲ見ルモ制度ノ改正ナキ限リ到底一缺典タルヲ免レザラシカ之ニ反シ今府縣ニ於テ山林ノ官ト民トヲ問ハス治水ニ關スル諸般ノ作業ヲ一齊ニ遂行シ得ルノ便ヲ得ハ其効果當ニ大ニ見ルヘキモノアルヲ信ス尤山林事業ノ監督ヲ掌ル官署固ヨリ欠ク可カラス故ニ此際大林區署ハ猶土木監督署ノ如ク現今ノ儘ニ存置シ小林區署ヲ廢シテ其事業ヲ地方廳ノ所掌トセラレンコトヲ望ム

香川縣	大分縣	熊本縣	佐賀縣
(同上)	(同上)	(同上)	(同上)
大小林區署ヲ廢シ其事務ヲ府縣ニ屬セラレンコトヲ要ス	官林ヲ地方廳ノ管轄ニ歸スルヲ要ス	鑛山監督署廢止ニ關スル意見	同上
期シ難シ依テ地方廳ノ經費ニ幾分ノ増額ヲナシ官林ノ所管ヲ地方廳ニ移サレンコトヲ望ム	官林ハ地方廳ノ管轄ニ復シ森林警察ノ法ヲ設ケ取締ヲ一定シ繁殖保護ヲ嚴ニスルノ必要且ツ治水ト密接ノ關係アルニ由ル	鑛業ハ國家ノ最要ナル財源ヲ爲スモノニシテ其施業ノ當否ハ大ニ公共ノ利害ニ關スルモノナレハ行政上充分之レカ監督ヲ行フヲ要ス然レモ現行制度ノ如ク之レカ爲ニ特別ノ監督官廳ヲ設クルノ必要ヲ見ス其理由ハ第一鑛山監督署ハ徒ラニ地方廳トノ往復照會ヲ頻繁ナラシメ自ラ行政實務ノ煩勞溢滞ヲ來スヲ多シ第二鑛山監督署ノ官吏ハ凡テ技術上ノ専門家ナルヲ以テ地方行政ノ實務ヲ斟酌スルノ思想ニ乏シク單ニ技術上ノ調査技術上ノ監督ニノミ偏シテ種々ノ弊害支障ヲ招クヲ少ナカラス第三管轄區域廣大ニ過キ實際監督ノ目的ヲ達スルヲ難シ	以上ノ理由ニヨリ且又經費ノ上ヨリ看察スルモ寧ろ之ヲ地方官廳ノ管理ニ屬セシムルヲ利益ナリト信ス
官林施業ノ事務ヲ單一ニ分離シテ處理ヲ期スルハ行政上ノ得策ニアラス總テ山林ノ施業ハ治水ニ關聯シ兩者相伴フテ始メテ完全ノ結果ヲ得ヘク若シ其一ヲ缺カン歟彼是ノ設計施行ヲ誤ルニ至リ共ニ利益ヲ保持スルコト能ハサラントス今日ノ趨勢ヲ以テスレハ官林ノ事務ハ內務省ノ所管ニ移シ相當ノ施設方法ヲ定メ管理ト費用トヲ府縣ニ移スニ至ラハ一層營林保護ノ目的ヲ貫徹スルヲ得テ其結果治水上ニモ好成绩ヲ與フルニ至ルヘシ			

德島縣	同上	大小林區署ハ特設スヘキノ必要ナシ故ニ地方廳ノ管理ニ移サレタシ	<p>地籍ハ地方廳ノ管轄スル所ナルヲ以テ鑛物試掘借區廳ノ如キハ之ヲ鑛山監督署ニ受クルモ必ス地方廳ノ意見ヲ聞キ且調査ヲ求ムルニアラサレハ之ヲ處理スルヲ得ス地方廳ハ此ノ點ニ於テ全ク監督署ノ爲メニ下調ヲ爲スノ地位ニアリ爲メニ監督署トノ間徒ニ照會往復スルノ煩雜ナル言フヘカラサルモノアリ之ヲ地方廳ニ管理セシムルトキハ右ノ如キ煩雜ハ全ク之ヲ省クコトヲ得ルモノニシテ實ニ無用ノ手數ナリトス尤モ鑛業ハ專門ノ技術ニ屬スルモノナルカ故ニ專門ノ官署ニ於テセサルヘカラストノ説モアルヘシト雖モ目下監督署ニ置クル所ノ技術者ヲ以テ地方廳ニ配置セハ毫モ故障ナカルヘシ此ノ點ニ就テハ官林事務ニ於テモ亦同様ナリトス</p> <p>凡ソ官有財産ノ重ナルモノニシテ府縣知事ヲシテ直接之レカ監督ノ任ニ當ラシメサルモノハ蓋シ大小林區署ノ制度ノ外ニ之ヲ求ムルヲ得サルヘシ是レ或ハ一種ノ技術ヲ要シ林務ハ地方官其經驗ニ乏シク全國統一ノ下ニ其業務ノ實施ヲ欠ク所アルニ慮アルニ因ルヘシト雖モ知事ハ管内ノ事ヲ審ニシ殊ニ各種ノ機關ヲ備フルヲ以テ官有財産ノ取締上ニ於ケル亦大ニ優ル所アルノミナラス特ニ技術ヲ要スルモノハ各專門家ヲ用ユルニヨリ林政ノ施行及官林ノ施業等最モ適切ニ最モ敏捷ニ處理スルヲ得ヘシ其大綱ハ主務大臣監督ノ下ニ之レヲ處理シ其細節ニ關スル事項ノ如キハ地方官能ク其事情ニ通曉スルヲ以テ舊慣ヲ斟酌シ其土ニ適合シタル細則ヲ設クルニヨリ大小林區署ノ比ニアラサルヲ信ス尙大小林區署廢廳ニ付テハ別紙ニ述ントス</p>
宮崎縣	同上	新ニ各府縣内務部ニ山林ノ一課ヲ設ケ現今ノ大小林區ヲ廢シ小林區署ハ山林課ノ出張所トス	<p>大小林區署ハ官林事務ヲ處理スルノ爲メニ設ケラレタレトモ其必要ナシ故ニ地方廳ノ管理ニ移サレシコトヲ望ム然ルトキハ國庫ノ經費ヲ節減シ得ルノミナラス森林保護モ亦行届クヘシ其官林區域ノ兩縣ニ跨ルノ場合</p>

德島縣	同上	職工ノ保護及取締ニ關スル意見	<p>ニ於ケル事務ノ取扱方ハ相當ノ規程ヲ設ケラレハ差支ナキニ由ル</p> <p>從來官林ノ事務ハ一ニ之ヲ舉ケテ大小林區署ノ管轄ニ屬セシメタリ是レ地方殖林上其發達ヲ害スルコト掛カラス例ハ不毛ノ官地ヲ利用シテ樹植ヲ計ラントスルモ所謂部分林ノ樹植ハ府縣ノ勸業事務ニ屬シ其一ハ山林ト爲ルトキハ其管轄大小林區署ニ歸スルヲ以テ府縣ハ進テ其樹植ヲ獎勵セサルノ傾向アルカ如シ又假令官林ト雖モ地方ノ狀況ニ依リ其管理方法必スシモ一定スルコトヲ得ス之ヲ地方廳ニ委任スルトキハ地方廳ハ地方人民ニ最モ密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ能ク地方ノ狀況ヲ察シ官民ノ便ヲ計リ好果ヲ收ムルコトヲ得ヘキハ論ヲ須タス故ニ此際大小林區署ヲ全廢シ從來費シタル經費ト共ニ其事務ヲ地方廳ニ移シ巡查ヲシテ山林看守ヲ爲サシムルトキハ彼此ノ利便掛カラサルヘシ</p> <p>一般工業勃興シテ職工ノ需用多ク隨ヒテ種々ノ惡習慣ヲ長スルノミナラス僱主ニ於テモ亦弊害ナシトセス然ルニ地方區々ノ方針ヲ以テ保護取締ヲナサントスルモ其關聯スル所ノ區域亦廣キヲ以テ之レカ實効ヲ期シ難シ依テ適當ノ法令ヲ發布セラル、ヲ必要トス茲ニ其要件ヲ掲クレハ左ノ如シ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一、他人ニ雇ハレタル職工ノ逃亡ヲ制止シ且其雇ハレ中他人ノ職工トナルコトヲ得サラシムルコト</li> <li>二、雇者ニシテ他人ノ雇フ所ノ職工ヲ私擅ニ雇使スルノ弊ヲ防クコト</li> <li>三、職工同盟罷工ノ弊ヲ豫防スルコト</li> <li>四、雇中ノ職工ニシテ學齡ノモノハ雇主ヲシテ相當ノ教育ヲナスノ義務ヲ負ハシムルコト</li> <li>五、職工ノ雇主ト被雇者トノ契約ヲ確實ナラシムルノ方法ヲ立ツルコト</li> </ol>
山口縣	同上	大小林區署ヲ廢シテ其事務ヲ地方廳ニ移ス事	<p>從來官林ノ事務ハ一ニ之ヲ舉ケテ大小林區署ノ管轄ニ屬セシメタリ是レ地方殖林上其發達ヲ害スルコト掛カラス例ハ不毛ノ官地ヲ利用シテ樹植ヲ計ラントスルモ所謂部分林ノ樹植ハ府縣ノ勸業事務ニ屬シ其一ハ山林ト爲ルトキハ其管轄大小林區署ニ歸スルヲ以テ府縣ハ進テ其樹植ヲ獎勵セサルノ傾向アルカ如シ又假令官林ト雖モ地方ノ狀況ニ依リ其管理方法必スシモ一定スルコトヲ得ス之ヲ地方廳ニ委任スルトキハ地方廳ハ地方人民ニ最モ密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ能ク地方ノ狀況ヲ察シ官民ノ便ヲ計リ好果ヲ收ムルコトヲ得ヘキハ論ヲ須タス故ニ此際大小林區署ヲ全廢シ從來費シタル經費ト共ニ其事務ヲ地方廳ニ移シ巡查ヲシテ山林看守ヲ爲サシムルトキハ彼此ノ利便掛カラサルヘシ</p>

岡山縣	岡山縣	福島縣	岡山縣	大分縣
同上	同上	同上	同上	同上
職工雇入、職工教育其勞働時間等ニ關シ制限ヲ設ク	陸上蒸氣器械ヲ用ユル工場并職工取締法律ヲ設ケ監督制度ヲ定メラレンコトヲ望ム	蠶種検査法ヲ設ケ各府縣一定ノ検査ヲ要ス	射倂的會社ノ設立ヲ許否スルノ法ヲ定ム	漁業法ノ發布ヲ要ス
近時新事業ノ勃興スルニ從ヒ職工ノ横暴職工ノ虐待等種々ノ弊害ヲ生セリ宜シク一般ニ取締法ヲ制定アラシムコトヲ望ム	近來各地へ紡績織布製絲等種々ノ工場ヲ建設シテ増設スルモノ續出シ今ヤ全國ニ於ケル總數モ甚シトセ然ルニ之カ取締規則ヲ敷設シタル府縣ハ寥寥トシテ之ヲ主管スル官府タニ或ハ警察部或ハ内務部ニ屬スルモノアリテ一定セズ斯ル狀況ナルヲ以テ會社ハ其監督ノ不充分ナルニ甘シ姑息ノ處置ニ出テ家屋ノ建築構造粗漏ニシテ汽罐汽機ニ不充分ナルモノアリテ危險ナキヲ保セス之ニ從事スル職工ノ就業程度衛生風俗ノ關係等檢束ヲ要スルモノ甚ナカラス而シテ此等ノ工場ハ全國ヲ通シテ情況同一ナルヘキニ付之ヲ區々タル各府縣ノ取締規則ニ委テ新タニ法律ヲ制定シ併セテ其監督ノ制度等ヲ更正アラシムコトヲ欲ス	法律ヲ以テ蠶種検査法ヲ設定セラレンコトヲ要ス本法按ニ就テハ曩ニ主務大臣ノ諮問ニ對シ本年七月卅一日農第九〇二號ヲ以テ答申及置候通ニシテ前項ニ掲ケタル現行規程ノ欠漏ハ舉テ本法按ニ規定セラレテアリ依テ速ニ本法ヲ設定發布セラレンコトヲ企望ス	近時無數ノ類似生命保險會社類々勃興シ其行爲往々社會ノ公安ヲ害スル少カラズ是等ニ對シテハ商法ノ規定ニ依リ解散ヲ命スルノ途アリト雖モ未タ之ヲ未然ニ防制スルノ法ナシ故ニ一定ノ取締法ヲ布クコトヲ望ム蓋シ解散ヲ命令スルカ如キハ公害ノ事實ヲ檢舉スルニ方リ頗ル困難ヲ感シ且ツ併セテ良民ニ苦痛ヲ與フルノ嫌アルヲ以テナリ	速ニ漁業法ヲ制定セサレハ漁業ノ紛議調停等漁政上困難ナルニ由ル

大分縣	德島縣	德島縣	德島縣	富山縣
同上	同上	同上	同上	同上
森林法ノ發布ヲ要ス	漁業ノ取締及保護ニ關スル件	度量衡ノ費用配付ニ關スル件	廢止ヲ要ス	○明治二十四年勅令第七十七號 第六條第二項ノ四販賣セントスル度量衡器ノ製作者修葺者又輸入者ノ住所姓名及營業所
速ニ森林法ヲ制定セサレハ森林ヲ濫伐シ繁殖保護等ヲ害スルニ由ル	漁業ノ取締及保護ニ關スル事項ハ是迄別ニ規定スル所ナク只可成從來ノ慣習ニ從ヒ處分スヘシト明治十九年中一應太政官ヨリ達セラレシノミニテ其後明治十九年農商務省令第七號ヲ以テ漁業組合ノ準則ヲ設ケラレタルモ海面ニ於ケル專用若クハ入會ノ如キ漁業上ノ紛爭常ニ斷ヘスシテ數年其局ヲ結ハサルモノ往々之アリ畢竟漁業取締保護ニ對スル大本ノ立タルト各地方廳ノ方針一致セサルトニ依ルモノナレハ更ニ漁業取締及保護ニ關スル法令ヲ發布セラレ官民俱ニ其據ル所ヲ知ラシムルヲ必要トス	明治二十四年法律第三號度量衡法中檢定及取締ハ地方長官ノ管轄トシ之ニ要スル經費ハ地方廳ノ經費ヲ以テ支辨スルコトニ定メラルモ各地方檢定取締事務ノ情況ヲ異ニシ繁閑一様ナラス其繁劇ノ地方ハ經費ニ限リアルカ爲メ檢定等常ニ遲緩ニ流レ事務ノ整理ヲ欠クノミナラス製作者ヲシテ不便ヲ感セシムル鮮少ナラサルヲ以テ度量衡ニ關スル費用ハ其地方廳ニテ檢定セシ三器ノ員數ヲ標準トシテ配付セラル、ノ制ヲ設ケラレンコトヲ望ム	度量衡器販賣ハ豫メ本文ノ認可ヲ得タル後設計外ノ製作者ノ器物ヲ販賣セントスルトキハ更ニ設計變更ノ認可ヲ得ルニアラサレハ販賣スルコトヲ得ス是等ハ執務上手數掛カラスニ付販賣者ハ何レノ製作者ヨリ輸入シテ販賣スルモ差支ナシトスルコト依テ本文ヲ削除スルヲ要ス	



宮城縣	<p>(同上)</p> <p>第六條第三項第四ニ依リ販賣セントスル度量衡器ノ製作者等ノ住所姓名等ハ第七條ニ據リ變更ノ場合ニ於テ認可ヲ受ケサルヘカラス</p>	<p>第六條第三項第四ハ削除セラレシト望ム</p>	<p>此輕微ノ事件ノ爲メ認可ヲ受クルノ手續煩雜ニ堪ヘサルニヨル</p>
長野縣	<p>(同上)</p> <p>第二條 營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ三十二年ニ檢定シ爾後五年目毎ニ之ヲ檢定スルノ規定タリ</p>	<p>第二條ヲ改正シテ明治三十二年ニ檢定スルモノハ前五年以前ニ檢定シ若クハ未タ檢定セザルモノニ限ラントス</p>	<p>營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ明治三十二年ニ檢定シ爾後五年目毎ニ檢定スルノ方法ナルモ度量衡器ニシテ五年目毎ニ檢定シテ足レリトスレハ明治三十二年ニ限リ其前一年若クハ二年三年ニ檢定ヲ受ケタルモノヲ再ヒ檢定スルノ要ナキノミナラス現行制ノ如クナレハ明治三十二年ニ於ケル檢定ハ非常ノ繁雜ヲ來スノミナラス毎五年目ニ其繁雜ヲ繰替サレハカラス加之現行ノ如クナレハ明治三十二年以前ニ於テハ使用者ハ購入ヲ見合スモノ多ク從テ製作者モ多數製作シテ檢定ヲ受ケ置カサルヘキヲ以テ該年ニ至リ檢定非常ニ増加シ當局者及製作者ノ繁忙豫想ノ外ニ出ツルノミナラス供給ハ需要ヲ充スコト能ハサルノ虞アリ故ニ第二條ヲ改正シテ左ノ如クナシ其煩雜ヲ防止セントス</p> <p>第二條 營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ明治三十二年以後ハ檢定ヲ受ケタル年ヨリ五年目毎ニ之ヲ檢定ス但明治三十二年以前ニ檢定ヲ受ケ五年ヲ經過シ若クハ未タ檢定ヲ受ケサルモノハ總テ明治三十二年ニ檢定ス</p>
鹿兒島縣	<p>(同上)</p> <p>度量衡器ノ制限製作修覆及販賣免許並檢定規則第九條</p>	<p>定期檢定ニ限リ檢定料ヲ徵收セザルコトヲ要ス</p>	<p>定期檢定ニ於テ檢定ヲ受ケル度量衡器ハ檢定料ヲ納ムルノ手數アルヲ以テ受驗者ノ數ヲ減シ爲メニ犯則者ヲ生スルノミナラス現在使用シツベアル器物ヲ差出サシムルハ強制的ニ屬スルヲ以テ之レカ檢定料ヲ徵收セザルコト適當トス</p>
鹿兒島縣	<p>(同上)</p>	<p>販賣身元保證金額百圓ヲ五十圓ニ改ム</p>	<p>定期檢定ニ於テ檢定ヲ受ケル度量衡器ハ檢定料ヲ納ムルノ手數アルヲ以テ受驗者ノ數ヲ減シ爲メニ犯則者ヲ生スルノミナラス現在使用シツベアル器物ヲ差出サシムルハ強制的ニ屬スルヲ以テ之レカ檢定料ヲ徵收セザルコト適當トス</p>

鹿兒島縣	<p>度量衡器販賣ノ身元保證金第十一條</p>	<p>上欄中度量衡器ノ販賣ヲ出願スル者ニ限リ設計書第二項及第四項中製作者及修覆者ヲ削除</p>	<p>減スルハ營業者ヲ容易ナラシメ且需用者ノ便又改良器物普及計リ地方取締上ニ關シ將來ノ煩ヲ省クニ至ルヘシ</p>
群馬縣	<p>(同上)</p> <p>第六條 度量衡器ノ販賣ヲ出願スルモノ及製作者ニシテ販賣ヲ兼ヌルモノハ營業ノ設計書(一)販賣所ノ位置及構造(二)販賣セントスル度量衡器ノ種類形狀及物質(三)資本金(四)販賣セントスル度量衡器ノ製作者修覆者又ハ輸入者住所氏名及營業所ヲ添へ出願スルヲ</p>	<p>度量衡販賣ハ既ニ檢定済ノ度量衡ヲ販賣スルモノニシテ其製作者修覆者又ハ輸入者ノ住所姓名ノ如キハ一々農商務大臣ノ認可ヲ受クルノ必要ヲ見ス仍テ第六條第四項ハ廢止セラレシト望ム然レモ若シ取締購買先又ハ輸入者ヲ調査シ置クノ必要アラハ單ニ届出ルノミニ止メラレタシ</p>	<p>販賣ノ許可ヲ得タル者ハ各器全体ヲ販賣シ得ル者ナルヲ以テ別ニ種類形狀及物質ヲ限ルノ必要ナシ○販賣セントスル器物ハ檢定ヲ經タルモノナレハ何人ノ製作修覆品ニテモ差支ナキノナルヲ以テ設計ノ許可ヲ受ケル必要ナシ○此二項ヲ廢止スルトキハ第七條(度量衡器ノ製作修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者其營業ノ設計ヲ變更セントスルトキハ)地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシニ於テ大ニ事務ヲ省略スルヲ得何トナレハ販賣者ニシテ設計ノ變更ヲ願出ルモノハ殆ント第四項ナラサルモノナキカ故ナリ</p>
京都府	<p>(同上)</p> <p>第六條</p>	<p>度量衡販賣ハ既ニ檢定済ノ度量衡ヲ販賣スルモノニシテ其製作者修覆者又ハ輸入者ノ住所姓名ノ如キハ一々農商務大臣ノ認可ヲ受クルノ必要ヲ見ス仍テ第六條第四項ハ廢止セラレシト望ム然レモ若シ取締購買先又ハ輸入者ヲ調査シ置クノ必要アラハ單ニ届出ルノミニ止メラレタシ</p>	<p>本規定アルカ爲メ販賣者ニ於テ其購入先又ハ修覆者ヲ變更スル毎ニ一々農商務大臣ノ認可ヲ願出ルヲ以テ地方廳農商務省ニ於テ非常ニ繁雜ヲ極ムルノミナラス營業者ニ在テモ其間多數ノ日子ヲ徒費シ官民ノ不便繁雜容易ナラス然レモ本件ハ上段述フル所ノ如ク既ニ檢定済ノ度量衡器ヲ販賣スルモノナレハ別ニ危險ノ憂ナシ依テ相當ノ改正ヲ望ム</p>
愛媛縣	<p>明治廿三年十一月勅令第二百七十五號</p> <p>官有財産管理規則第十二條ニ關スル官有地ノ讓與ハ農商務省所管ニ限リ一々經伺ヲ要ス</p>	<p>内務省所管ト同様農商務省ノ分モ府縣ニ委任セラレシコトヲ要ス</p>	<p>本件讓與處分ハ内務省所管ハ明治廿四年七月内務省訓令第十四號第一條第九號ニヨリ既ニ府縣ニ委任セラレ依テ農商務省ノ分モ事務ノ簡捷ヲ計リ府縣ニ委任セラレシコトヲ望ム</p>
長崎縣	<p>明治二十七年勅令第八十七號</p> <p>府縣農事試驗場職員</p> <p>○十六年農商務省達第八號</p>	<p>第一條改正ヲ要ス</p>	<p>第一條場長ノ次ニ技師ヲ加ヘラレタシ(置クコトヲ得)</p> <p>本布達ニ依ル勸業委員ノ設置ハ素ヨリ隨意ニ屬スト雖</p>



福島縣	福島縣	福島縣	福島縣
(同上)	(同上)	蠶種検査員給料諸費國庫支辨	蠶種検査員給料其他諸費地方費支辨ニ改正ヲ要ス
蠶種既成検査ニシテ改良上欠漏アリ	蠶種検査員給料其他諸費地方費支辨ニ改正ヲ要ス	製絲用原種ヲモ検査シタシ	蠶種検査規則ハ既ニ蠶種トナリタルモノヲ検査スルモノニシテ蠶種掃立ヨリ養蠶期及收購ニ至ルマテノ間ニ於テ臨検スルノ期定ナク又原種ハ框製ニ限ルノ規定モナク製絲用種ノ検査ハ無期限延期中ナレハ假令二三ノ府縣ニ於テ主務省經何ノ上府縣令ヲ以テ製絲用蠶種ヲ施行スルモ其効力他府縣ニマテ聯通セズ隨テ之ヲ買買スルニ當リ甲乙府縣重複ニ検査ヲ施行シ當業者ニ煩累ヲ與フルコト少ナカラス
現行法ニ於テハ農商務大臣ノ許可ヲ受ケ組合ヲ設クルノ規定ナレハ本件ハ一縣内ニ於テ其組合ヲ設クルモノナレハ之ヲ地方長官ニ一任スルコトニ改正セントスルニ由ル	現行法ニ於テハ製絲用原種検査ハ當分延期シアルモノ之ヲ検査スルノ必要アルヲ以テ速ニ其規程ヲ發令セラレシコトヲ要スルニ由ル	皮疽鼻疽ノ如キ決シテ忽ニスヘカラサルモノナレハ罹病ノ都度之ヲ告示シ若クハ隣府縣ニ通知スルモ其効甚タ少シ故ニ月計ヲ告示シテ之ニ換ヘントス	検査員給料旅費ハ本廳定額内ヲ以テ支辨シ來リシモ雇員ハ年額僅カニ千三百餘圓ノ内ヲ以テ到底之ニ應スル能ハス旅費モ亦然リ縣下ノ如キハ蠶種ノ産出多額ニシテ年々増加ノ傾向ナルモ費用不足ノ爲メ充分ノ検査ヲ爲ス能ハサルノ憾ナキニアラス尤本件ハ鹿製販賣ヲ防クノ旨趣ニシテ一般飼育者ノ保護ニ出ツルモノナルヲ以テ地方稅負擔ハ當然ノ事ナリトス依テ右省令ニ起因スル諸費ト地方勸業費ヲ以テ支辨スヘシトノ規則ヲ發付セラレシコトヲ望ム
每土曜日之ヲ報告スル必要ナキヲ以テ一ヶ月一回トス	每土曜日之ヲ報告スル必要ナキヲ以テ一ヶ月一回トス	每土曜日之ヲ報告スル必要ナキヲ以テ一ヶ月一回トス	每土曜日之ヲ報告スル必要ナキヲ以テ一ヶ月一回トス

神奈川縣	鹿兒島縣	富山縣	熊本縣	兵庫縣	石川縣
○二十年省令第四號 茶業組合規則 第四條 郡區ノ狀況ニ依リ組合規約ヲ設ケンストキ農商務大臣ノ許可ヲ受クル件	○二十四年省令第十一號 度量衡法施行規則第三十七條	○二十六年省令第十一號 第二條第三項每事業年度ノ計算書財產目錄貸借對照表等ヲ農商務大臣ニ報告ス	(同上)	同上及商法第六十八條第一項株式會社ノ發起認可申請書ニハ營業許可書ノ謄本ヲ添付セシム	○二十六年省令第十三號 第十一條 取引所仲買人ノ免許ヲ得ントスル者ハ農商務大臣ニ差出スヘシ廢業シタルトキハ届出ヘシ
第四條中農商務大臣トアルヲ地方長官ニ改メタシ	通貨若クハ公債證書ノ外土地代用ノ規定ヲ要ス	報告期日及ヒ其報告表雛形ヲ定メ且其報告ヲ怠ル者ニ對シテハ相當ノ制裁ヲ付セラレタシ	事業年度ノ計算書、財產目錄、貸借對照表等ノ準式ヲ示ス	各省ノ主管ニ屬スル營業許可ヲ要スル件ハ甲乙兩大臣宛ニ發起願ヲ差出サシメ其以外ニ屬スルモノハ府縣知事ニ於テ自己ノ職權ニ依ルモノハ直チニ其職權以外ノモノハ關係官廳ニ照合シテ豫メ許可ニ關スル意見ヲ付シ進達スル	取引所仲買人ノ免許並廢業ニ關スル件ハ地方廳ニ於テ處分スルコト
現行法ニ於テハ農商務大臣ノ許可ヲ受ケ組合ヲ設クルノ規定ナレハ本件ハ一縣内ニ於テ其組合ヲ設クルモノナレハ之ヲ地方長官ニ一任スルコトニ改正セントスルニ由ル	僻邑又ハ商業ノ傍ニ於テ度量衡器ノ營業ヲナサント欲スルモノハ不動産アルモ通貨及公債證書ヲ有セサルモノアリ依テ土地代用ノ項ヲ加ヘントス	期限及ヒ雛形ナキ爲メ事業年度ヲ過クル數ヶ月ニ及ヒ報告ナク事務ノ滯滞甚シ一ハ其雛形ナキト一ハ其制裁ナキヲ以テ斯ク緩慢ニ付スモノナラン	會社ノ營業ハ其種類區々ニ涉リ一徹ノ書式ニ依ラシムルハ望テ能ハサル所ナルモ豫メ表準ヲ示シ置カハ獨リ當業者ニ便益ヲ得セシムルノミナラス其準シ得ル限リ之レニ準スルコトスレハ其大体ニ於テハ大差ナカルヘシ調査ノ便モ尠カラスト認ム	會社ノ許可未タ判明セサルニ方リ營業許可ヲ願出サシムルヨリ事口其免許ヲ一個人ノ名義ヲ以テ得會社設立後之ヲ會社ニ讓渡スノ契約書謄本ヲ添付セシムルヲ要スルカ如ク其手續ノ繁雜ナル延テ之ニ關スル事務ノ敏活ヲ妨クルコト少カラス依テ上記ノ如ク改メントス	同 上
每土曜日之ヲ報告スル必要ナキヲ以テ一ヶ月一回トス	每土曜日之ヲ報告スル必要ナキヲ以テ一ヶ月一回トス	每土曜日之ヲ報告スル必要ナキヲ以テ一ヶ月一回トス	每土曜日之ヲ報告スル必要ナキヲ以テ一ヶ月一回トス	每土曜日之ヲ報告スル必要ナキヲ以テ一ヶ月一回トス	每土曜日之ヲ報告スル必要ナキヲ以テ一ヶ月一回トス

三重縣	石川縣	山梨縣	鹿兒島縣	島根縣	長崎縣	廣島縣	廣島縣
取引所ヨリ主務大臣へ差出ス文書ハ地方長官ヲ經由シ地方長官ハ意見書ヲ附スルヲ要ス	(同上)	○私設鐵道條例 軌道條例 株式會社發起認可申請手續 電氣事業取締規則	○二十七年省令第七號 砂鑛採取法施行細則第三條	○二十七年省令第八號 農事講習所規程 第六條 地方長官ニ於テ農事講習所ヲ設立シ若クハ補助セントストキハ講習所規則各種ノ豫定設備及經費概算額ヲ具シ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ	第七條 農事講習所ヲ設立シ若クハ補助シタルトキハ左ノ事項ヲ農商務大臣ニ届出ツル 但シ第二項ハ毎年三月マテニ其他ハ變更ノ都度	農事講習所ヲ設立シ若クハ補助シタルトキハ其名稱位置規則經費豫算ヲ具シ農商務大臣ニ届出ツヘキコトニ改正スルヲ要ス	農事講習所及傳習所ノ如キハ永久常設ノモノ、ミニ限ラス一週乃至三週ニ止マルモノアリ然ルニ現規程ニヨレハ一々許可ヲ請ハサルヲ得ス而シテ其設備ニ關スル標準ハ各條ニ於テ規定アレハ之ヲ地方長官ノ處分ニ委シ其繁雜ヲ省クニアリ
ヲ削除シ同項中「差出スヘシ」ノ下へ「且意見アルトキハ添付スヘシ」ト追加ス	株式會社ノ發起及設立願ヲ合シテ一願件トスヘキコト	同上	同上	第六條削除ヲ要ス	同上	同上	同上
キ件ニモ意見書添付セザルヲ得サルノ煩ヲ免レサルニ依ル	同上	現行法ニ依レハ先ツ内務省ノ免許狀ヲ得而後遞信省ノ認可ヲ得而後農商務省ニ申請スルノ順序ナルヲ以テ時日ヲ要スルヲ大也故ニ發起者ヨリ各省ニ出願ノ要領ヲ具備シタル願書設計會社目論見定款等ヲ一括シ各省運署宛ニテ二通若クハ三通呈出セシメ各省限リ主管事項ヲ調査シ若クハ各省協議シ出願事項中修正ヲ要スル件ハ主管毎ニ願人ニ垂示シ許否共ニ一時ニ檢定スルコト改ムレハ繁文ヲ省キ勸業上大ナル利益ナリ	同上	改正欄ニ記載シタル事項ノ外届出ヲ要セスト認ム又毎年ノ經費ハ明治廿七年五月農商務省訓令第十七號農商務統計報告規程第三條ニ依リ毎年報告スル勸業費ノ内ニ包含スルコトニ相成リタシ	同上	同上	同上

岩手縣	滋賀縣	廣島縣	山口縣	長崎縣	廣島縣	廣島縣	
○明治二十年農商務省訓令第二號	(同上)	○明治十九年農商務省訓令第十四號 蠶種検査規則取扱手續 第五項 蠶種検査員ノ氏名履歷ヲ農商務省ニ届出ツル	一 名稱、位置 二 經費ノ種別及其豫算額 三 設備ノ種別、數、面積 四 建物ノ種別、坪數 五 職員ノ履歷教師擔任科目 ○二十八年省令第十四號 漁業上ニ關スル命令經同ノ件 同省令及二十六年農工兩局長通知丙第二五一號 農商工業及水産動物ノ蕃殖等ニ關スル組合取締規則又ハ命令ヲ其發布前農商務大臣ニ稟議スルノ件	○二十八省令第十四號 漁業上ニ關スル命令經同ノ件	農商工業ニ關シ取締規則又ハ水産動物ノ蕃殖ニ係ル命令ヲ其發布前農商務大臣ニ稟議又ハ經同ノ上施行スルトキハ單ニ時日ヲ費スノミナラス必要ニ際シ發布ノ時機ヲ失シ爲メニ實施期日ヲ遅延スル等ノ憾ナシトセ且ツ既ニ發布セル規則命令等ノ改正又ハ其廢止等亦總テ稟議ヲ經サルヘカラサルモ從來ノ經驗ニヨレハ改訂追加ノ場合ハ實地ノ急施ヲ要スルコト多クシテ稟議等手續ノ爲メ往々支障ヲ生スルコト多クナカラス府縣知事ハ是等ノ事ニ關シ其準備スヘキ所ヲ守リ慎重ニ事ニ從フヘキハ當然ナルカ故ニ將來稟議又ハ經同ノ手續ヲ省キ發布後ニ於テ報告スルコトニ改正セラレハ至ラハ其効多クシテ且ツ繁文ヲ省略スルヲ得ヘシ 届出ノ必要ナカルヘキニ付省略セラレタシ	農商工業ニ關シ取締規則又ハ水産動物ノ蕃殖ニ係ル命令ヲ其發布前農商務大臣ニ稟議又ハ經同ノ上施行スルトキハ單ニ時日ヲ費スノミナラス必要ニ際シ發布ノ時機ヲ失シ爲メニ實施期日ヲ遅延スル等ノ憾ナシトセ且ツ既ニ發布セル規則命令等ノ改正又ハ其廢止等亦總テ稟議ヲ經サルヘカラサルモ從來ノ經驗ニヨレハ改訂追加ノ場合ハ實地ノ急施ヲ要スルコト多クシテ稟議等手續ノ爲メ往々支障ヲ生スルコト多クナカラス府縣知事ハ是等ノ事ニ關シ其準備スヘキ所ヲ守リ慎重ニ事ニ從フヘキハ當然ナルカ故ニ將來稟議又ハ經同ノ手續ヲ省キ發布後ニ於テ報告スルコトニ改正セラレハ至ラハ其効多クシテ且ツ繁文ヲ省略スルヲ得ヘシ 届出ノ必要ナカルヘキニ付省略セラレタシ	農商工業ニ關シ取締規則又ハ水産動物ノ蕃殖ニ係ル命令ヲ其發布前農商務大臣ニ稟議又ハ經同ノ上施行スルトキハ單ニ時日ヲ費スノミナラス必要ニ際シ發布ノ時機ヲ失シ爲メニ實施期日ヲ遅延スル等ノ憾ナシトセ且ツ既ニ發布セル規則命令等ノ改正又ハ其廢止等亦總テ稟議ヲ經サルヘカラサルモ從來ノ經驗ニヨレハ改訂追加ノ場合ハ實地ノ急施ヲ要スルコト多クシテ稟議等手續ノ爲メ往々支障ヲ生スルコト多クナカラス府縣知事ハ是等ノ事ニ關シ其準備スヘキ所ヲ守リ慎重ニ事ニ從フヘキハ當然ナルカ故ニ將來稟議又ハ經同ノ手續ヲ省キ發布後ニ於テ報告スルコトニ改正セラレハ至ラハ其効多クシテ且ツ繁文ヲ省略スルヲ得ヘシ 届出ノ必要ナカルヘキニ付省略セラレタシ
廢止	廢止	廢止	稟議ヲ報告ニ改メタシ	廢止スルヲ要ス	廢止	廢止	
本項ハ二十六年同省訓令第一號ノ山林原野事項報告ト其旨趣同一ニシテ重複ニ報告スルノミナラス税外收入	検査員任用方ニ就テハ特ニ内訓モアリ例令内訓ナシト雖成ルヘク蠶業ニ熟達セルモノヲ選ムハ勿論ナレハ年々之カ履歷書ヲ添へ届出ツルノ必要ナシト思考ス	同上	同上	同上	同上	同上	

鳥取縣	宮崎縣	鹿兒島縣	滋賀縣	群馬縣	官有山野ニ屬スル收入皆濟表
(同上) 開墾若クハ牧畜ノ爲メ反別五町歩以上豫約拂下ノ官有原野事業成功ノ上拂下クル件	(同上) 官有地原野ヲ豫約ノ方法ニテ開墾牧畜ノ爲メ賣拂方法	○明治二十三年農商務省訓令第三十四號 第二條 隨意契約ヲ以テ原野ヲ賣渡スノ件	○明治廿一年農商務省訓令第八號 勸業諮問會及勸業委員其他諸費豫算決定額屆	同上 官有山野ニ屬スル收入調	
縣限處分方委任セララル、ヲ要ス	原野ノ反別五十町歩以下ニシテ其地上ノ產物見積代價百圓ト改ム	五町歩ヲ十町歩ト改ム	廢止	廢止	
豫約拂下處分ノ其土地ヲ檢査シタル後許可シタルモノニ付實地ノ成功ヲ認メタル上ハ開墾者若クハ牧畜者ハ拂下クルハ既ニ契約ノモノニ付縣限ノ處分ニ屬セラレタキニ由ル	開墾又ハ牧畜ノ爲メ官有原野ノ豫約拂下ヲ出願スルモノアルトキハ上部欄内ノ訓令ニヨリ五町歩以上ノ反別其地上ノ產物見積代價三十圓以上ナルトキハ一々稟議ヲ要スヘキ事トナレリ其手數ニシテ事ノ敏捷ニ運ハサル甚シキヲ覺ユルニ由ル從來ノ例ニ依レハ一事件ノ處分ニシテ長キハ一ケ年短キモ三四ケ月内ニ事務ヲ完了スルコトナシ	原野ノ反別ハ概測ヲ以テ定メタルモノナルカ故ニ之ヲ實測セハ殆ント五倍乃至十倍ニ及フモノ多クアリ臺帳面小畝歩ノ土地ヲ本則ニ基キ實測シテ出願セシモノ其多キハ皆五町歩以上ナリトス加之本條ノ明文其出願ノ反別トアルヲ以テ假令一筆五町歩以下ノ反別ナリトスルモ若シ數筆又ハ數十筆ノ開墾ヲ企圖スルモノアレハ忽チ五町歩ヲ超過スルニ至ル如斯多數ノ出願アルニ方リ一々主務大臣ノ指揮ヲ受クルハ其煩ニ堪ヘス依テ範圍ヲ擴メントス	勸業諮問會費ハ通常地方稅ヨリ支辨ス去レハ勸業費ハ別ニ報告スヘキ規程アルヲ以テ本訓令ニヨリ別ニ届出ルノ必要ナク又勸業委員ニ係ル費用ハ前項ノ理由ニ由ル	ハ大藏省ノ主管ニヨリ決算ノ如キハ皆同省ニ報告シアルヲ以テ本表調製ノ必要ヲ認メサルニ由ル	明治二十七年山林局長通牒第五七號山林原野事項報告例ニ依リ提出スル報告書ニ掲載アル事項ニシテ重複報告ニ係ルモノナルニ由ル

茨城縣	群馬縣	其出願ニ係ル原野反別五町歩以下トアルヲ十町歩以下ト改ム	五町歩ヲ少クモ五十町歩トシ三十圓ヲ三百圓ト改ム	本條ノ改正ヲ要スルハ開墾事業ニ供スル面積ヲ制限シテ御委任相成候ヨリ其範圍外ニ屬スル面積多クシテ之カ稟申候節ハ願書及附屬ノ圖面ハ總テ正副兩本ヲ爲差出又ハ謄本ヲ製シテ進達スル等容易ナラサル手數ニ涉リ且事業上着手ノ時機ヲ失シ願人ノ不便掛ナカラサルニ付斯ク專決ノ面積ヲ大ニスル時ハ右等不便不利ヲ省略スルノミナラス經費ノ節減ヲ生スヘキニ由ル
(同上)	(同上)			農商務省主管ニ係ル土地ノ處分ニ付府縣限リ專決執行スルヲ得ル事項ハ明治二十三年同省訓令第三十四號第二條及同廿四年同省訓令第十號ヲ以テ定メラレタレハ其權域甚タ狹隘ニシテ該處分ニ付テハ稟議ヲ要スルモノ極メテ頻繁ニ屬シ地圖ノ調製其他書類ノ淨寫等手數ヲ要スルモノ頗ル多シ爲メニ縣廳ノ調査結了スルモ主務省稟議ノ爲メニ要スル圖書類ノ調製方ニ數多ノ日子ヲ費シ且主務省ニ於テモ亦相當調査ノ爲メ若干ノ日子ヲ要シ實際處分方自然遷延ニ涉ルハ毎ニ免レサル所ニ有之特ニ本縣ノ如キハ官有地ノ反別並筆數最モ多ク隨テ之レカ處分ヲ要スルモノ亦甚タ少ナカラス今茲ニ其實況ヲ述ヘンニ本年二月小官 赴任ノ當時ニ在テ既往五六年前以降拂下又ハ貸下ノ出願ニシテ種々ノ事故ニ因リ處分未済ノ筆數無慮一萬餘筆ノ多キニ及ヘルヲ觀ル爾來之レカ整理ニ深ク意ヲ注キ特ニ貴省ニ稟議シテ內務部ニ第六課ヲ別置シテ該事務ノ整理ニ當ラシメ且實地檢査ニ要スル旅費ノ増額ヲモ仰キ專ラ整理中ナレハ土地ニ關スル處分ハ逐一實地ニ就キ調査ノ上適法ノ處置ヲ要スルモノナレハ亦僅少ノ年月ヲ以テ容易ニ整理ヲ了シ得ヘキニアラス然ルニ是等整理ヲ要スルモノ、内多クハ前陳訓令ノ府縣專決執行ノ範圍外ニ涉リ稟議ヲ要スルモノニ係リ其手數ノ繁煩ナル知ル可キナリ隨テ仍ホ處分ノ遷延ニ涉ルモノ多キヲ免レサルモ亦已ムヲ得サルニ至ル令ヤ地方行政事務ノ整理ヲ圖リ處務簡

群馬縣	同上訓令 第九條ノ次へ下ノ一條ヲ新設スルヲ要ス	第十條 賣渡豫約人ノ變更及豫約代價ヲ以テ其豫約人へノ賣渡ハ專決スヘシ	提ノ方法ヲ講スルニ際リテハ土地處分方ノ如キハ法令ニ從ヒ可成の府縣限專決執行セシムルノ方針ヲ以テ厚ク調査アラシムコトヲ冀望ス
奈良縣	○明治二十四年農商務省訓令第三號 博覽會、共進會其他之ニ類似ノ會ニシテ褒賞ヲ附與スルモノヲ開設シタル場合ニ於テ主務大臣ニ報告ノ件	二府縣以上ノ聯合開設スル場合ノ外ハ報告セサルコト、シ官報局ニノミ報告スルコト	本條ノ追加ヲ要スルハ賣渡豫約人死亡其他ノ事故ニ依リ豫約人ノ變更處分ノ如キハ物件ニ對スル處分ト異リ事輕易ニ屬スルヲ以テ敢テ稟申ノ要ナカルヘシ又豫約地ノ賣渡ノ如キハ當初豫約設定ノ際稟申シテ處分セルカ故ニ其契約ノ履行ニ止マルモノナレハ是亦稟申スルノ要ナカラン故ニ專決ノ御委任相成候片ハ同手續ノ煩キ省略スヘキニヨル
廣島縣	(同上) 共進會博覽會等ニ關スル報告	一府縣以上ノ施設ニ係ルモノヲ報告スルニ止ムルヲ要ス 年報ニ改正スルヲ要ス	博覽會共進會其他之ニ類似ノ會ヲ開設シ褒賞ヲ附與スルトキハ其都度本省へ報告ヲ要スル規程ナリト雖モ本縣ノ如キ農工商ノ發達ヲ期スル爲メ其獎勵ノ方法トシテ農産物共進會種苗交換會品評會又ハ耕作共進會等諸種ノ會ヲ開設セシメツ、アルノ實況ニシテ開會ノ都度一々報告スルカ如キ繁ニ涉ルヲ以テ二府縣以上ノ聯合開設スル場合ニ於テハ主務大臣ニ報告スルコト、シ其他ノモノハ報告セサルコトニ改メラレ官報局ニノミ報告センコトヲ望ム
滋賀縣	(同上) 地方博覽會共進會品評會等報告	年報ニ改正スルヲ要ス	郡市町村等區域狹小ノ施設ニ係ル小規模ノモノハ報告ノ要ナカルヘシ
京都府	博覽會其他類似ノ會ニシテ褒賞ヲ付與スルモノノ開設シタルハ閉會後其都度々々三十日ヲ限リ	本件ハ事ノ大小ヲ問ハス毎會報告スヘシトアレトモ一府縣以上ノ聯合或ハ一市一國ニ涉ル外ノ小會ハ必要ノ項目ヲ定メ之レヲ一ヶ年ニ統	本件ノ報告ハ毎年増加シ廿六年ハ七十六回廿七年ハ九十回廿八年ハ百十回以上ノ多數ニ上リ頗ル繁雜ヲ極ム加之其項目多キヲ以テ却テ其要領ヲ失フノ感アリ故ニ

宮崎縣

報告スヘシ  
○明治廿四年農商務省訓令第十號  
官有山林原野處分委任ノ件  
第三項  
第六項  
第八項  
第九項  
第十項  
第十二項  
(新設)

計シ報告スルコトニ改正ヲ望ム  
但書  
五年ヲ十ヶ年ト改ム  
「非常ノ際治水ノ爲メ」ヲ「天災事變ニ際シ公益ノ爲メ」ト改ム  
但書「五ヶ年ヲ」十ヶ年」ト改ム  
刪 除  
五十圓ヲ百圓ト改ム  
一反歩ヲ十町步、十圓ヲ百圓ト改ム  
右ニ改正ノ外尙左ノ諸件ヲモ府縣知事ニ委任ス  
一官有堤塘並木敷港灣河川溝渠溜池用惡水路等ノ新設修繕ニ際シ官有森林原野ヲ其敷地ニ充用スル事  
一官有森林原野貸渡ノ事  
一府縣ニ於テ豫約代價ヲ以テ開墾牧畜既成ノ土地ヲ賣拂ノ事  
一官有森林原野ニ於ケル産物代價百圓以下ノモノ賣拂ノ事  
一落地ヲ官有ニ編入スル事  
一官有財産管理規則第十二條ニヨリ十町步以下ノ森林原野ヲ讓與スル事  
五ヶ年ヲ十ヶ年ト改ム  
五ヶ年ヲ十ヶ年ト改ム

今其必要トスル項目ヲ定メ一郡以下一小部ニ於テ開設スル小會ハ之レヲ一ヶ年ニ統計シ報告スル事簡ニシテ其要ヲ得ン乎  
官有森林原野ノ處分ヲ從來府縣知事ニ委任セラル、ヤ其權限區域甚タ狹隘ニシテ處分上頗ル敏捷ヲ欠クノ恐アリ從前ノ例ハ前欄ニ述ヘタルカ如シ

鹿兒島縣

第三項  
第八項

五ヶ年ヲ十ヶ年ト改ム  
五ヶ年ヲ十ヶ年ト改ム

以上三項ハ範圍ヲ擴メ但書中十八字ヲ削リタルハ其必要ヲ認メサルニ依ル

百三

佐賀縣	愛媛縣	福岡縣	福岡縣	
(新設)	第一項	(新設)	第三項 第八項 第九項 第十項 第十二項	第九項 第十項 第十一項 第十三項
官有原野五町歩以上豫約開墾拂下地ノ際本省へ伺濟ノモノ期限内ニ成功シタル地所下渡ノ	本件ハ郡長ニ分任シ得ルコトニ改正ヲ要ス	道路堤塘又ハ公共ノ溜池水道開墾改修ノタメ官有山林原野内ニ於テ價地ヲ要スル地目組換方委任ヲ要ス	五ヶ年ヲ十ヶ年トス 同前 同前 同前	五町歩トアルヲ十町歩五十圓トアルヲ百圓ニ改メ但書數區域以下十八字ヲ削リ五ヶ年トアルヲ十ヶ年ト改ム ニ於テノ下ニ「小學校敷地及其植林地」ノ字ヲ加ヘ反別一町歩以下ノ七字ヲ削リ猶但書ヲ削除ス 但書五年ヲ十ヶ年ト改ム 官有山林原野ノ民有地又ハ河川道路等ニ介在セルモノヲ賣却ノ件(改正)
際ハ該土地ハ開墾セシメ支障ナク且ツ拂下代金モ相當ニテ願ノ通開墾成功ヲ爲スニ於テハ民有ニ下渡スヘキコトヲ豫約シタルモノナレハ成功地下渡方ヲ再ヒ本省へ伺出ツヘキ必要ナキト認ムルニ由ル	官林ニ準シ大林區署ノ意見ヲ聞クニ止メ處務ノ敏活ヲ計ラントスルニ在リ	官有原野五町歩以上開墾拂下地本省へ伺濟ノモノ期限内ニ成功シタル地所縣限下渡差支ナキハ當分伺指令ノ	此改正ヲ要スルハ委任ノ範圍ヲ擴メ主省へ經伺ノ手續ヲ省カントスルニ由ル但接續地主ヘノ文字ヲ削ラントスルハ前項ニ掲クル官有森林原野及產物特別處分規則中ニ改正ヲ加ヘントスル結果ニ外ナラス	現行法ハ避病院敷地ニ限レルモ小學校敷地及學林地ノ如キ共ニ公共事業ニシテ敢テ避病院敷地ト異ナルコトナシ故ニ其追加ノ必要ヲ認ム反別及年期ノ制限ヲ削リタルハ委任ノ範圍ヲ擴メントス 委任ノ範圍ヲ擴メントス 本項ノ改正ヲ要スルハ特別處分規則改正ノ結果ナルト其反別及代金ノ制限ヲ削リタルハ十町歩以下ノ原野ハ到底國有トシテ存置スルノ必要ナキモノト認ムルヲ以テ全然委任ヲ可トスルニ由ル

新潟縣	鹿兒島縣	東京府	廣島縣	
委任條件全体ニ對スル意見	(新設)	(新設)	第十二項	
内務省ト共ニ其範圍ヲ充分ニシ委任セラレタシ	二十四年農商務省訓令第十號ニ左ノ一項ヲ加フ 一見積代價五十圓ヲ超ヘサル官有山林原野ノ立竹木賣却ノ件	第十二項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加スル事(府縣郡市町村ノ公共道路河川堤塘溝渠等ノ用ニ供スル爲メ官有山林原野ヲ其敷地ニ組替ル事)	官有山林原野一町歩以内ニシテ代金百圓以下ノ個所民有地又ハ河川道路等ニ介在セルモノ接續地主ヘ賣却ノ件ト改正スルヲ要ス 官有山林原野ヲ公共ノ用ニ供スル道路堤塘河川溝渠敷地ニ組替處分ノ件ヲ追加スルヲ要ス	件ヲ追加ス
同一ナル官有地處分ニシテ其主務省ヲ異ニスルカ爲メ甚シキ程度アルハ官地處分上徒ニ經伺ノ手續ヲ増スモノトス依テ其分任セラレ得ヘキモノハ各省共ニ其範圍ヲ充分ニシ處務簡捷ヲ得ル様改正セラレタシ	官有山林原野ニ於テ季節アル產物賣却ニ就テハ委任アルモ其他ノ立木竹ノ處分委任ナシ故ニ僅少ノ立竹木賣却モノ々稟請ノ煩アルヲ以テ追加ノ必要ヲ認ム	道路河川堤塘等ヲ新設改修スルニ當リ其敷地中ニ係ル官有山林原野地種組替方其時々稟申ノ手續ヲ爲スルハ時日ヲ費シ工事進捗上不便少ナカラサルヲ以テ此等ノ處分ハ委任セラレ、ヲ便宜トス	委任條件第十三項ニ官有山林原野一反歩以内ニシテ代金十圓以下ノ個所民有地又ハ河川道路等ニ介在セルモノ接續地主ヘ賣却ノ件トアルヲ本文ノ如ク改正セントスルハ要スルニ委任ノ範圍ヲ擴メ而シテ之カ經伺ノ手續ヲ省略セントスルニ由ル 公共ノ用ニ供スル爲メ官有山林原野ヲ必要トスル場合ニ於テハ總テ經伺ノ上處分スヘキモノナルヲ本文ノ如ク委任條件中ニ追加セントスルハ凡公共ノ用ニ供スル道路堤塘河川溝渠敷地ノ如キハ其工事着手上往々急ヲ要スルモノアリテ速ニ之カ處分ヲナスニアラサレハ或ハ公共事業ヲシテ滯滞ナラシムルノ憾アリ故ニ之カ處分ノ敏速ヲ期セントスルニ由ル	際ハ該土地ハ開墾セシメ支障ナク且ツ拂下代金モ相當ニテ願ノ通開墾成功ヲ爲スニ於テハ民有ニ下渡スヘキコトヲ豫約シタルモノナレハ成功地下渡方ヲ再ヒ本省へ伺出ツヘキ必要ナキト認ムルニ由ル

岩手縣	宮城縣	廣島縣	兵庫縣	群馬縣
(同上)	(同上)	(新設)	第十項 第十三項	第九項
現行ノ府縣委任條件ハ官有財産管理規則並ニ官有森林原野及產物特別處分規則等ニ依リ處分シ得ヘキモノ、範圍内ニ於テ其幾部分ツ、ヲ委任セラレアリ 將來ハ幾部分ツ、ノ委任ヲ全部ノ委任ニ改メラレンコトヲ希望ス	委任條件ヲ更正シ其制限ヲ總テ擴張セラレンコトヲ望ム	改租ノ際誤テ脫漏セル山林原野ニ反歩以下ノモノ處分ノ件ヲ追加スルヲ要ス	第十三ノ一反歩ヲ三反歩ニ十圓ヲ五十圓ニ改メ第十ヲ削除シ左ノ一項ヲ加フル事 官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲官有山林原野ヲ貸渡若クハ賣渡ス件	五町歩又貸渡料五十圓トアルヲ出願反別十町歩以下トシ又五十圓以下ノ土地貸渡ノ下ヘ其從前貸下タルモノ、繼續ヲ許可スルト改正追加ス
主務省ニ經同ノ上處分スルト府縣限リ處分スルトニ拘ハラズ責任ハ均シク府縣ニ於テ嚴守セザル可カラズ故ニ寧ロ全部ヲ委任セラレ施行細則ノ如キハ更ニ定メラル、モ其責任ヲ明カニシ其以上ヲ主務省ニ於テ監督セラレナハ主務省ニ於テモ申取取上ノ手續ヲ省キ府縣ニ於テモ繁文ヲ省キ簡捷ノ便ヲ受クルニ至ルヘシ本縣ノ如キ官有山林原野數萬町歩ノ大反別ヲ處理スル上ニ於テ其感最モ多キニ由ル	委任條件ノ範圍ヲ擴張セラル、モハ稟議ノ手續ト往復ノ時日トヲ省キ一ハ地方廳ノ處務簡捷ヲ來タシ一ハ出願人ニ便益ヲ與フルヲ得ヘシ	改租ノ際誤テ脫漏セル山林原野ノ官民有區別ハ總テ經同ノ上處分スヘキモノナルヲ右ノ内ニ反歩以下ノ處分ヲ委任條件中ニ追加セントスルハ二反歩以下即チ少畝歩ノ土地ノ如キハ之カ經同ノ手續ヲ省略シ且其處分ノ敏捷ヲ期セントスルニ由ル又二反歩ヲ限リタルハ廿年訓第三七五號訓令當分ノ内處分委任セラレタル例ニ由ル	第十三ヲ改メントスルハ委任ノ區域ヲ擴張シ經同ノ煩ヲ避ケントスルニ由ル 官廳云々ノ一項ヲ追加セントスルハ學校道路溝渠等新設變更ノ場合ニ一々經同スルノ繁ヲ省カントスルニ由ル 其第十八前記ノ一項追加ノ上ハ其内ニ包含セラル、事トナルニ依リ刪ラントス	本項ノ改正及追加ヲ要スルハ從來ノ制限面積ニテハ範圍狹小ニシテ稟申ノ件數多キニ至リ其附屬ノ圖面調製ノ手續容易ナラザルト開墾其他ノ事業實施ノ時機ヲ失シ且當初稟申許可ヲ與ヘタルモノ、繼續ノ如キハ敢テ稟申ノ手續ヲ盡サ、ルモ支障ナカルヘシ加フルニ手續

山口縣	第九項	第三項 第八項 第十一項 第九項	第十三項	第十一項	(新設)	(新設)	
樹木培養ニ供スルタメ原野貸渡年期ハ八十ヶ年ニ延長スルコト	但書中五ヶ年トアルヲ十ヶ年ト改ム	一反歩以内ニシテ賣渡代金十圓以下トアルヲ一町歩以内ニシテ賣渡代金五十圓以下ト改正ス 從來ノ慣行ニ依リトアルヲ刪除ス	第九項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十項 前項貸渡區域内ノ立木竹ニシテ代金二十圓以下ノモノ賣渡ノ件 第十二項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十四項 (第十項ヲ新設) 道路堤塘河川溝渠又ハ溜池ノ新設若クハ修繕ニ際シ官有山林原野ヲ其敷地ニ充用及同區域内ノ立木竹賣拂ノ件	第九項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十項 前項貸渡區域内ノ立木竹ニシテ代金二十圓以下ノモノ賣渡ノ件 第十二項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十四項 (第十項ヲ新設) 道路堤塘河川溝渠又ハ溜池ノ新設若クハ修繕ニ際シ官有山林原野ヲ其敷地ニ充用及同區域内ノ立木竹賣拂ノ件	第九項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十項 前項貸渡區域内ノ立木竹ニシテ代金二十圓以下ノモノ賣渡ノ件 第十二項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十四項 (第十項ヲ新設) 道路堤塘河川溝渠又ハ溜池ノ新設若クハ修繕ニ際シ官有山林原野ヲ其敷地ニ充用及同區域内ノ立木竹賣拂ノ件	第九項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十項 前項貸渡區域内ノ立木竹ニシテ代金二十圓以下ノモノ賣渡ノ件 第十二項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十四項 (第十項ヲ新設) 道路堤塘河川溝渠又ハ溜池ノ新設若クハ修繕ニ際シ官有山林原野ヲ其敷地ニ充用及同區域内ノ立木竹賣拂ノ件	
委任條件第九項但書ニヨレハ五ヶ年以内ノ年期貸渡ハ府縣ニ委任セラレアリ然ルニ樹木培養ノタメ官有原野	ノ省略ヲ來スヘキト經費ノ節減ヲ生スヘキ等ニヨル 本項ノ但書ヲ改正スルハ契約期間ノ短期ナルヨリ期明ニ際シ之カ繼續ノ願出者多キカ爲メ常ニ處分手續ノ煩懣ナカラサルニヨリ斯ク期限ヲ延長シテ貸下其他ノ契約スルハ該手續ヲ省略スヘキニヨル又代價等ニ於ケル差違ヲ來スヘキ事アリトスルモ其代價及貸附料ニ在テハ期間中ト雖モ何時ニテモ増減ヲ命スヘキ契約ヲ締結セハ自然價格ニ差違ヲ生スルモ差支ナカルヘシ	本項ノ改正ヲ要スルハ從來ノ如キ委任區域ニテハ專決以外ニ屬スルヶ所ノ賣渡事件多キカ爲メ稟申書附屬ノ圖面調製等ニ最モ手續ヲ要スルニヨリ之カ改正御委任相成候片ハ該手續ヲ省略スルノミナラス處分ノ速成且經費ノ節減ヲ來スヘキニヨル 本項中刪除ヲ要スルハ從來ノ慣行アルニ限り御委任相成タル義ニシテ其範圍狹少ナルヨリ處分上ノ便ヲ得サルニヨリ廿三年勅令第六十九號第一條第十項ニ對スル處分モ共ニ御委任相成候方執行上大ニ便宜ナルニヨル 本項ノ新設ヲ要スルハ第九項ニヨリ御委任區域ノ立木竹ニ於ケルモノ共ニ御委任相成サルヨリ專決ニ先キ立チ之カ地上ノ物件ニ對シ處分方稟申ヲ要スル等處分上ノ不便掛ナカラサルニヨル 本項ノ新設ヲ要スルハ國縣道其他ノ起業敷地ニ要スル山林原野ハ其面積ノ多寡ニ拘ハラズ總テ稟申シテ處分スヘキモノナルハ該起業上速成スルヲ得サルノミナラス主タル事業ニ附隨スヘキ事件ナルヲ以テ敢テ稟申シテ之カ處分ヲナスノ必要ナカラン故ニ御委任相成候片ハ起業速成ノ便ヲ得ヘキハ勿論稟申等ノ手續ヲ省略スヘキニヨル	第九項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十項 前項貸渡區域内ノ立木竹ニシテ代金二十圓以下ノモノ賣渡ノ件 第十二項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十四項 (第十項ヲ新設) 道路堤塘河川溝渠又ハ溜池ノ新設若クハ修繕ニ際シ官有山林原野ヲ其敷地ニ充用及同區域内ノ立木竹賣拂ノ件	第九項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十項 前項貸渡區域内ノ立木竹ニシテ代金二十圓以下ノモノ賣渡ノ件 第十二項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十四項 (第十項ヲ新設) 道路堤塘河川溝渠又ハ溜池ノ新設若クハ修繕ニ際シ官有山林原野ヲ其敷地ニ充用及同區域内ノ立木竹賣拂ノ件	第九項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十項 前項貸渡區域内ノ立木竹ニシテ代金二十圓以下ノモノ賣渡ノ件 第十二項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十四項 (第十項ヲ新設) 道路堤塘河川溝渠又ハ溜池ノ新設若クハ修繕ニ際シ官有山林原野ヲ其敷地ニ充用及同區域内ノ立木竹賣拂ノ件	第九項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十項 前項貸渡區域内ノ立木竹ニシテ代金二十圓以下ノモノ賣渡ノ件 第十二項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十四項 (第十項ヲ新設) 道路堤塘河川溝渠又ハ溜池ノ新設若クハ修繕ニ際シ官有山林原野ヲ其敷地ニ充用及同區域内ノ立木竹賣拂ノ件	第九項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十項 前項貸渡區域内ノ立木竹ニシテ代金二十圓以下ノモノ賣渡ノ件 第十二項ノ次ヘ左ノ一項ヲ新設ス 第十四項 (第十項ヲ新設) 道路堤塘河川溝渠又ハ溜池ノ新設若クハ修繕ニ際シ官有山林原野ヲ其敷地ニ充用及同區域内ノ立木竹賣拂ノ件



	<p>第十一項 土石賣却ニ際シ從來ノ慣行ニヨルノ文字削除スルコト</p>	<p>第八項 鑛業上必要ナル地所ヲ五ヶ年以内ノ年期ヲ付シ貸渡方府縣ニ委任アルヲ三十ヶ年以内ト改ムルコト</p>	<p>ノ貸渡ヲ受タルモノハ僅々五ヶ年以内ノ短期ニテハ到底其目的ヲ達スルコト能ハサルハ勿論ナルニ付五ヶ年毎ニ之レカ貸渡ノ手續ヲ爲サ、ルヲ得スレバ徒ラニ形式上ノ手續ニ涉リ事實ニ適ハス又五ヶ年以上ナルトキハ一々經同ノ繁雜ヲ免レサルニ付寧ロ此煩ヲ省ンカタメ樹木培養ニ限リ官有財産管理規則第七條第一項ノ期限即チ八十ヶ年以内ノ貸渡ハ府縣ニ委任セラレタシ委任條件第十一項ニヨレハ從來ノ慣行ニヨリ云々トアリ然ルニ本縣ノ如キ官有原野數多ナル地ニアリテハ隨テ石灰石其他土石ノ產出多ク從來ノ慣行ニヨリ拂下ツナスモノ實ニ百中ノ一二ニ止マリ多クハ其物件發見者ヨリ新ニ出願スルモノナルニ付之レカ爲メ其時々經同ノ手續ヲナスハ非常ノ煩ニ涉リ人民ノ利便ヲ欠クコト樹カラス且ツ內務省所管ニ係ル官有地土石拂下ノ取扱ニ於テハ別ニ慣行ニ依ルノ規定ナク彼此權衡ヲ失スルモノト謂フヘシ故ニ從來ノ慣行ニヨルノ文字ヲ削除セラレタシ</p>
	<p>第三項</p>	<p>季節アル生産物賣渡方府縣ニ委任ハ五ヶ年以内ノ年期ニ限ルトアルヲ十ヶ年以内ト改ムルコト</p>	<p>委任條件第八項ニヨレハ官有山林原野ニ於テ鑛業上必要ナル地所貸渡ハ五ヶ年以内ノモノニ限リ府縣ニ委任セラレタレトモ元來採掘事業ハ性質上五ヶ年以内ノ短期ニ止マラス孰レモ長期ヲ要スルモノナリ加之鑛業條例ニヨルモ該事業ニ必要ナル地所ハ起業者ハ貸渡サ、ルヲ以テ官有財産管理規則第七條第二項ノ期限即チ三十ヶ年以内ノ貸渡ハ府縣ニ委任セラレタシ</p>

<p>高知縣 (新設)</p>	<p>○明治二十四年農商務省訓令第十號 ○明治二十三年農商務省訓令第三十四號 ○明治二十四年農商務大臣內訓 ○明治二十五年山林局長通牒林第二二一五號 稟請ヲ要セス處分後報告スヘキ條件 官有森林原野豫約賣渡手續 官有原野貸渡賣渡又ハ部分木仕付等ニ關シテハ大林區署ニ協議ヲ要ス</p>	<p>官有山林原野ノ盜伐誤伐ニ係ル竹木處分ノ件ヲ追加スルヲ要ス</p>	<p>從來該件ハ時々主務大臣ニ稟請ヲ要スル例ナルモ已往ノ經歷ニヨレハ其ノ價格ノ如キモ重大ナラサルヲ以テ便宜制限ヲ設ケテ府縣知事ニ委任セラレ、ヲ望ム</p>
<p>長野縣</p>	<p>○明治二十四年農商務省訓令第十號 ○明治二十三年農商務省訓令第三十四號 ○明治二十四年農商務大臣內訓 ○明治二十五年山林局長通牒林第二二一五號 稟請ヲ要セス處分後報告スヘキ條件 官有森林原野豫約賣渡手續 官有原野貸渡賣渡又ハ部分木仕付等ニ關シテハ大林區署ニ協議ヲ要ス</p>	<p>現行ノ條件及手續ヲ廢シ一定ノ取扱若クハ處分規程ヲ設ケ府縣知事ノ職權ニ屬セシメラレシコトヲ望ム</p>	<p>現今ノ條件及手續ハ僅カニ其幾部分ノ權限ヲ委任セラレタルモノナレハ之カ處分ヲナサンニハ概テ稟請又ハ協議ヲ要スルノ順序ナルヲ以テ本縣ノ如キ廣大無數ノ原野ヲ管理セル地方ニ在リテハ其取扱上殊ニ繁雜ヲ感セリ因テ本件々ノ如キモ內務省主管ニ係ル官有土地水面ノ取扱上ニ就キ稟陳セルカ如ク山林原野貸渡賣渡並ニ使用等ニ關スル一定ノ規定ヲ設ケラレ府縣知事ヲシテ之ニ依リ一切ノ處分ヲ爲サシメラル、コトニ改正アラシコトヲ望ム</p>
<p>熊本縣 新設</p>	<p>第十二項</p>	<p>一 反歩トアルヲ三反歩トシ代金十圓以下ヲ省ク</p>	<p>本訓令ニ追加ヲ要スルノ理由ハ夫堤塘道路用惡水路溜池等ノ新設修繕ニ際シ官林及官有原野内ニ於テ其價地ヲ要スルルハ明治廿四年六月山林地理兩局長通牒戊第三七八號及同年十月山林庶務兩局長通牒陸地發第四八號ニ依リ官林内ニ係ルモノハ所轄大林區署ニ照會シ山林原野ニ屬スルモノハ從前ノ例ニ依リ農商務大臣ニ稟請シテ認可ヲ經ルノ手續タリ抑道路ノ改修其他公共溜池等ノ新設若クハ變更ニ付テハ府縣以下各公共團體ニ於テ之レカ計畫ヲナシ國道及縣道ノ改修ニ關シテハ明治十九年八月內務省訓令第十三號道路築造標準ニ依據シ特ニ內務大臣ノ認可ヲ經ルノ規定ニ屬シ該道路ノ資</p>

格上計書上當然ノ順序タルモ其他ノ道路及用器水路溜池等ノ新設變更等ニ於ケル工事ハ各公共團體ニ於テ之カ計書ヲ成シ地方廳ノ認可ヲ受クヘキ順序タリ然ルニ其工事ニシテ官林又ハ官有原野ノ潰地ヲ要スルコトアルハ官林ハ特ニ所管大林區署ニ照會シテ其ノ承認ヲ受メ官有山林原野ニ在テハ直接農商務大臣ノ認可ヲ請ハサルヘカラス多少執行上ニ付不便ヲ感スルト共ニ事務ノ整理上滯留ヲ來シ敏活ノ行動ヲ缺クコト從來取扱上ノ成跡ニ就キ歷々トシテ證スヘキモノアリ抑モ本件ノ如キ其事業ノ興廢ニ付テハ之ヲ許可スルノ權能ハ主トシテ地方廳ニ存スルモ此主要ノ事業ニ附帶スル事項ノ爲メ其權能ヲ行フニ際シ充分ノ活動ヲナス能ハサルハ事ノ輕重緩急ヨリ觀察スルモ權衡ヲ得サルニ肖タリ又願ミテ既往ノ事實ヲ徵スルモ中央政府ニ於テ未タ之ヲ認可セラレザリシコトアルヲ見サレハ將來ト雖モ亦然ラサルヲ得サルヲ信セリ因之觀是是非中央政府ニ收メ許可セラル、ノ必要モ之レナカルヘシ又縱令地方廳ニ委任決行セシメラル、モ決シテ遺漏誤脱ノ弊ナキヲ期スルハ今日知事ノ職務上責任上ヨリ見ルモ敢テ缺漏ナラサルヲ信セシムハアララス然ラハ寧ロ敏活ノ行動ヲ助ケ無用ノ交渉往復ヲ省クハ處務簡捷ヲ謀ルノ第一手段タルヲ思料セサルヘカラス因テ明治廿四年三月農商務省訓令第十號ニ本項ノ一目ヲ追加アラシコトヲ希望スルニアリ果シテ本項ヲ追加セラル、ニ至ランカ其取扱上ニ付豫メ順序ヲ定ムルハ最モ必要ノ事項タラサルヘカラス當初其潰地ヲ要スルヤ其地種地目若クハ潰地ノ反別等ヲ指定シ官林ニ付テハ其立竹木處分上準備ノ爲メ主管大林區署ヘ通牒シテ其處分ヲ促シ官有山林原野ニ屬スル分ハ工事竣功ノ上農商務省ヘ報告ノ手續ヲ了スル事トセハ彼是便宜ヲ得取扱上聊カ支障ナキヲ期スルノミナラス地方廳ニ於テハ行政上多少ノ便益アルモノト思考セリ

茨城縣

<p>第八項 地所貸渡ノ下(若クハ建築材料又ハ薪炭ヲ賣渡)ノ十四字追加ヲ要ス</p> <p>第九項 官有山林原野ノ下(二ヶ年借受料二百圓以下ノ土地貸渡ノ件但五年以上年期貸ハ此限ニアラス)ト改正ヲ要ス</p> <p>第十一項 官有山林原野ノ下(ニ於テ地元人民ニ立竹木薪炭材草秣小柴若クハ土石賣却ノ件)ト改正ヲ要ス</p> <p>第十三項 官有山林原野ノ下(十町歩以下ニシテ見積代價二百圓ニ超ヘサル箇所民有地又ハ河川道路等ニ介在セルモノノ接續地主(賣却ノ件)ト改正ヲ要ス</p> <p>(新設) 植樹ノ爲メ山林原野ヲ貸渡シ及其區域内ニ在ル產物ヲ借受人ニ賣却ノ件 追加ヲ要ス 地押調査ニ由リ發見シタル開墾地ヲ其開墾人ニ賣却ノ件 追加ヲ要ス 官有山林原野ニ於テ建築其他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其發見人ニ賣却ノ件 追加ヲ要ス 官有山林原野ニ於テ見積代價二百圓ニ超ヘサル主副產物賣却ノ件 追加ヲ要ス 官有山林原野ニ於テ海沼湖濠池ノ埋立ニ要スル土石ヲ賣却ノ件 追加ヲ要ス</p>	<p>第九項 五町歩ヲ五十町歩トシ五十圓ヲ五百圓トシ但書中又ハ以下貸渡マテノ十二字ヲ削ル事</p> <p>第十三項 一反歩ヲ五町歩トシ十圓ヲ二百圓ト改ム</p>	<p>以下追加及改正ヲ要セシハ官有森林原野及產物特別處分規則ノ範圍ニ於テ委任條件ノ區域ヲ擴メ處理簡捷ナラシメントスルニ由ル</p> <p>但書中ノ十二字ヲ削ラント欲スル所以ハ林野ノ貸渡ハ重モニ植樹ノ爲メニ出願スルモノナレハ其年期ハ數十年ノ久シキヲ要セサルヘカラス就テハ現行ノ如ク五年以上ノ年期ニシテハ逐一稟議ヲ要スル様ニテハ實ニ其煩ニ堪ヘス依テ其制限ヲ解キ府縣限リ官有財產管理規則第七條ニ規定セル年限内ニ於テ適當ノ年期ヲ定ムルコトヲ得ル様改正アラントヲ望ム</p>
--	--	--

山形縣	(新設) 豫約代價ヲ以テ開墾牧畜事業既成ノ土地ヲ賣拂フ事ノ一項ヲ追加ス	農商務省主管官有山林原野ノ小柴拂下ヲ府縣知事ニ委任セラル、ヲ要ス	追加ヲ要スル所以ハ豫約拂下地ハ廿三年農商務省訓令第三十四號ニ依リ當初豫約ノ節稟議ヲ經テ拂下差支ナキモノニ限リ許可スルモノナレハ其地成功ニ至リ之ヲ賣拂ニ當リテハ其事業ノ成否ヲ確實ニ調査シテ處分スルノ外無キナリ就テハ再ヒ拂下ノ稟議ヲ要セザルモ敢テ支障無カルヘシ既ニ內務省主管ノ土地ニ就テハ總テ是等ノ事項ハ府縣廳ニ委任シアルノ例モ有之勞專決處分條項ニ追加ヲ望ム 以上三項ニ付テハ農商務省訓令第三十四號ニ對スル意見ノ下ニ記セリ
山口縣	(新設)	官有原野公共ノ用ニ供スル營造物ノ敷地ニ組替ルコトヲ委任セラル、コト	本縣ノ如キ殆ント官有原野ヲ以テ圍繞セラレ且官有原野ニ接スル村落ノ多キ地ニ在テハ勢ヒ道路河川溝渠等ノ敷地ニ充用ヲ要スルモノ又ハ町村役場、學校、病院、溜池敷等ニ賣渡シ若クハ讓與ヲ出願スルモノ多クアルヲ以テ其時々經同ヲ要スルハ甚タ繁ニ過キ公共事業ノ發達ヲ妨クルコト甚シトセス依テ此等ノコトハ之ヲ府縣ニ委任セラレタシ
山形縣	(新設)	堤塘道路並木敷港灣河川溝渠溜池用惡水路等ノ新設修繕ニ際シ農商務主管ニ係ル官有山林原野ヲ其敷地ニ充用スル件ヲ府縣知事ニ委任セラル、ヲ要ス	內務省所管官有地ニ付テハ明治廿四年訓令第十四號ヲ以テ委任セラレタルニヨリ農商務主管ニ於テモ同ク委任セラレハ事務上ノ便少ナカラサルヘシ
石川縣	○廿四年農商務省訓令第三十五號第八條 檢定用具ノ修補引替若クハ増加ヲ要スルトキハ農商務大臣ニ請求スヘシ	度量衡檢定用具ノ修補引替若クハ増加ハ地方長官ニ於テ之ヲナスコト	地方長官ニ於テ處分スルハ處務簡捷ノ見込ニヨル

廣島縣	○廿五年農商務省訓令第十五號 探掘特許者ニアラスシテ鑛物製煉業ニ従事スルモノ、報告及行業明細表取纏メ差出ノ件	廢止	訓令第十五號ヲ廢止セントスルハ既ニ鑛業人ニ於テ燒鑛スルモノ、如キハ直接鑛山監督署ノ認可ヲ受ケ又鑛業明細表其他採取明細表ノ如キ總テ直接ニ同署ヘ差出ス規定ナリ然ルニ獨リ探掘特許者ニアラサルモノ、製煉業ノ報告行業明細表ニ限リ地方廳ニ於テ取纏メ差出スカ如キハ徒ラニ之カ手數ヲ要スルノミナラス地方廳ニ於テ之ヲ報告シ又ハ該明細表ヲ取纏ムルノ必要ナキニ由ル
廣島縣	○廿五年七月農商務省訓令第廿二號 度量衡檢定規程 (第十八條末項) 同量ノ器ヲ檢査スルトキト雖モ每器ニ付本條ノ手續ヲ行フヘシ (第十七條二項) 大漏斗口ノ寸法	廢止	每器ニ付檢定用具ヲ使用セザルモ其間ニ差異ヲ生スルモノニアラサルヲ以テ之ヲ省略スルコトヲ得ハ檢定上利便甚カラス
富山縣	○二十六年農商務省訓令第百三十號 株式會社發起認可ヲ申請スルモノアルトキハ一項乃至八項迄一々項ヲ逐テ副申スルコト	廢止	此注口ヲ使用スルモノハ多量ノ粟粒ヲ降下セシメサルヘカラス然ルニ現行ノ注口ハ至テ狹小ナルヲ以テ非常ナル時間ヲ要スルヲ以テ事務ノ滯滞ヲ來ス
長崎縣	○廿七年農商務省訓令第十七號 農商務統計報告規程	郡市町村等ノ農商務統計調查委員ヲ一般ニ設置シ且之ニ手當ヲ給與ス	一々項ヲ逐テ副申スルモ實際其效ナキヲ以テ該當ノ部分ノミヲ詳記スレハ充分ナルヘシ

長崎縣	鹿兒島縣	宮崎縣	佐賀縣	福岡縣	新瀧縣
第四條 第五條 第六條	○廿七年農商務省訓令第廿七號 府縣農事試驗場規程ノ件 ○廿七年農商務省訓令第一號 官有山林原野事項報告式	(同上)	(同上)	(同上)	(同上)
第七條ノ認可ヲ要セサルコトニ改正ヲ望ム	第一號表乃至第五號表進達期限ヲ會計年度末ノ四月末日ニ改ム 第六號表曆年度末報告ヲ廢ス 第七號表ヲ廢ス 第八號表ヲ廢ス	一第六號表ハ曆年度分ヲ改メ會計年度ノ分ノミトス 一第七號表ハ第四號表ト重複ニ付キ削除 一第十一號第十三號表ハ當該年度ニ於テ處分シタルモノ、ミヲ掲記スルコト、ナシ其年季貸渡及年期拂下ニシテ既ニ前年度ニ報告シタルモノハ之ヲ省ク 四期及曆年度報告ヲ年一回ト改ム	一第六號表ハ曆年度分ヲ改メ會計年度ノ分ノミトス 一第七號表ハ第四號表ト重複ニ付キ削除 一第十一號第十三號表ハ當該年度ニ於テ處分シタルモノ、ミヲ掲記スルコト、ナシ其年季貸渡及年期拂下ニシテ既ニ前年度ニ報告シタルモノハ之ヲ省ク 四期及曆年度報告ヲ年一回ト改ム	一第六號表ハ曆年度分ヲ改メ會計年度ノ分ノミトス 一第七號表ハ第四號表ト重複ニ付キ削除 一第十一號第十三號表ハ當該年度ニ於テ處分シタルモノ、ミヲ掲記スルコト、ナシ其年季貸渡及年期拂下ニシテ既ニ前年度ニ報告シタルモノハ之ヲ省ク 四期及曆年度報告ヲ年一回ト改ム	一第六號表ハ曆年度分ヲ改メ會計年度ノ分ノミトス 一第七號表ハ第四號表ト重複ニ付キ削除 一第十一號第十三號表ハ當該年度ニ於テ處分シタルモノ、ミヲ掲記スルコト、ナシ其年季貸渡及年期拂下ニシテ既ニ前年度ニ報告シタルモノハ之ヲ省ク 四期及曆年度報告ヲ年一回ト改ム
手當若クハ慰勞金ヲ給與セサレハ實施上困難ノミナラス其責任薄ク効力又乏シキニ付各郡市町村ニ於テ凡農工商ノ三業中各一名ヲ選定シ之ニ年額金三圓若クハ五圓位ノ手當ヲ給與スルノ必要ヲ認ムルニ由ル	四期報告ノ手數ヲ省略セントスルニ由ル 第六號表ハ曆年度末及會計年度末兩樣報告ニシテ複雜且必要ナキモノナルヲ以テ其一方ヲ省略セントスルニ由ル 豫約貸地ハ假處分ニ屬スルノミナラス成功ノ際多クハ反別ニ異動ヲ生スルヲ以テ成功離權ノ際初メテ處分ノ確定スルモノナリ依テ之ヲ件別ニ細報スルノ手數ヲ省キ第九表ニ於テ個所面積人員ノミヲ目的種類別ニ取調報告スルコトニ改メントスルニ由ル 第四號表ニ於テ年度內豫約貸地ノ離權ニ係ルモノハ凡テ報告スルノ例ナルヲ以テ本表ヲ廢シ地目并當初目的種類等報告ノ必要アラハ第四表ニ於テ宜シク其不備ヲ補足セシメントスルニ由ル 官有山林原野處分ニ關シ其收入金ニ就テ詳細ノ義ハ二十年農商務省訓令第二號ニヨリ報告スヘキ例規アリ然ルニ上部欄内ノ訓令ニヨリ之レヲ報告スルハ往々重複ニ亘ルノ嫌ヒアリ故ニ第十一號第十三號表ノ如キハ當該年度ニ於テ處分シタルモノ、ミヲ報告スルコト、セントスルニ由ル 四期報告ヲ一回トナスモ官有山林原野ノ増減スルニ差支ラズスコトナク又曆年度報告ノ分ハ廢止スルモ格別差支ナク繁雜ヲ省キ便宜ト認ムルニ由ル	二第一號第二號第三號第四號第五號第七號第八號第十二號第十三號第十四號及第十五號表ハ其會計年度間處分若クハ取扱タル事項ヲ掲記スルモノトス 三第六號第九號表ハ每會計年度末ノ現在第十號第十一號表ハ其會計年度間貸付シタル總額ヲ掲記スルモノトス 四第一號乃至第十五號表ハ其年四月末日マテニ其應ヲ發シ本省ヘ進達スヘシ 右ノ如ク改正スルヲ要ス 但シ七ヲ五ニ以下順次繰上ケ	二第一號第二號第三號第四號第五號第七號第八號第十二號第十三號第十四號及第十五號表ハ其會計年度間處分若クハ取扱タル事項ヲ掲記スルモノトス 三第六號第九號表ハ每會計年度末ノ現在第十號第十一號表ハ其會計年度間貸付シタル總額ヲ掲記スルモノトス 四第一號乃至第十五號表ハ其年四月末日マテニ其應ヲ發シ本省ヘ進達スヘシ 右ノ如ク改正スルヲ要ス 但シ七ヲ五ニ以下順次繰上ケ	二第一號第二號第三號第四號第五號第七號第八號第十二號第十三號第十四號及第十五號表ハ其會計年度間處分若クハ取扱タル事項ヲ掲記スルモノトス 三第六號第九號表ハ每會計年度末ノ現在第十號第十一號表ハ其會計年度間貸付シタル總額ヲ掲記スルモノトス 四第一號乃至第十五號表ハ其年四月末日マテニ其應ヲ發シ本省ヘ進達スヘシ 右ノ如ク改正スルヲ要ス 但シ七ヲ五ニ以下順次繰上ケ	二第一號第二號第三號第四號第五號第七號第八號第十二號第十三號第十四號及第十五號表ハ其會計年度間處分若クハ取扱タル事項ヲ掲記スルモノトス 三第六號第九號表ハ每會計年度末ノ現在第十號第十一號表ハ其會計年度間貸付シタル總額ヲ掲記スルモノトス 四第一號乃至第十五號表ハ其年四月末日マテニ其應ヲ發シ本省ヘ進達スヘシ 右ノ如ク改正スルヲ要ス 但シ七ヲ五ニ以下順次繰上ケ

廣島縣	德島縣	鹿兒島縣	群馬縣
(同上)	○二十七年農商務省訓令第二號 鑛山ニ關スル件	○廿七年農商務省訓令第六號 鑛業條例施行細則第九條	○廿七年農商務省訓令第十四號 農商務統計樣式中會社票
二第一號第二號第三號第四號第五號第七號第八號第十二號第十三號第十四號及第十五號表ハ其會計年度間處分若クハ取扱タル事項ヲ掲記スルモノトス 三第六號第九號表ハ每會計年度末ノ現在第十號第十一號表ハ其會計年度間貸付シタル總額ヲ掲記スルモノトス 四第一號乃至第十五號表ハ其年四月末日マテニ其應ヲ發シ本省ヘ進達スヘシ 右ノ如ク改正スルヲ要ス 但シ七ヲ五ニ以下順次繰上ケ	試掘採掘ノ願書ハ地方廳ヲ經由シ地方廳ハ公害ノ有無ヲ審査シ其意見ヲ添ヘテ鑛山監督署ニ移ス 公益上害ノ有無ハ其鑛山ニ關係アル各府縣ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ム	鑛山監督署ヨリ直ニ村役場ヘ照會シ取調ヲナスコトニ改正ヲ要ス	同票中樣式會社ヲ削除
官有山林原野報告凡例中ニ第一號乃至第五號表ハ會計年度ヲ四期ニ分チ每三ヶ月中處分セシ事項ヲ一筆毎ニ掲記シ翌月末日マテニ其應ヲ發シ本省ヘ進達スヘシトアルヲ第七號第八號第十二號第十三號第十四號及第十五號表ト同一ニ會計年度間處分若クハ取扱タル事項ヲ掲記スルモノト改正又凡例中ニ第六號表ハ曆年度末及會計年度末ノ現在ヲ別表ニ調製シ曆年度末現在表ハ翌年二月末日マテニ會計年度末現在表ハ其年四月末日マテニ其應ヲ發シ本省ヘ進達スヘシトアルヲ第九號表ト同一ニ會計年度末ノ現在ニ依リ掲記スルモノト改正又第一號乃至第六號表ヲ第七號表以下諸表ト同一ニ毎年四月末日マテニ本省ヘ進達スルコトニ改正セントスルハ要スルニ四期報告ヲ一期ニ二期報告ヲ一期ニスル等報告上之カ手數ヲ省略セントスルニ由ル	試掘採掘ノ願書ハ一旦鑛山監督署ニ指出シ同署ヨリ地方廳ニ移シテ意見ヲ徵スルハ繁雜ノ嫌ヒアルヲ以テ先ツ地方廳ニ出シ地方廳ハ之レニ對シ意見ヲ付シテ監督署ニ送達スルノ順序ニ改メラレハ可ナラン其願書送達ノ日限ヲ定メハ延滞ノ弊ヲ防クヲ得ヘシ 公益上害ノ有無ニ關スルノ意見ハ其所在地地方廳ノミニ徵スル例ナルモ其關係ハ却テ隣府縣ニ存シテ大ナルモノアリ其害ノ有無ハ河川ノ流域等ニ依リ調査スルコト、シ關係府縣ノ意見ヲモ徵シテ其害ノ有無ヲ審按許否スルヲ穩當トスルニ由ル	現行法ハ監督署長ヨリ地方長官ニ通知シ地方長官ハ之ヲ願地ノ村長ニ照會シ調査セシムルモノニシテ其取扱複雜ナルカ故ニ之ヲ省略簡便ナラシメントス	株式會社ノ營業ハ明治九年布告第一六號同廿三年法律第七二號同廿六年農商務省令第十一號ニヨリ二年二回之ヲ農商務大臣又ハ大藏大臣ヘ報告スル規定ナルヲ以テ

滋賀縣	○廿七年農商務省訓令第十七號 米作開花ノ景況報告	廢止スルヲ要ス	農商務省ニ於テハ再ヒ地方廳ノ手ヲ勞セスシテ之ヲ調査シ得ルカ故ナリ
新潟縣	○廿七年農商務省訓令第十七號 統計樣式中食用及特用農產物 桑畑茶畑反別、牛馬ノ三表	毎年ノ調査ヲ每三年ノ調査統計ニ改ムルヲ	此三表ハ生産力ニ於テ著シキ盛衰ナキヲ以テ年々調査スルノ必要ヲ認メス若シ天災畜疫等豫期スヘカラザル災害アリテ爲メニ現在及ヒ其年ノ生産ニ異動ヲ來スカ如キコトアルトキハ特ニ設ケアル臨時報告ニ依テ調査シ得ルノ便アルヲ以テ毎年ノ調査ヲ每三年ノ調査統計ニ改ムルヲ至便ナリトスルニ由ル
新潟縣	同上漆汁	本表中漆樹數、製造戸數ノ二欄ヲ省キ產額ト價格トヲ記載スルニ止メタシ	樹數戸數ハ實際之ヲ調査スルニ至難ナリ元來漆掻ヲ業トスルモノハ多ク福島、福井、奈良等諸縣人ニシテ年々產地ニ來リ住居ヲ定メサルカ故ニ其調査極メテ困難ニ其樹數ノ如キモ漆林ニ就テ徵知スルニ非ス概テ山野若クハ圃場ノ周圍等ニ散在セルモノヲ綜合スルニ在レハ實際調査ニ困難ナルハ固ヨリ其所ナルヲ以テ上文ノ如ク省略センコトヲ望ム
新潟縣	同上織物	木表中織戸、機數、織工ノ三欄ヲ畧シ單ニ類別ニ依リ數量價格ノ統計ニ改メタシ	織物ノ生産者ハ重ニ農家ニシテ婦女子ノ副產品ニ過キス故ニ之カ織戸、機數、織工等ヲ調査統計スルハ頗ル難事ニ屬シ却テ其實數ヲ失スルノ恐レアリ寧ロ此三欄ヲ刪除スルヲ愈レリト思考スルニ由ル
新潟縣	同上會社業	廢止	會社ハ商法實施以來其會社ノ營業報告ヲ主務省ニ提出スルコトナリ居ルヲ以テ之ヲ材料トシテ統計スル方正確ニシテ且官民共ニ手數ヲ省クノ利アリ故ニ本表ノ調査統計ハ廢止スルヲ至當トス
新潟縣	同上賃錢	一年見通ニテ一日又ハ一ヶ月ノ賃錢ヲ掲記スルヲ改メタシ	本表賃錢ハ三月及九月ニ於テ見通シナルモ調査上困難ナルノミニテ別ニ其必要ヲ認メサルヲ以テ一年見通ニテ一日又ハ一ヶ月ノ賃錢ヲ掲記スルヲ改ムル方相當ナリト思考スルニ由ル

新潟縣	同上物價	一年見通ニ改ムルヲ	本表ハ三、六、九、十二月ノ四ヶ月ニ區分シ掲記スルモノナレバ實際ノ調査ニ手數ヲ要スルコト多キヲ以テ粗漏ナルモノ少ナカラズ爲メニ再三調査ニ往復時日ヲ要シ報告ノ期日ヲ誤ルコト比々是アリ依テ之ヲ一年見通ニ改ムルハ調査上ノ便ナルノミナラス事實ヲ得ルノ益アリ故ニ改正スルヲ必要ナリト思考ス
兵庫縣	○廿七年農商務省訓令第十七號 農商務統計報告 兩報告中重複又ハ類似ノモノアリ	重複ノモノハ一方ノ官廳ノミヘ報告スル事トシ類似ノモノハ可成一致セシメテ一方ノミヘ報告スル事	事務簡捷ヲ圖ル
廣島縣	○明治廿七年八月農商務省訓令 第廿七號府縣農事試驗場規程 (第七條) 地方長官ニ於テ農事試驗場ヲ設立シ若クハ補助セントスルトキ農商務大臣ノ認可ヲ受クルヲ (第八條) 農事試驗場ヲ設立シ若クハ補助シタルトキハ左ノ事項ヲ農商務大臣ニ届出ツルヲ 但シ第二項ハ毎年三月マテニ 其他ハ變更ノ都度 一 名稱、位置 二 經費ノ種別豫算額 三 試驗地ノ種別面積 四 建物ノ種別坪數 五 職員ノ履歷	農事試驗場ヲ設立シ若クハ補助シタルトキハ其名稱位置豫定事業經費豫算ヲ具シ農商務大臣ニ届出ツルコトニ改正スルヲ要ス	事務ノ敏活ヲ圖ル
廣島縣	○廿七年農商務省訓令第廿八號 (第三項前段) 農事水産巡回教師ニ關スル經費	廢止	本件ハ明治廿七年五月農商務省訓令第十七號農商務統計報告規程第三條ニ依リ毎年報告スル勸業費ノ内ニ包含スルコトニ相成リタシ

滋賀縣	德島縣	石川縣	長崎縣	富山縣	佐賀縣
○廿八年農商務省訓令第四號 鳥獸捕獲數届	○廿八年農商務省訓令第四號 狩獵法取扱手續第二條ノ報告ハ 毎月十五日迄前月分ヲ取纏メノ 件	○廿八年農商務省訓令第十四號 漁業取締等ニ關スル命令ハ農商 務大臣ヘ經伺ノ上施行スヘシ	○十九年農商務省訓令第十九號 獸醫手當ノ件	○廿九年農商務省訓令第二十一 號 株式合資合名會社ノ報告ハ毎年 六月十二月ノ兩度ニ提出ノコト	○廿四年農商務省內訓第四四六 號
廢止	廢止	廢止	廢止	廢止	廢止
地方長官ニ於テ學術研究其他特別ノ理由ニヨリ鳥獸ノ 捕獲ヲ許可シタルモノ及有害鳥獸ノ捕獲ヲ許可シタル モノハ其捕獲數ヲ届出ツヘキ規定ナレトモ此等ハ別ニ 其必要ナシト認ム	此類ノ報告ハ格別必要ナシト思料スルニ依リ毎月製表 通報ノ煩ヲ省カントスルニ由ル	事務ノ敏活ヲ圖ル	金額ノ制限ハ廢止スルヲ要ス	各會社ハ定款又ハ契約書ヲ以テ事業年度ヲ一年一回ト スルモノアルヲ以テ強テ六箇月毎ニ報告セントスルハ 困難ナルノミナラス實際正確ナル報告ヲ爲スヲ得且 之ヲ怠ル者ニ制裁ヲ附スルハ各會社業ノ發達及ヒ整理 ニ補益ヲ與フル統計報告ノ編製ヲ阻滯セシムルコトハ ナリ不利不便ハ至大ナルヲ以テナリ	官有原野豫約賣渡ノ義ニ付所轄大林區署ヘ照會スル必 要ハ明治廿四年中官有林野實況調査施行ニ際シ若シ官 有原野ニシテ官林保護且樹殖上必要ト見込ミノ場所ハ 官林ヘ編入スル趣ニテ林區署ニ照會スルコトニナリタ ルモノニシテ實況調査ヲ了ヘ編入ノ部分ハ既ニ編入済 ナレハ爾來ハ所轄大林區署ヘ問合スルノ必要ヲ認メサ ルニ由ル

山口縣	廣島縣	佐賀縣	滋賀縣
○廿四年四月山林局長通牒戊第 二三五號 官有山林原野貸渡ニ關スル一區 域ノ解釋	○廿五年農商務省內訓戊第二七 號 山林原野地立木官民有區別伺書 ニ添屬ノ證據書類ノ件	○廿五年山林局長通牒林第一一 二一五號 官有原野ニ部分木仕付許可ノ義 ニ付差支ノ有無所轄大林區署ヘ 照會ノ件	○廿五年農商務省內訓戊第二十 七號 土地立木官民有區別伺書ニ添屬 ノ證據書類ハ本紙并ニ寫トモ提
廢止	廢止	廢止	廢止
山林局長通牒ニヨレハ廿四年訓令第十號官有山林原野 ノ處分ニ關スル委任條例第九項中一區域トアルハ孤立 ノ原野ニシテ其反別五町歩以下ノケ所ヲ指スモノアリ 然レトモ訓令第九項ノ意味ヲ既味スルトキハ府縣限リ 貸渡スヘキ土地ノ制限ヲ定メタルモノニシテ地域ノ謂 ニ非ラサルヤ明カナリ加之他ノ類例ヨリ徵スルモ全ク 府縣限リ許可スヘキ範圍ヲ示サレタルモノニシテ土地 區域ノ廣狹ハ敢テ關係ヲ有セサルヘシ而シテ實際ノ利 害ニ付テ之ヲ觀ルニ貸渡ハ命令ヲ以テスルカ故ニ假令 ヒ一大區域ノ一部分ヲ貸與スルモ若シ其大區域ニシテ 必要アル場合ニ於テハ隨意ニ命令ヲ取消スコトヲ得ル ヲ以テ更ニ支障アルヲ見ス又本縣ノ狀況ニ於テ之ヲ觀 ルニ區域五町歩以上ノ原野夥多アリテ其幾部分ナル僅 少ノ貸渡ヲ出願スルモノモ不撓ヲ以テ通牒ノ如キ解釋 ヲナストキハ原野ノ全區域概テ五町歩以上ナルカタメ 一々經伺ノ手續ヲナサ、ルヲ得ス頗ル繁ニ涉ルヲ以テ 該通牒ハ取消サレタシ	證據書類ノ廢止セントスルハ既ニ本紙ヲ伺書ニ 添屬スルヲ以テ之カ廢止ノ手續ヲ省略セントスルニ由 ル	理由ハ廿四年農商務省內訓第四四六號廢止ノ理由ニ同 シ	證據書類寫ノミヲ添屬スルヲ改正セントスルハ官民 有區別ニ關スル證據書類ノ如キ其區別ニ關係ナキ事項 ヲモ合記シアリテ其本紙ハ之ヲ分割スルヲ得且本紙 ヲ提出スル限ハ數通ノ寫調製ヲ要スルヲ以テ其必要ノ

石川縣	出	○廿六年農務省令第二五一號 同業組合規則ノ外ニ係ル組合若クハ取締規則等ニ關スル命令ハ本省へ稟議スヘシ	稟議ヲ要セス處分スルコト	簡所ノミ寫取添屬スルヲ改正アラントテ希望スルニアリ
大分縣	廢止	○廿六年農務省令第二五一號 第二五一號廿八年農務省訓令第十四號 命令發布ノ際ハ稟議ヲ要ス	稟議ノ手續ヲ廢シ事後主務大臣へ報告スルヲ	地方長官ニ於テ處分スルハ處務簡捷ノ見込ニヨル
奈良縣	同上	(同上)	農商工ニ係ル取締規則發布ノ際ハ其規則ト準則トヲ問ハス豫メ本省へ稟議ヲ要スルノ順序ナリシカ本件ノ如キハ府縣知事ニ於テ取締規則ノ發布ヲ必要ト見認タルトキハ便宜發令シ然ル後主務大臣へ報告スルコトニ改メラレタシ蓋シ取締規則ヲ發布シテ以テ組合ヲ設ケシムルカ如キハ最モ其必要ヲ見認メタル上ニアラサレハ決シテ發布スヘキモノニアラス加フルニ其組合ニ於テ負擔スル費用ノ如キハ何レモ當業者ヨリ支出シ或ハ其幾分ヲ地方稅ヨリ補助スヘキモノナルヲ以テ本件ノ如キハ其經向ノ手續ヲ省キ他ノ縣令同様規則又ハ命令等發布ノ後主務大臣ニ報告スルコトニ改メラレンコトヲ望ム	事務簡捷ヲ計ルニ依ル
京都府	○廿六年六月農務省內訓令第一三〇號 同廿七年十月同省令第二四八號	調査事項ニ低觸スルモノハ意見ヲ具シ副申スヘキハ勿論ナレ其事項ニ低觸セザルモノハ別ニ副申ヲナサス地方長官捺印ノ上直ニ進達スルヲニ改メタシ	滿年ノ成規ヲ廢シ會計年度ニ改ム	多數ノ出願ニ對シ其調査事項ニ低觸セザルモノヲモ一々副申ノ上進達スルハ頗ル繁雜ニシテ其必要ナキモノト認ム
三重縣	○廿六年農務省令第二四八號 第一四四號 貸下地年季ノ算定	滿年ノ成規ヲ廢シ會計年度ニ改ム	官有土地森林原野ノ年ヲ以テ貸渡サントスルモノハ滿年ヲ以テ其許可ノ月ヨリ算定スヘキ旨明治廿六年第一四四號ヲ以テ農務省令第二四八號ニヨリ從來ノ手續ヲ一變シ追々處理致シ來ルト雖モ右算定法ヲ以テ將來ニ及ホストキハ貸下地ノ滿期トナルモノハ月々ニ現出シ隨テ繼年季貸下ノ處分ヲナスニモ月々ニ之ヲ要シ虛月ナキニ至ルヘシ之カ整理ヲ爲サントスルハ常ニ臺帳等ヲ通觀シテ一日モ怠ルヘカラサルノ手續ヲ煩雜ナル而已ナラス借受人ニ於テモ亦其期限ノ一定セサルカ爲メ滿期トナレルヲ知ラス或ハ繼年期限ノ時期ヲ過クルモノナキニアラサルヘシ如此實際手續上煩雜ニ涉リ官民共ニ不便不利トスルモノナレハ年々總テ會計ノ年度ニヨルヘキモノトシ其末期ハ三月ニ終ルモノトセハ年々一回ツ、整理ヲナスニ止リ且料金ノ收入ニ在テモ會計ノ年度ニ伴フヲ以テ至極便利ヲ得ヘキ次第ナリ右ハ敢テ得失ニ關セザルニ付從前曆年ヲ以テ貸渡セシ時ノ如ク初年貸渡ノ月ノ遲速ニ拘ハラス末年ハ會計年度ヲ以テ滿期トシ年數ヲ算フルヲニ改メタシ	但此改正ハ明治廿四年農務省訓令第十一號收入金徵收規程ニ低觸セザルモノト認ム

群馬縣	○廿八年丁第四五號商工局長通	本調査ニ類似ノ調査事項ハ豫メ一定シ置再三	本調査ノ別從來外國貿易概覽ノ材料、輸出入商況調査
富山縣	○廿七年農務省ヨリ送付 官有山野ニ關スル報告季報曆年 報會計年度報アリ	曆年報ヲ廢シ會計年度間ノ事項取纏メ翌年度 始メノ一回ニ報告シマシ	官有地ニ關スル報告ハ主管大臣明治廿三年勅令第二百七十五號官有財產管理規則第十七條ノ報告書調製ノ材料トシテ要セザル、モノト信スルヲ以テ年報ニ改正アルモ敢テ差支ナシト認メラレ且執務上ノ都合宜キヲ以テ改正ヲ望ムナリ
群馬縣	○廿七年山林局通知林第五三三八號 官有原野貸下地内ニ立木アルハハ證議相成ラサル件	廢止	本通牒ノ廢止ヲ要スルハ農事其他發達ニ伴ヒ開墾若クハ樹木栽植ノ爲メ立木地中最モ適當ノヶ所アルヲ以テ(本縣下ノ如キ無立木地ハ稀少ナリ)出願アリト雖モ右通牒ノ存スルヨリ惡木又ハ小苗木等點在スル爲證議スル能ハス故ニ其立木ヲ存置スルモ從來何等ノ用途ニ充タサルモノハ之カ特質ノ上事業地ニ供サシムル方適當ナレハナリ

兵庫縣	重要輸出品調査ノ件	調査スルノ手續ヲ省ク事	ノ如キ年々別ニ照會セラル、モ其事項或ハ重複スルモアリ或ハ瑣細ノ差異アルモノアリ此等重複ノモノヲ省キ瑣細ノ差異アルモノハ可成一定セシメテ取調ノ手數ヲ省カントヲ望ム
宮城縣	(同上)	此通牒ヲ廢シ更ニ調査例ヲ設ケ農商務統計樣式中ニ加ヘラレタシ	各品類中ニ調査例ナキヲ以テ各地ノ報告區々ニ涉リ一定ノ報告ヲ得ル能ハサルニヨリ毎品ニ調査例ヲ示ス統計樣式中ニ掲記アラントヲ望ム
埼玉縣	(同上)	輸出重要品要覽編纂材料中刪除ノ件	輸出重要品要覽編纂材料目中勸業定期報告ト重複ノ分ハ之ヲ省畧センコトヲ望ム
奈良縣	○二十八年丁第六〇號農務商工兩局長通知 各種同業組合取締規則ニ依リ設置シタル組合規約認可後報告ノ件	報告廢止	同業組合準則ノ範圍外ニ涉リ特ニ本省ノ認可ヲ經テ發布シタル各種同業組合取締規則ニ依リ設置スル組合ノ規約ハ認可ノ都度及其規約ノ改正追加等モ一々本省ヘ報告スルハ繁ニ涉ルノ嫌アルヲ以テ廢止セラレンコトヲ望ム
山口縣	(同上)	(同上)	此規約ハ同業組合設置ニ方リ豫メ認可ヲ經タル組合取締規則ノ範圍内ニ於テ定ムルモノナレハ既ニ其認可ヲ經タル規則ノ範圍内ニ於ケル規約若クハ其更正ナルヲ以テ敢テ報告ノ必要ナカルヘク殊ニ本縣ノ如キ各種ノ組合數實ニ五十有餘ノ多キニ涉リ從テ屢々更正ヲ申出ツルニ付非常ノ手數ト煩雜ヲ免レサルニヨリ該報告ハ廢セラレタシ
滋賀縣	(新設) 明治二十四年六月二十七日戊辰第三七八號地理山林ノ兩局長ノ通牒ニ依リ土地引渡方ヲ大林區署ヘ照會同署ヨリ所轄小林區署ヘ實地檢査ヲ命ジ小林區署ニ於テ實檢ノ上大林區署ヘ答申同署ヨリ更ニ主務大臣ヘ稟議指令ヲ得	土地引渡方ヲ大林區署ヘ請求シタル場合ニハ運クモ一ヶ月已内ニ實地ヲ受領シ得ルノ方法ヲ設定ス	直接公用ニ供スル爲メ官林ノ引渡ヲ請求シタル場合ニハ速ニ引渡ヲ受ルノ方法ヲ新設セントスルハ從來第二欄ノ手續ニ依リ其土地ヲ受領スルハ請求ノ日ヨリ三ヶ月乃至六ヶ月以上ニ及ヒ爲メニ其年度内ニ施行スヘキ道路及河川等ノ改修工事進行ニ著シキ差支アルヲ以テ第三欄ニ記入ノ期限内ニ受領シ得ヘキ方法ヲ設ケラレシコトヲ希望スルニアリ

富山縣	○廿四年農商務省告示第八號ノ内 隨意契約ヲ以テ官有森林原野及產物ヲ賣渡ストキハ契約書或ハ請書ヲ徵スヘシ	廢止	從來隨意契約ヲ以テ官有森林原野及產物等ノ賣渡ヲナスルハ願書ヲ提出セシメ許可指令ノ後ハ契約書或ハ受書ヲ徵スル規程ノ處契約書等ハ容易ニ提出セス爲メニ事務ノ澁滯ヲ來スハ既往ニ徵シ明ナルヲ以テ願書ニ許可ノ後遵守セシムヘキ條項ヲ記載セシメ置キ之ニ對シ許可指令ヲ爲シタル上ハ契約書等ヲ徵セサルコトナラハ官民共ニ手數ヲ減ス
福岡縣	○農商務省報告例 第十號第十一號第十二號第十三號ハ毎年報告ヲ要ス	農商務省官有山林原野事項報告表中第十號第十一號第十二號第十三號ニ年報ヲ記入シ許可ノ年度及繼續許可ノ年度内ニ一回報告スルコトニ改正ヲ要ス	產物受領土地使用其其年報中ハ毎年報告スルコトニ相成居候ヘレ此クテハ非常ノ手數ニ付年報ヲ記シ許可ノ年度内一回報告スルコトニ致度シ
神奈川縣	○八年十二月布告第九十五號 海面舊慣ニ依リ使用出願スルノ件	本法ハ不完全ナルヲ以テ更ニ之ヲ制定シタシ	現行法ハ不完全ニシテ實施上不便少ナカラサルヲ以テ速ニ完全ナル漁業法ヲ制定發布セラレンコトヲ要スルニ由ル
鹿兒島縣	○廿三年農商務省告示第六十八號 民有地ニ建設ノ電信柱手當金請求書ハ郡役所ニ取纏メ縣廳ヘ提出スルノ件	受領者ヨリ直ニ電信建築部ニ請求スルコトニ改定ヲ要ス	現行取扱ニテハ徒ニ手數ヲ要スルノミナルヲ以テ受領者ヨリ直ニ請求シ其交付モ亦直接取扱ニ改メントス
福岡縣 (新設)		海面ノ境界ニ關スル規定ヲ設クル事	漁業上等海面ニ涉ル縣界分明シ能ハサルニヨリ交々相爭論シ常ニ紛紜絶ヘサルニヨリ重ニ縣ト縣トノ海面區域ヲ確定シ以テ將來ノ紛雜ヲ豫防セントスルノ主旨ナリ
福岡縣 (同上)		官有山林原野ニ於テ避病院敷地トシテ反別一町歩以下賣却方委任ヲ要ス	避病院ノ如キハ普通ノ病院ト異リ至急ヲ要スル場合多キニヨリ墓地等ト同一ニ委任セラレンコトヲ望ム
德島縣 (同上)		講習所及試驗場地免稅ノ件	明治十七年布告第七號地租條例中公立學校敷地ハ免稅ノ法ナルモ農事講習所試驗場敷地及其實修ノ用地ハ免



税ノ規定ナク彼此權衡ヲ得ザルノミナラス將來實業上ノ發達ニ就キテモ大關係ヲ有スレハ公立農事其他講習所試驗場ノ敷地及其實修用地ハ公立學校敷地ト同様免稅セラレンコトヲ望ム

事務簡捷ニ關スル意見(會計検査院)

府 鹿兒島縣	現行規程大要 ○二十二年勅令第六十號 支出證明規程中計算書類提出ノ件	改廢及新設要領 會計規則第五十二條會計検査院ニ計算書類提出ノ件 第九十六條第九十八條中下検査ニ關スル件	改廢及新設事由 會計検査院検査官同補三十六人屬百六十人合計百九十六人ノ定員タリ全國北海道廳三府四十三縣ノ四十七ヶ所ニ平均三人宛派遣セララル、キハ百四十一人ヲ要シ本院尙ホ五十五人ノ剩餘アリ右派遣官ニシテ道廳府縣日々出納完結スル處ノ證據書類ヲ検査スル時ハ出納閉鎖ト同時ニ検査結了スルハ勿論事務簡捷ニ進行スルノミナラス無益ノ下検査ヲ執行スルノ煩ヲ省クノミナラス經費省略ノ點ニモ大ニ影響ヲ及ホセリ依テ廢止ト共ニ検査官派遣ヲ希望スル所以ナリ
新 潟 縣	○廿六年勅令第八十四號 物品會計規則 第一條 此規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他一切ノ動産ヲ云フ但陸海軍ノ兵備ニ關スルモノハ各其規則ニ依ル	第一條中消耗品ノ三字ヲ刪除	消耗品ハ其需用ノ時々購入シ拂渡スヘキモノニシテ備品ト性質異ルニヨリ之ニ對シテハ受拂簿ヲ設置シ物品會計規則ノ範圍外ニ爲サントスルニ由ル
鹿兒島縣	物品會計規則下検査ニ關スル事項 ○廿六年十二月検査院達第二號 支出證明規程	廢止 改正ヲ望ム	鹿兒島縣明治二十二年勅令第六十號ニ對スル事由ト同
三 重 縣	(同上)	物品購買ニ關スル領收證書ハ官有財産簿又ハ物品出納簿ヘ登記濟ノ年月日及購買ノ際直ニ消費シ物品出納簿ニ登記セサルモノハ其事由	支出證明上從來送金ノ分ニ對シテハ正當受取人ノ領收證ト金庫ノ領收證書トヲ提出セシモ重複證明ノ嫌アルヲ以テ何レカ一方ヲ以テ證明スルヲニ改正ヲ希望ス
廣 島 縣	物品購買ニ關スル領收證書ハ官有財産簿又ハ物品出納簿ヘ登記濟ノ年月日及購買ノ際直ニ消費シ物品出納簿ニ登記セサルモノハ其事由	物品購買ニ關スル領收證書ハ官有財産簿又ハ物品出納簿ヘ登記濟ノ年月日及購買ノ際直ニ消費シ物品出納簿ニ登記セサルモノハ其事由	物件ヲ購買スルトキハ其帖簿ニ登記スルモノハ固ヨリ漏洩ナク登記整理スルヲ以テ特ニ購買ニ關スル領收證書ヘ帳簿登記濟ノ年月日ヲ掲記セヌ又帳簿ニ登記セサ

岩手縣	(同上) 第十一條第三項 仕拂期限ノ定リタルモノニシテ其期限ニ先タチ若クハ支出ヲ爲シタルモノハ其事由ヲ領收證書ニ付記シ又轉任死亡退職等ノ事故ニ由リ支給ヲ止メタルトキハ其事由ノ報告ヲ要ス	ヲ附記スル規程ヲ廢セラレンコトヲ要ス	ルモノハ其事由ヲ附記セサルモ取締上不都合ナカラント思考ス故ニ手數省略ノ爲メ此規程ヲ廢止セラレンコトヲ望ム
兵庫縣	(同上) 第廿一條 金庫所在地外ニ於テ仕拂タル現金支拂濟領收證書ハ支出證書類ニ併セ編綴スルヲ要ス	廢止 金庫ヨリ會計検査院ニ提出スルコト、シ所管廳ハ金庫ノ命令領收證書ヲ以テ支出ノ證明ヲナス事	本項金庫領收證書ハ集合仕拂命令送金仕拂命令ノ受領ニ對シ提出スルモノナルカ故ニ支出ノ證明トシテ提出スル必要ヲ認メズ本文ノ證明ハ正當債主ノ領收證書ヲ提出スルヲ以テ足レリト信スルニ由ル
神奈川縣	(同上) 集合仕拂命令及送金仕拂命令ニ對スル金庫ノ領收證書ハ支出計算書ニ添付スル件	金庫ノ領收證書ハ支出計算書ニ添付提出セサルモノトシタシ	支出證明ニ於テ現金領收證書ノ整理ハ手數ヲ要スルコト實ニ甚カラス送金ハ金庫ノ責任ナルヲ以テ現金領收證書ハ金庫ヲシテ證明セシムルヲ可トス
神奈川縣	(同上) 支出計算書ハ各目ノ金額ヲ掲シ證書類ノ編纂ハ各目ニ區分スル件	各目ヲ總テ各項ニ改メタシ	正當債主ノ領收證書ヲ提出スル以上ハ之レカ必要ナキニ付之ヲ廢セハ幾分ノ手數ヲ省略シ得ルニ由ル
新潟縣	物品會計規則 第二條 (同上) 仕拂命令等發付方ニ關スル取扱手續及支出證明規程	第二條中消耗品ノ三字刪除 仕拂命令等發付方ニ關スル取扱手續中第四條二項中及ヒ支出證明規程第二十一條三項四項ヲ削除ス	各項即チ仕拂命令科目ニテ整理スレハ支出計算上ノ手數ヲ省略シ得ルニ由ル
德島縣	各省所管仕拂命令等發付ニ關スル取扱手續 (明治廿六年內務省訓令第二十號ト貫聯ス)	廢止セラレンコトヲ希望ス	新潟縣明治廿二年勅令第八十四號ニ對スル事由ト同シ

鹿兒島縣	(同上) 租稅外歲入調査額證明規程第三條契約書若クハ決議書提出ノ件	契約書又ハ決議書ノ提出ヲ止メ拂下貸下ノ理由地目地番反別拂受借受人ノ氏名其他檢査上必要ノ條件ヲ具載シタル製表ニ地方長官證明シ提出スルコトニ改ムルヲ要ス	地所ノ拂下ニ就テハ處分ノ後書類帳簿ノ照査上又ハ他日實地ノ再査ヲ要スル等ニテ一件書類ヲ要スルコトアリ殊ニ該拂下地所ニ就キ賦租ノ出願ヲナスモノアルニ當テハ稅務局トノ間ニ於テ書類ノ照査ヲ要スルヲモアリテ其書類ヲ完送スルコト處務上差支少ナカラス又地所ノ貸下ハ多クハ三年乃至五年以上ノ年期ヲ以テ貸下クルモノ十中八九ニ居ルヲ以テ之ヲ處分後直ニ證書類トシテ提出スルハ其提出中契約ノ違犯ヲ處分シ若クハ國ノ使用ニ供スル爲メ契約ヲ解除シ返還ヲ命スル等ノ事故アルニ當リ處分上忽チ差支ヲ生スルコトアリ故ニ之ヲ改ムルノ必要ヲ認ム
三重縣	○廿七年三月會計検査院達第八號 租稅外諸收入金測定額計算書	廢止セラレンコトヲ希望ス	該計算書ハ測定官ニ於テ測定セシ員額ヲ細密ニ區分セシモノニテ之ヲ調製スルニ數十日間ノ日子ヲ要シ其手數容易ナラス然ルニ二十七年三月同院達第九號ニヨリ收入官吏ヨリ提出スル收入計算書ニ在テモ測定額ヲ毎目掲載スル規定ナルヲ以テ同時ニ同院ニ差出ス計算書双方ニ掲載スルハ重複ノ憂アリ唯其細密ニ掲載スルト否ラザルトノ區別アルノミ依テ測定ノ員額ハ收入計算書ニ掲載スルニ止メ測定官ハ其末尾ニ保證スルコトトシ計算書ハ廢止セラレンコトヲ希望ス
群馬縣	(同上) 租稅外歲入測定額證明規程	證明事項ヲ簡ニスル事 計算書々式中內譯ノ廢止并地所建物拂下ノ憑證書ハ金額二百圓以上ノコトニ改正	空シク手數ヲ要スルノミニシテ監督上細別迄調査スルノ要ナキト認メシニ由ル
東京府	(同上)		第一條ニ依リ歲入測定官ヨリ證明スヘキ計算書ハ單ニ年度內測定シタル金額ヲ證明スルニアリ然ルニ收入ニ對シテハ別ニ收入官吏ヨリ收入計算書ヲ出スヲ以テ右

新 潟 縣	同上	第一條書式中扶助法納金及製艦費一人別ノ記載ヲ數人分合記ニ改ムルヲ	規程ノ如ク精密ニ涉ル手數ヲ要セサルモ證明上差支ナシ即チ經常部ニ於ケル地所貸下料ヲ細目ニ區分セシ地目毎ニ製艦シ又製艦費納金ノ收入ヲ一人別トナサス其他物品拂下代ノ目ニ於テハ廳中不用品等ニ區分シ僅少ナル品名ノ記載ヲ省ク方可ナラン乎
德 島 縣	租稅外歲入調定額證明規程別記書式中官吏遺族扶助法納金及製艦費納金記載方ハ官氏名別ニ詳記ス	官吏遺族扶助法納金及製艦費納金記載方ニ係ル官氏名別ヲ廢シ單ニ勅任奏任判任ニ區別シタル調定濟額ノミヲ記載ス	租稅外歲入調定額證明規程別記書式中官吏遺族扶助法納金ニ係ル各官氏名別ノ納金調ハ其歲出ニ於テ明數ナルニ尙且歲入ニ於テ各人別ニ列記スルカ如キハ其手數ヲ累テ別ニ効果ヲ認メス故ニ勅任奏任判任ヲ區別シタル調査濟額ノミヲ記載セントスルニ由ル
長 野 縣	(同上)	氏名別ヲ廢シ各官別又ハ各官等級別ニ改正ヲ要ス	租稅外收入調定計算書々式ニ依レハ各人別ニ其異動金額事由等ヲ掲載スルノ手續ニシテ調製上頗ル手數ヲ要シ繁雜ヲ免カレサル次第ナリシカ同書式中懲罰及沒收金ニ於ケル罰金料ノ如キ辨償金ニ於ケル國稅滯納處分費辨納金間接國稅犯則者處分費辨納金ノ如キ郵便電信收入ニ於ケル電話料私書函料ノ如キ總テ何某外人納又ハ何々罰金何料或ハ何々手數料何々送達費トアリテ納人ノ誰タルヲ問ハス其種類ニ依テ統計記載スルノ例ナルヲ以テ本項納金ノ如キモ上文ノ通省略ヲ要スル所以ナリ
三 重 縣	○廿七年三月達第九號 現今出納計算書	廢止セラレンコトヲ希望ス	該計算書ハ毎目ノ現金領收額ヲ記載スルモノナリ而シテ收入官吏收入計算書ニ在テモ現金領收額ヲ掲載スルヲ以テ收入官吏ニ於テ現金領收セシモノハ收入計算書ヘ掲載スルニ止メ現金收入計算書ヲ廢止セラレンコトヲ希望ス
三 重 縣	○廿七年一月達第三十六號檢査院部長照會	廢止	該明細書ハ支出ノ科目人員人名ヲ掲載スルモノナリ然ルニ毎月支出計算書ニ於テモ支出ノ月別科目金額

鹿 兒 島 縣	○廿七年達第十號 租稅歲入調定額證明規程第四條 證憑書提出ノ件	原議書ノ提出ヲ止メ檢査上ノ證憑トシテハ其拂下ノ原由地目反別地番拂受人ノ住所氏名等ヲ製表之ニ地方長官證明提出スルコトニ改ムルヲ要ス	官有地ヲ民有地トナスモノハ多クハ特別處分規則ニ基キ拂下ノ處分ヲナシタルモノナリ然ルニ其原議書ハ他ノ事件ニ關聯スルコトアリテ參考上必要ナル場合不少殊ニ拂受人ニ於テ賦租ノ出願後ル、時ノ如キハ數閱月又ハ數年ノ後ニ於テ原議書ノ必要ヲ生シ爲ニ其處分年度ニ於テ一件書類ノ完結ヲ見サル等實際不便宜處理上困難ナルヲ以テ之ヲ改ムルハ大ニ處務ノ進行ヲシテ敏捷ナラシムルヲ得ヘシ
長 野 縣	(新設)	收入支出ノ計算書ハ共ニ勅令ヲ以テ其檢査判決ノ期限ヲ定メラレンヲ要ス	收入支出計算書提出ノ期限ハ會計規則中夫々明文ノ存スルアリテ之ヲ怠ルコトヲ得スト雖其檢査判決ノ期限ナキ爲メ檢査院自ラ定メタル行務年度ナルモノアリト雖其實際ニ行ハレ居ラサルヤニ認メラレ提出後數ヶ月若クハ一ケ年餘ヲ經過セシ後ニ至リ往々審理書ヲ發セラル、コトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ證明者既ニ死亡シ又ハ他廳ニ轉任シ若クハ所在不分明等ノ爲メ答辯上差支ヲ生スルコト之アリ又身元保證金ヲ納付シタル者ニ於テハ判決ナキ爲メ必受ノ金員モ永年月間之カ拂戻ヲ請求シ難ク旁大ニ其不便ヲ感ス是本項期限ノ制定ヲ要スル所以ナリ
長 野 縣	每月未到達領收證憑明細書	原議書ノ提出ヲ止メ檢査上ノ證憑トシテハ其拂下ノ原由地目反別地番拂受人ノ住所氏名等ヲ製表之ニ地方長官證明提出スルコトニ改ムルヲ要ス	ヲ掲ケ重複ノ嫌ヒアルヲ以テ該明細書ヲ廢止セラレンコトヲ希望ス



